

DOCKET NO.: 266419US6PCT

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Daisuke KUROSAKI, et al.

SERIAL NO.: NEW U.S. PCT APPLICATION

FILED: HERewith

INTERNATIONAL APPLICATION NO.: PCT/JP03/12459

INTERNATIONAL FILING DATE: September 30, 2003

FOR: DATA PROCESSING APPARATUS, DATA PROCESSING METHOD AND PROGRAM,
 AND DATA PROCESSING SYSTEM

**REQUEST FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. 119
 AND THE INTERNATIONAL CONVENTION**

Commissioner for Patents
 Alexandria, Virginia 22313

Sir:

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that
 the applicant claims as priority:

<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NO</u>	<u>DAY/MONTH/YEAR</u>
Japan	2002-288623	01 October 2002

Certified copies of the corresponding Convention application(s) were submitted to the
 International Bureau in PCT Application No. PCT/JP03/12459. Receipt of the certified
 copy(s) by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been
 acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.

Respectfully submitted,
 OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
 MAIER & NEUSTADT, P.C.

Surinder Sachar

Gregory J. Maier
 Attorney of Record
 Registration No. 25,599
 Surinder Sachar
 Registration No. 34,423

Customer Number
22850

(703) 413-3000
 Fax No. (703) 413-2220
 (OSMMN 08/03)

BEST AVAILABLE COPY

PATENT COOPERATION TREATY

Rec'd PCT/PIU

15 MAR 2005

From the INTERNATIONAL BUREAU

PCT

NOTIFICATION CONCERNING
SUBMISSION OR TRANSMITTAL
OF PRIORITY DOCUMENT

(PCT Administrative Instructions, Section 411)

To:

INAMOTO, Yoshio
711 Building 4F, 11-18, Nishi-
Shinjuku 7-chome
Shinjuku-ku, Tokyo 160-0023
Japan

Date of mailing (day/month/year) 24 October 2003 (24.10.03)	IMPORTANT NOTIFICATION
Applicant's or agent's file reference 656-S03P1177	
International application No. PCT/JP03/12459	International filing date (day/month/year) 30 September 2003 (30.09.03)
International publication date (day/month/year) Not yet published	Priority date (day/month/year) 01 October 2002 (01.10.02)
Applicant SONY CORPORATION et al	

1. The applicant is hereby notified of the date of receipt (except where the letters "NR" appear in the right-hand column) by the International Bureau of the priority document(s) relating to the earlier application(s) indicated below. Unless otherwise indicated by an asterisk appearing next to a date of receipt, or by the letters "NR", in the right-hand column, the priority document concerned was submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b).
2. This updates and replaces any previously issued notification concerning submission or transmittal of priority documents.
3. An asterisk(*) appearing next to a date of receipt, in the right-hand column, denotes a priority document submitted or transmitted to the International Bureau but not in compliance with Rule 17.1(a) or (b). In such a case, **the attention of the applicant is directed** to Rule 17.1(c) which provides that no designated Office may disregard the priority claim concerned before giving the applicant an opportunity, upon entry into the national phase, to furnish the priority document within a time limit which is reasonable under the circumstances.
4. The letters "NR" appearing in the right-hand column denote a priority document which was not received by the International Bureau or which the applicant did not request the receiving Office to prepare and transmit to the International Bureau, as provided by Rule 17.1(a) or (b), respectively. In such a case, **the attention of the applicant is directed** to Rule 17.1(c) which provides that no designated Office may disregard the priority claim concerned before giving the applicant an opportunity, upon entry into the national phase, to furnish the priority document within a time limit which is reasonable under the circumstances.

<u>Priority date</u>	<u>Priority application No.</u>	<u>Country or regional Office or PCT receiving Office</u>	<u>Date of receipt of priority document</u>
01 Octo 2002 (01.10.02)	2002-288623	JP	17 Octo 2003 (17.10.03)

The International Bureau of WIPO
34, chemin des Colombettes
1211 Geneva 20, Switzerland

Facsimile No. (41-22) 338.70.10

Authorized officer

Arounni WETZLER (Fax 338 7010)

Telephone No. (41-22) 338 8359

PCT/JP 03/12459

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

Rec'd PCT/PTO

15 MAR 2005

30:09:03

REC'D 17 OCT 2003

WIPO

PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2002年10月 1日

出願番号
Application Number: 特願2002-288623
[ST. 10/C]: [JP 2002-288623]

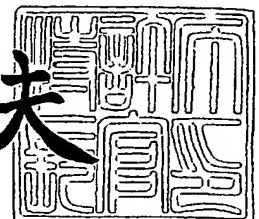
出願人
Applicant(s): ソニー株式会社

**PRIORITY
DOCUMENT**
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 8月11日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 0290621704

【提出日】 平成14年10月 1日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/00
H04N 5/44

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

【氏名】 黒崎 大輔

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

【氏名】 野村 康夫

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代理人】

【識別番号】 100082131

【弁理士】

【氏名又は名称】 稲本 義雄

【電話番号】 03-3369-6479

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 032089

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9708842

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 データ処理装置、データ処理方法、およびプログラム、並びにデータ処理システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 情報を表示する表示手段に表示させる EPG(Electronic Program Guide)を作成するデータ処理を行うデータ処理装置において、

番組を案内する番組案内データを取得する番組案内データ取得手段と、

番組について、ユーザの興味の度合いを表す統計データを取得する統計データ取得手段と、

前記番組案内データと統計データとを重畳した EPG を作成する EPG 作成手段と

を備えることを特徴とするデータ処理装置。

【請求項 2】 前記統計データは、番組を、その放送時間帯に視聴した人数、番組の、その放送時間帯における視聴率、番組の録画予約を行った人数、放送時間帯に録画された番組を再生して視聴した人数、または番組に対するユーザの感想を表す好感度のうちの少なくとも 1 以上を含む

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 3】 前記統計データは、ユーザのユーザ端末から送信されてくる情報に基づいて求められるものであり、

前記番組の、その放送時間帯における視聴率は、所定の期間内に、所定の回数以上の情報の送信を行った前記ユーザ端末のユーザの人数を母数として求められる

ことを特徴とする請求項 2 に記載のデータ処理装置。

【請求項 4】 前記 EPG 作成手段によって作成された最新の前記 EPG を、ユーザのユーザ端末に送信する EPG 送信手段をさらに備える

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 5】 各ユーザについて、そのユーザが行った番組の視聴に関するアクションの履歴である履歴データを取得する履歴データ取得手段をさらに備え、

前記 EPG 作成手段は、前記番組案内データ、統計データ、および履歴データを

重畳した前記EPGを作成する

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 6】 ユーザのユーザ端末に所定の処理を行わせるときに操作される操作データを取得する操作データ取得手段をさらに備え、

前記EPG作成手段は、前記番組案内データ、統計データ、および操作データを重畳した前記EPGを作成する

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 7】 前記EPG作成手段は、前記番組案内データが、番組の放送状況ごとに異なる表示態様で表示される前記EPGを作成する

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 8】 前記EPG作成手段は、前記番組案内データが、放送が終了した番組、放送中の番組、未放送の番組それぞれごとに異なる表示態様で表示される前記EPGを作成する

ことを特徴とする請求項 7 に記載のデータ処理装置。

【請求項 9】 前記EPG作成手段において作成されるEPGは、webブラウザで表示可能なものである

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 10】 前記EPG作成手段において作成されるEPGは、専用のブラウザで表示可能なものである

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 11】 ユーザのユーザ端末から送信されてくる情報を集計し、前記統計データを求める集計手段をさらに備え、

前記統計データ取得手段は、前記集計手段で求められた前記統計データを取得する

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 12】 前記ユーザ端末から送信されてくる情報は、番組を、その放送時間帯に視聴したことを表す第 1 の情報、放送時間帯に録画された録画番組を再生して視聴したことを表す第 2 の情報、または番組の録画予約もしくはその予約の取り消しを行ったことを表す第 3 の情報である

ことを特徴とする請求項 11 に記載のデータ処理装置。

【請求項 13】 前記第 1 の情報は、ユーザが視聴した番組を特定する情報と、番組の視聴の日時とを含み、

前記第 2 の情報は、ユーザが視聴した録画番組を特定する情報と、ユーザが視聴した録画番組の放送日時を基準とする録画番組の視聴の日時とを含み、

前記第 3 の情報は、録画予約もしくはその取り消しが行われた番組を特定する情報と、録画予約もしくはその取り消しを表す情報とを含む

ことを特徴とする請求項 12 に記載のデータ処理装置。

【請求項 14】 前記第 1 と第 2 の情報は、番組に対するユーザの感想を表す好感度をさらに含む

ことを特徴とする請求項 13 に記載のデータ処理装置。

【請求項 15】 前記第 2 の情報は、ユーザが録画番組を視聴した実際の視聴の日時をさらに含む

ことを特徴とする請求項 13 に記載のデータ処理装置。

【請求項 16】 前記ユーザ端末から送信されてくる情報は、番組の放送日時に関する日時情報を含み、

前記集計手段は、前記ユーザ端末から送信されてくる情報を、その情報に含まれる前記日時情報に基づいて、所定の時間間隔ごとに集計する

ことを特徴とする請求項 11 に記載のデータ処理装置。

【請求項 17】 前記集計手段は、前記ユーザ端末から送信されてくる情報を、ユーザごとに分けて保存する

ことを特徴とする請求項 11 に記載のデータ処理装置。

【請求項 18】 前記集計手段は、前記ユーザ端末から送信されてくる情報が有効な情報であるかどうかを判定し、有効な情報のみを集計の対象とする

ことを特徴とする請求項 11 に記載のデータ処理装置。

【請求項 19】 前記集計手段は、前記ユーザ端末から送信されてくる情報を、ユーザの属性ごとに集計する

ことを特徴とする請求項 11 に記載のデータ処理装置。

【請求項 20】 前記ユーザ端末から送信されてくる情報は、番組に対する

ユーザの感想を表す好感度を含み、

前記集計手段は、前記好感度を、番組ごとに集計する

ことを特徴とする請求項 11 に記載のデータ処理装置。

【請求項 21】 前記 EPG 作成手段は、1 日分の前記番組案内データが 1 ページに表示される EPG を作成する

ことを特徴とする請求項 1 に記載のデータ処理装置。

【請求項 22】 情報を表示する表示手段に表示させる EPG (Electronic Program Guide) を作成するデータ処理を行うデータ処理方法において、

番組を案内する番組案内データを取得する番組案内データ取得ステップと、

番組について、ユーザの興味の度合いを表す統計データを取得する統計データ取得ステップと、

前記番組案内データと統計データとを重畳した EPG を作成する EPG 作成ステップと

を備えることを特徴とするデータ処理方法。

【請求項 23】 情報を表示する表示手段に表示させる EPG (Electronic Program Guide) を作成するデータ処理を、コンピュータに行わせるプログラムにおいて、

番組を案内する番組案内データを取得する番組案内データ取得ステップと、

番組について、ユーザの興味の度合いを表す統計データを取得する統計データ取得ステップと、

前記番組案内データと統計データとを重畳した EPG を作成する EPG 作成ステップと

を備えることを特徴とするプログラム。

【請求項 24】 情報を送信するサーバと、
前記サーバからの情報を受信するユーザ端末と
を備えるデータ処理システムにおいて、

前記サーバまたはユーザ端末のうちの一方が、

番組を案内する番組案内データを取得する番組案内データ取得手段と、

番組について、ユーザの興味の度合いを表す統計データを取得する統計データ

取得手段と、

前記番組案内データと統計データとを重畳したEPGを作成するEPG作成手段とを有する

ことを特徴とするデータ処理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、データ処理装置、データ処理方法、およびプログラム、並びにデータ処理システムに関し、EPGに、番組を案内する番組案内データとともに、番組についてのユーザの興味の度合いを表す統計データを表示することにより、ユーザがEPGを見るだけで、番組の視聴や録画を行う判断等を行うことができるようにするデータ処理装置、データ処理方法、およびプログラム、並びにデータ処理システムに関する。

【0002】

【従来の技術】

例えば、テレビジョン放送番組などの番組についての、ユーザ（視聴者）の興味の度合いを表す統計データとしては、視聴率がある。

【0003】

そして、例えば、特許文献1では、リアルタイムに視聴率をフィードバックして自己のテレビに表示するとともに、録画装置によって後刻再生した場合の視聴率も、その再生中に表示することが記載されている。

【0004】

また、例えば、特許文献2では、予測視聴率のランキングを、テレビモニタ7に表示し、ユーザによる選局の用に供することが記載されている。

【0005】

さらに、例えば、特許文献3では、インターネット接続機能付きテレビにおいて、視聴チャンネルと視聴時間とから、ユーザが視聴している番組を特定し、その番組の番組IDを集計センタに送信する一方、集計センタにおいて、番組IDから視聴率を求めることが記載されている。

【 0 0 0 6 】

【特許文献 1】

特開2001-320743号公報

【特許文献 2】

特開2002-10153号公報

【特許文献 3】

国際公開第98/26608号パンフレット

【 0 0 0 7 】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、現在のように、テレビジョン放送の多チャンネル化が進むと、番組の案内する番組タイトルや概要などの番組案内データが表示された紙メディアの番組表や、電子メディアのEPG(Electronic Program Guide)を見て、視聴する番組を決定するのは、煩雑である。

【 0 0 0 8 】

そこで、上述の特許文献 2 に記載されているように、予測視聴率のランキングを、テレビモニタ 7 に表示し、ユーザによる選局の用に供することで、ユーザは、予測視聴率のランキングを、人気のバロメータとして、容易に、視聴する番組を決定することが可能となる。

【 0 0 0 9 】

しかしながら、特許文献 2 に記載の方法では、予測視聴率のランキングが、単特で表示されるだけであるため、例えば、いつ、どのチャンネルで放送される番組が、どの程度の予測視聴率を獲得しているのかが分かりにくい。即ち、例えば、同一時間帯に各チャンネルで放送される番組の中で、どのチャンネルの番組の予約視聴率が高いのかといった比較をしにくい。また、あるチャンネルで放送される番組の視聴率や、ある 1 日に放送される番組の視聴率を知ることも困難である。

【 0 0 1 0 】

一方、EPGには、各チャンネルで放送される番組を案内（説明）する番組案内データが、放送時間帯や放送時刻ごとに区分されて表示される。従って、EPGに

において、各番組の番組案内データとともに、その番組についての視聴率などのユーザの興味の度合いを表す統計データを表示することができれば、ユーザは、そのEPGを見るだけで、番組の視聴や録画を行う判断を、より一層容易に行うことが可能となる。

【0011】

本発明は、このような状況に鑑みてなされたものであり、番組の視聴や録画を行う判断等を、より一層容易にするユーザインタフェースとしてのEPGを提供することができるようにするものである。

【0012】

【課題を解決するための手段】

本発明のデータ処理装置は、番組案内データと統計データとを重畳したEPGを作成するEPG作成手段を備えることを特徴とする。

【0013】

本発明のデータ処理方法は、番組案内データと統計データとを重畳したEPGを作成するEPG作成ステップを備えることを特徴とする。

【0014】

本発明のプログラムは、番組案内データと統計データとを重畳したEPGを作成するEPG作成ステップを備えることを特徴とする。

【0015】

本発明のデータ処理システムは、サーバまたはユーザ端末のうちの一方が、番組案内データと統計データとを重畳したEPGを作成するEPG作成手段を有することを特徴とする。

【0016】

本発明のデータ処理装置、データ処理方法、およびプログラム、並びにデータ処理システムにおいては、番組案内データと統計データとを重畳したEPGが作成される。

【0017】

【発明の実施の形態】

図1は、本発明を適用した放送システムの一実施の形態の構成例を示している

【0018】

放送局1は、例えば、テレビジョン放送番組としての画像データおよび音声データを、無線または有線によって放送する。なお、図1では、1つの放送局1しか図示していないが、放送局は、複数設けることができる。また、放送局1としては、地上波放送、衛星放送、CATV(Cable Television)網、インターネットテレビ放送、その他のあらゆる手段によって番組放送を行う放送局を採用することができる。さらに、ここでは、放送局1では、テレビジョン放送を行うこととしたが、放送局1では、その他、例えば、ラジオ放送や、ゲーム等のコンピュータプログラムおよびデータ、その他の各種のデータ放送を行うようにすることも可能である。

【0019】

ユーザ端末2₁, 2₂, 2₃, ... は、放送局1から放送されてくる番組を受信し、その番組に対応する画像を表示するとともに、その番組に対応する音声を出力する。これにより、ユーザ端末2₁, 2₂, 2₃, ... それぞれのユーザは、放送局1から放送されてくる番組を視聴することができる。

【0020】

ここで、以下、適宜、ユーザ端末2₁, 2₂, 2₃, ... を、特に区別する必要がない限り、まとめて、ユーザ端末2と記載する。

【0021】

ユーザ端末2では、上述したように、放送局1から放送されてくる番組を視聴することができる他、その録画を行うことができるようになっている。さらに、ユーザ端末2では、録画した番組を再生して視聴することができるようになっている。

【0022】

また、ユーザ端末2は、ネットワーク3を介して、サーバシステム4に接続することができるようになっている。そして、ユーザ端末2は、ユーザが行った番組の視聴に関するアクションなどの情報を、サーバシステム4にアップロードする。さらに、ユーザ端末2は、サーバシステム4から、EPGまたはEPGを作成す

るのに必要なデータをダウンロードし、そのEPGを表示する。

【0023】

ここで、ネットワーク3としては、有線または無線の電話回線や、CATV網、インターネット、その他のあらゆるネットワークを採用することが可能であるが、ここでは、例えば、インターネットを採用することとする。

【0024】

サーバシステム4は、ユーザ端末2から送信されてくる情報を集計し、各番組について、ユーザの興味の度合いを表す統計データを求める。また、サーバシステム4は、放送局1で放送される番組の番組案内データを管理しており、その番組案内データと統計データを、ユーザ端末2に送信し、あるいは、それらの番組案内データと統計データとを重畳したEPGを作成して、ユーザ端末2に送信する。

【0025】

これにより、ユーザ端末2では、番組案内データと統計データとが重畳（反映）されたEPGが表示される。

【0026】

次に、図2は、図1のユーザ端末2のハードウェア構成例を示している。

【0027】

本実施の形態では、ユーザ端末2は、いわゆるノート型あるいはデスクトップ型等のコンピュータをベースとして構成されている。

【0028】

CPU(Central Processing Unit)11は、例えば、ユーザによって入力部16が操作等されることにより指令が入力されると、それにしたがって、ROM(Read Only Memory)12に格納されているプログラムを実行する。あるいは、また、CPU11は、HD(Hard Disk)15に格納されているプログラム、衛星若しくはネットワークから転送され、通信部18で受信されてHD15にインストールされたプログラム、またはドライブ22に装着されたフレキシブルディスク、CD-ROM(Compact Disc Read Only Memory)、MO(Magneto Optical)ディスク、DVD(Digital Versatile Disc)、磁気ディスク、半導体メモリなどのリムーバブル記録媒体23から

読み出されてHD 15にインストールされたプログラムを、RAM(Random Access Memory) 14にロードして実行する。これにより、CPU 11は、後述するフローチャートにしたがった処理を行う。

【0029】

ROM 12は、例えば、IPL(Initial Program Loading)やBIOS(Basic Input Output System)のプログラムその他のファームウェアを記憶している。なお、ROM 12に代えて、書き換え可能なEEPROM(Electrically Erasable Programmable ROM)を採用することが可能であり、この場合、ファームウェアのバージョンアップに対処することができる。

【0030】

メモリコントローラ 13は、例えば、DMA(Direct Memory Access)コントローラで構成され、RAM 14に対するデータの読み書きを制御する。RAM 14は、CPU 11が実行するプログラムや、CPU 11が処理を行う上で必要なデータを一時記憶する。HD15は、コンピュータにインストールされたプログラム（アプリケーションプログラムの他、OS(Operating System)なども含まれる）や、CPU 11が処理を行う上で必要なデータを記憶する。さらに、HD 15は、後述する画像処理ボード 19がバス上に出力するデータなども記憶する。

【0031】

入力部 16は、例えば、キーボードや、マウス、マイク（マイクロフォン）などで構成され、ユーザによって操作等される。そして、入力部 16は、ユーザによる操作等に対応する信号（音声による指令なども含まれる）を、CPU 11に供給する。出力部 17は、例えば、ディスプレイやスピーカなどで構成され、そこに供給される画像または音声を、それぞれ表示または出力する。通信I/F(Interface) 18は、例えば、IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers)1394ポートや、USB(Universal Serial Bus)ポート、LAN(Local Area Network)接続用のNIC(Network Interface Card)などで構成され、各規格に応じた通信制御を行う。また、通信I/F 18は、アナログモデムや、TA(Terminal Adapter)およびDSU(Digital Service Unit)、ADSL(Asymmetric Digital Subscriber Line)モデム等の電話回線を通じて、インターネットであるネットワーク 3に接続する

ことができる手段を有しており、これにより、ユーザ端末 2 は、通信 I/F 18 からネットワーク 3 に接続することができるようになっている。

【0032】

画像処理ボード 19 は、TV(Television)チューナ 20 とエンコーダ／デコーダ 21 とから構成されている。TVチューナ 20 は、アンテナ 24 から供給される放送局 1 等が放送する番組の信号から所定のチャンネルの信号を、検波、復調し、その復調の結果得られる番組としての画像データおよび音声データを、エンコーダ／デコーダ 21 に供給する。エンコーダ／デコーダ 21 は、TVチューナ 20 から供給される画像データおよび音声データを、そのままバス上に出力し、または、例えば、MPEG(Moving Picture Experts Group)方式やDV(Digital Video)方式などの所定の規格にしたがってエンコードし、その結果得られるエンコードデータを、バス上に出力する。また、エンコーダ／デコーダ 21 は、バスを介して供給されるエンコードデータを、例えば、MPEG方式やDV方式などの所定の規格にしたがってデコードし、その結果得られる画像データおよび音声データを、バス上に出力する。

【0033】

ドライブ 22 は、リムーバブル記録媒体 23 の着脱が可能となっており、リムーバブル記録媒体 23 に記録されたデータ（プログラムを含む）を読み出して、バス上に出力し、また、バスを介して供給されるデータを、リムーバブル記録媒体 23 に書き込む（記録する）。

【0034】

アンテナ 24 は、放送局 1（図 1）から放送されてくる番組の信号を受信し、画像処理ボード 19 の TVチューナ 20 に供給する。

【0035】

なお、CPU 11 乃至画像処理ボード 19、ドライブ 22 は、ユーザ端末 2 としてのコンピュータ内部のバスを介して相互に接続されている。

【0036】

以上のように構成されるユーザ端末 2 としてのコンピュータでは、CPU 11 がコンピュータにインストールされたプログラムを実行することにより、後述する

各種の処理が行われる。

【0037】

ここで、CPU 11が実行するプログラムは、コンピュータに内蔵されている記録媒体としてのHD15やROM12に予め記録しておくことができる。

【0038】

あるいはまた、プログラムは、リムーバブル記録媒体23に、一時的あるいは永続的に格納（記録）しておくことができる。このようなリムーバブル記録媒体23は、いわゆるパッケージソフトウェアとして提供することができる。

【0039】

なお、プログラムは、上述したようなリムーバブル記録媒体23からコンピュータにインストールする他、ダウンロードサイトから、デジタル衛星放送用の人工衛星を介して、コンピュータに無線で転送したり、LAN(Local Area Network)、インターネットといったネットワークを介して、コンピュータに有線で転送し、コンピュータでは、そのようにして転送されてくるプログラムを、通信I/F18で受信し、内蔵するHD15にインストールすることができる。

【0040】

ここで、本明細書において、コンピュータに各種の処理を行わせるためのプログラムを記述する処理ステップは、必ずしも、後述するフローチャートとして記載された順序に沿って時系列に処理する必要はなく、並列的あるいは個別に実行される処理（例えば、並列処理あるいはオブジェクトによる処理）も含むものである。

【0041】

また、プログラムは、1のCPUにより処理されるものであっても良いし、複数のCPUによって分散処理されるものであっても良い。さらに、プログラムは、遠方のCPUに転送されて実行されるものであっても良い。

【0042】

図2の実施の形態では、ユーザ端末2としてのコンピュータは、その内蔵する画像処理ボード19がTVチューナ20を有しており、従って、そのTVチューナ20によって、放送局1から放送されてくる番組を受信することができるようにな

っている。

【0043】

なお、ユーザ端末2としてのコンピュータには、TVチューナ20を内蔵させず、図示せぬ外付けのTVチューナで得られる番組の信号を、通信I/F18を介して入力するようにすることが可能である。

【0044】

また、図2の実施の形態では、エンコーダ／デコーダ21をハードウェアで構成することとしたが、エンコーダ／デコーダ21は、ソフトウェアで実現することも可能である。

【0045】

次に、図3は、図1のサーバシステム4のハードウェア構成例を示している。

【0046】

サーバシステム4は、図2のCPU11乃至通信I/F18とそれぞれ同様に構成されるCPU31乃至通信I/F38で構成される。

【0047】

そして、サーバシステム4としてのコンピュータでは、ユーザ端末2としてのコンピュータにおける場合と同様に、CPU31がコンピュータ（の、例えば、HD35）にインストールされたプログラムを実行することにより、後述する各種の処理が行われる。

【0048】

なお、図3の実施の形態では、サーバシステム4を1台のコンピュータで構成するようにしている。但し、サーバシステム4は、複数台のコンピュータで構成し、後述する処理を、複数台のコンピュータで分散処理させることが可能である。

【0049】

次に、図4は、図2のユーザ端末2のCPU11が実行するプログラムの構成例を示している。

【0050】

CPU11は、OS41（のプログラム）を実行し、そのOS41の制御の下、webブ

ブラウザ42（のプログラム）や、TV総合アプリケーション43（のプログラム）を実行する。

【0051】

ここで、webブラウザ42は、インターネット上に構築されているWWW(World Wide Web)から提供されるサービスを享受するためのクライアント（webサーバのクライアント）となるものである。

【0052】

また、TV総合アプリケーション43は、TVチューナ20（図2）の制御などの、番組の視聴に関係する各種の処理を実行するアプリケーションプログラムで、録画再生プログラム44、録画予約プログラム45、情報アップデートクライアント46などの各種の機能を司るプログラム（モジュール）から構成される。

【0053】

録画再生プログラム44は、TVチューナ20に受信させるチャンネルの選択や、ボリューム（音量）の調整、TVチューナ20で受信された番組またはHD15に録画された番組の再生などの処理を行う。録画予約プログラム45は、番組の録画予約に関する処理を行う。情報アップデートクライアント46は、ユーザが行った番組の視聴に関係するアクションなどの情報を、サーバシステム4にアップロードする処理を行う。

【0054】

なお、TV総合アプリケーション43は、その他、例えば、HD15に録画された番組の編集を行うプログラムなどを有するが、ここでは、その説明は省略する。

【0055】

次に、図5は、図3のサーバシステム4のCPU31が実行するプログラムの構成例を示している。

【0056】

CPU31は、OS51（のプログラム）を実行し、そのOS51の制御の下、webサーバ52（のプログラム）や、情報提供サーバ53（のプログラム）を実行する。

【0057】

ここで、webサーバ52は、インターネット上に構築されているWWW(World Wide web)を構成し、そのクライアントとなるwebブラウザ42（図4）に、サービスを提供する。なお、webサーバ52では、任意のwebブラウザ42にサービスを提供することも可能であるし、サーバシステム4に、ユーザ登録を行っているユーザのユーザ端末2のwebブラウザ42にのみサービスを提供するようにすることも可能である。

【0058】

情報提供サーバ53は、ユーザ端末2から送信されてくる情報を集計し、放送局1を含む多数の放送局で放送される番組について、ユーザの興味の度合いを表す統計データを求め、番組案内データなどとともに、ユーザ端末2に提供する処理を実行するプログラムで、情報集計サーバ54や、番組情報ページ生成サーバ55などの各種の機能を司るプログラムから構成される。

【0059】

情報集計サーバ54は、ユーザ端末2から送信されてくる情報を集計し、統計データを求める処理などを行う。番組情報ページ生成サーバ55は、番組を案内する番組案内データを取得するとともに、情報集計サーバ54で得られた統計データなどを取得し、その番組案内データと、統計データなどとを重畳（反映）したEPGを作成する。

【0060】

次に、図6は、図2のユーザ端末2と、図3のサーバシステム4の機能的構成例を示している。

【0061】

ユーザ端末2において、情報アップデートクライアント46は、録画再生プログラム44および録画予約プログラム45を監視し、これにより、ユーザが行った番組の視聴に関するアクションを表すアクション情報を取得する。即ち、情報アップデートクライアント46は、ユーザが、番組を、その放送時間帯に視聴するアクションをとったことを表す情報、放送時間帯に録画された録画番組を再生して視聴するアクションをとったことを表す情報、番組の録画予約もしくはその予約の取り消しのアクションを行ったことを表す情報を、アクション情報とし

て取得する。さらに、情報アップデートクライアント46は、取得したアクション情報を、ネットワーク3を介して、情報集計サーバ54にアップロードする。

【0062】

また、ユーザ端末2では、webブラウザ42が、ネットワーク3を介して、サーバシステム4のwebサーバ52にアクセスし、EPGが表示されたwebページを受信して表示する。

【0063】

一方、サーバシステム4では、情報集計サーバ54が、ユーザ端末2（の情報アップデートクライアント46）から送信されてくるアクション情報を受信し、ユーザ端末2のユーザごとに、個人別DB(DataBase)61に登録（保存）する。これにより、情報集計サーバ54は、アクション情報が表す、各ユーザが行った番組の視聴に関するアクションの履歴であるアクション履歴データを、ユーザごとに、個人別DB61上に構成する。さらに、情報集計サーバ54は、ユーザ端末2から送信されてきたアクション情報を集計し、統計データDB62に登録する。

【0064】

ユーザ情報／認証情報DB63は、ユーザ端末2のユーザの氏名や、年齢、性別、電子メールアドレスなどのユーザに関するユーザ情報と、そのユーザの認証を行うためのユーザID(Identification)およびパスワードなどのユーザ認証情報とを対応付け、ユーザ情報／認証情報として記憶している。

【0065】

ここで、例えば、ユーザが、ユーザ端末2のwebブラウザ42により、webサーバ52が提供するユーザ登録用のwebページにアクセスし、ユーザ情報を入力すると、サーバシステム4においてユーザ登録処理が行われ、これにより、そのユーザのユーザ情報／認証情報が、ユーザ情報／認証情報DB63に登録される。即ち、サーバシステム4におけるユーザ登録処理では、ユーザ登録用のwebページに入力されたユーザ情報に対して、ユニークなユーザIDとパスワードであるユーザ認証情報が発行される。そして、そのユーザ情報とユーザ認証情報とが対応付けられ、ユーザ情報／認証情報として、ユーザ情報／認証情報DB63に登録される。また、ユーザ登録用のwebページに入力されたユーザ情報に対して発行され

たユーザ認証情報は、例えば、webサーバ52からネットワーク3を介してユーザ端末2のwebブラウザ42に送信、あるいは、電子メールなどによって、ユーザ端末2のユーザの電子メールアドレス宛に送信される。

【0066】

webサーバ52が提供するEPGのwebページや、情報集計サーバ54へのアクセスには、ユーザ認証情報を用いた認証を条件とすることができ、この場合、webサーバ52が提供するEPGのwebページや、情報集計サーバ54へのアクセスは、ユーザ登録を行ったユーザに制限されることになる。

【0067】

なお、ユーザ認証情報を用いた認証は行わないようにすることもでき、この場合、webサーバ52が提供するEPGのwebページや、情報集計サーバ54へのアクセスは、ユーザ登録の有無にかかわらず行うことが可能となる。

【0068】

また、ユーザ認証情報を用いた認証を行う場合、ユーザ端末2からサーバシステム4に対して、ユーザ端末2のユーザに発行されたユーザ認証情報を送信する必要があるが、このユーザ認証情報の送信は、ユーザ端末2において、webサーバ52が提供するEPGのwebページや、情報集計サーバ54に対してアクセスしようとした際に自動的に行うようにすることが可能である。

【0069】

EPG_DB64は、放送局1（図1において図示せぬ他の放送局も含む）で放送される番組を案内する番組案内データや、後述するコマンドファイルを記憶している。

【0070】

ここで、個人別DB61乃至EPG_DB64は、図3のHD35上にファイルとして形成される。

【0071】

番組情報ページ生成サーバ55は、個人別DB61、統計データDB62、ユーザ情報／認証情報DB63、EPG_DB64を参照し、番組案内データ、コマンドファイルにリンクされた後述する操作データ、統計データ、およびユーザ端末2のユー

ザのアクション履歴データを重畳（反映）したEPGのwebページを作成（生成）し、webサーバ52に供給する。

【0072】

webサーバ52は、ユーザ端末2のwebブラウザ42からの要求に応じて、番組情報ページ生成サーバ55にEPGのwebページを作成させ、ネットワーク3を介して、webブラウザ42に送信する。即ち、webサーバ52は、ユーザ端末2のwebブラウザ42からの要求に応じて、番組情報ページ生成サーバ55に、webページの作成を要求する。番組情報ページ生成サーバ55は、webサーバ52からの要求に応じて、番組案内データ、操作データ、統計データ、およびユーザ端末2のユーザのアクション履歴データを重畳（反映）した最新のEPGのwebページを作成し、webサーバ52に供給する。webサーバ52は、このようにして番組情報ページ生成サーバ55から供給される最新のEPGのwebページを、ユーザ端末2のwebブラウザ42に送信する。

【0073】

なお、webサーバ52では、番組情報ページ生成サーバ55において作成されたEPGのwebページではなく、EPG_DB64に記憶された番組案内データから作成することができる従来と同様の、例えば番組案内データだけが反映されたEPGのwebページを、ユーザ端末2のwebブラウザ42に送信することも可能である。

【0074】

次に、図7のフローチャートを参照して、図6のユーザ端末2における情報アップデートクライアント46の処理について説明する。

【0075】

情報アップデートクライアント46は、例えば、コンピュータであるユーザ端末2が起動されると（例えば、電源がオン状態とされると）起動し、まず最初に、ステップS1において、後述する図8で説明する視聴監視スレッドを起動して、ステップS2に進む。ステップS2では、情報アップデートクライアント46は、後述する図14で説明する予約イベント監視スレッドを起動し、その後、待機状態となる。

【0076】

次に、図8のフローチャートを参照して、図7のステップS1で起動された視聴監視スレッドの処理について説明する。

【0077】

視聴監視スレッドが起動されると、まず最初に、ステップS1-1において、情報アップデートクライアント46は、録画再生プログラム44を監視することにより、ユーザが、番組を視聴しているかどうかを判定する。

【0078】

なお、ユーザが視聴する番組としては、現在放送されている番組（以下、適宜、ライブ番組という）と、録画された番組（以下、適宜、録画番組という）の2種類が存在するが、ステップS1-1においてユーザが視聴しているかどうかの判定の対象となる番組は、ライブ番組と録画番組の両方が含まれる。

【0079】

また、情報アップデートクライアント46は、ステップS1-1において、例えば、録画再生プログラム44が起動されており、かつ、番組の表示（出力）が行われているかどうかによって、ユーザが、番組を視聴しているかどうかを判定する。

【0080】

ここで、図9は、録画再生プログラム44が起動されることにより、出力部17（のディスプレイ）に表示される表示ウィンドウ71を示している。

【0081】

表示ウィンドウ71には、表示エリア72が設けられており、表示エリア72には、番組の画像（動画像）が表示される。

【0082】

なお、ライブ番組については、TVチューナ20で受信され、検波、復調された番組（選局された番組）の画像データと音声データがバス上に出力される。この番組の画像データは、RAM14に供給され、RAM14にあらかじめ記憶されている表示ウィンドウ71の表示エリア72に配置され、その表示エリア72に画像データが配置された表示ウィンドウ71が、出力部17（のディスプレイ）に表示される。また、番組の音声データは、出力部17（のスピーカ）に供給されて出

力される。

【0083】

一方、録画番組については、HD15に記録された番組が再生され、出力部17から出力される。即ち、番組の録画は、TVチューナ20で受信された番組の画像データおよび音声データが、エンコーダ/デコーダ21でエンコードされ、その結果得られるエンコードデータが、HD15に記録されることで行われる。そして、ユーザが入力部16を操作することによって、録画番組の再生を指令した場合には、HD15に記録されたエンコードデータが読み出され、エンコーダ/デコーダ21で復号されることにより、録画番組の画像データと音声データが再生される。以下、この録画番組の画像データは、ライブ番組における場合と同様にして、表示ウィンドウ71の表示エリア72に表示され、音声データも、ライブ番組における場合と同様にして、出力部17から出力される。

【0084】

表示ウィンドウ71において、表示エリア72の下部には、入力部16（のマウス等）によって操作することができるカーソルにより操作可能な各種の操作ボタン等が設けられている。

【0085】

チャンネルダウンボタン73は、TVチューナ20で選局されるチャンネルの番号を、現在のチャンネルからデクリメントするときに操作される。チャンネルボタン74が操作されると、TVチューナ20で選局可能なチャンネルの一覧が表示されたプルダウンメニューが表示され、そのプルダウンメニューからチャンネルが選択されると、TVチューナ20において、そのチャンネルが選局される。チャンネルアップボタン75は、TVチューナ20で選局されるチャンネルの番号を、現在のチャンネルからインクリメントするときに操作される。

【0086】

エクスプローラボタン76は、例えば、HD15に記録された録画番組の一覧の管理をするためのアプリケーションであるビデオエクスプローラを起動するときに操作される。

【0087】

ボリュームダウンボタン 77 は、出力部 17（のスピーカ）から出力される音量を、現在の音量より小さくするときに操作される。ボリュームボタン 78 は、音量を任意の値に調整する音量スライダを表示させるときに操作される。なお、音量スライダをドラッグすることにより、音量を任意の値に調整することができる。ボリュームアップボタン 79 は、音量を、現在の音量より大きくするときに操作される。

【0088】

録画ボタン 80 は、表示エリア 72 に、ライブ番組などが表示されている場合に、そのライブ番組を録画するときに操作される。なお、表示ウィンドウ 71 は、ライブ番組や録画番組を表示する他、通信 I/F 18（の IEEE1394ポートや USBポートなど）に入力される外部からの画像データを表示することも可能であり、その画像データも、録画ボタン 80 を操作することによって録画することが可能である。

【0089】

停止ボタン 81 は、表示ウィンドウ 71 において、ライブ番組の録画や録画番組の再生を停止するときに操作される。再生ボタン 82 は、表示ウィンドウ 71 において、録画番組の再生を開始するときに操作される。ポーズボタン 83 は、表示ウィンドウ 71 における録画や再生を一時停止するときと、その一時停止状態を解除するときに操作される。

【0090】

フィルムロールボタン 84 は、例えば、録画番組などについて、シーンチェンジ直後の画面だけを、図示せぬ別ウィンドウに表示するときと、その別ウィンドウの表示を解除（消去）するときに操作される。プレイリストボタン 85 は、例えば、録画番組などの編集が行われることによって作成される再生手順を表したプレイリストを、図示せぬ別ウィンドウに表示するときと、その別ウィンドウの表示を解除するときに操作される。

【0091】

好感度スライダ 86、「つまらない」ボタン 87、「面白い」ボタン 88 は、表示エリア 72 に表示された番組（画像）に対するユーザの感想を表す好感度を

入力するときに操作される。即ち、好感度スライダ 86 は、センタに位置している状態が初期状態で、番組が、「面白い」および「つまらない」のどちらでもないことを表す。好感度スライダ 86 は、例えば、録画済みの番組の再生が新たに開始された場合、およびチャンネルダウンボタン 73 や、チャンネルボタン 74、チャンネルダウンボタン 75 が操作されることによって、TV チューナ 20 で選局されるチャンネルが変更された場合、初期状態の位置に移動する。また、好感度スライダ 86 は、その他、例えば、一定時間操作されなかった場合も、初期状態の位置に移動する。そして、好感度スライダ 86 は、例えば、ドラッグすることにより移動することができ、ユーザは、表示エリア 72 に表示された番組を「面白い」と感じた場合、その面白さの度合いに応じて、好感度スライダ 86 を、右方向に移動させる。逆に、ユーザは、表示エリア 72 に表示された番組を「つまらない」と感じた場合、そのつまらなさの度合いに応じて、好感度スライダ 86 を、左方向に移動させる。

【0092】

ここで、好感度スライダ 86 は、その好感度スライダ 86 自体をドラッグする他、例えば、図示せぬリモコン（リモートコマンド）を操作することによって移動させることが可能である。

【0093】

なお、好感度スライダ 86 の位置が左または右であるほど、「面白さ」または「つまらなさ」の度合いが大であることをそれぞれ表す。また、「つまらない」ボタン 87 が操作された場合、好感度スライダ 86 は、「つまらなさ」の度合いが最大であることを表す右端に移動し、「面白い」ボタン 88 が操作された場合、好感度スライダ 86 は、「面白さ」の度合いが最大であることを表す左端に移動する。

【0094】

識別枠 89 は、表示ウィンドウ 71 に表示されている番組が、ライブ番組であるか、または録画番組であるかを表す。即ち、表示エリア 72 の下部の左と右には、「TV」と「PLAY」の文字の表示部分が存在するが、表示ウィンドウ 71 に表示されている番組が、ライブ番組である場合には、識別枠 89 は、「TV

」の文字の表示部分を囲むように表示される。一方、表示ウィンドウ 71 に表示されている番組が、録画番組である場合には、識別枠 89 は、「PLAY」の文字の表示部分を囲むように表示される。なお、図 9 では、識別枠 89 は、「PLAY」の文字の表示部分を囲むように表示されており、従って、表示ウィンドウ 71 には、録画番組が表示されている。

【0095】

図 8 に戻り、ステップ S1-1 では、情報アップデートクライアント 46 は、録画再生プログラム 44 が起動されており、かつ、図 9 に示した表示ウィンドウ 71 に、番組の表示が行われているかどうかによって、ユーザが、番組を視聴しているかどうかを判定する。

【0096】

ステップ S1-1 において、ユーザが番組を視聴していないと判定された場合、即ち、例えば、録画再生プログラム 44 が起動されていないか、または起動されていても、表示ウィンドウ 71 に、番組が表示されていない場合、ステップ S1-2 乃至 S1-4 をスキップして、ステップ S1-5 に進む。

【0097】

また、ステップ S1-1 において、ユーザが番組を視聴していると判定された場合、ステップ S1-2 に進み、情報アップデートクライアント 46 は、そのユーザによる番組の視聴に関する各種の視聴情報を取得する。なお、この視聴情報の取得の詳細については、後述する。

【0098】

情報アップデートクライアント 46 は、ステップ S1-2 において、各種の視聴情報を取得した後、ステップ S1-3 に進み、その視聴情報を、所定のフォーマットに配置した送信コードを生成し、ステップ S1-4 に進む。

【0099】

ステップ S1-4 では、情報アップデートクライアント 46 は、送信コードを、後述するようにして、サーバシステム 4 の情報収集サーバ 54 にアップロードし、ステップ S1-5 に進む。

【0100】

ステップS1-5では、情報アップデートクライアント46は、例えば、1、2分、あるいは5分等の所定の待ち時間において、ステップS1-1に戻り、以下、同様の処理を繰り返す。

【0101】

なお、ステップS1-5でとられる待ち時間は、すべてのユーザ端末2の情報アップデートクライアント46と、サーバシステム4の情報収集サーバ54において、同期とる（同一の待ち時間を採用する）のが望ましい。待ち時間の同期の方法としては、例えば、プログラムである情報アップデートクライアント46に、あらかじめ決められた共通の待ち時間を、固定で設定しておく方法や、情報収集サーバ54から、情報アップデートクライアント46に対して、待ち時間を動的に設定する方法などを採用することができる。情報収集サーバ54から情報アップデートクライアント46に対する待ち時間の設定は、任意のタイミングで行っても良いが、その他、例えば、情報アップデートクライアント46から、情報収集サーバ54へのアップデート時に行うことなどが可能である。

【0102】

次に、図10のフローチャートを参照して、図8のステップS1-2で行われる視聴情報を取得する処理の詳細について説明する。

【0103】

情報アップデートクライアント46は、まず最初に、ステップS11において、視聴エリア設定値を取得する。

【0104】

即ち、例えば、地上波によるテレビジョン放送番組のチャンネルは、地域によって異なる。いま、ある番組のテレビジョン放送を、同一チャンネルで受信することができる地域を、視聴エリアというものとすると、ステップS11では、ユーザ端末2が存在する視聴エリアの設定値（視聴エリア設定値）が取得される。

【0105】

ここで、記録再生プログラム44は、例えば、最初に起動されたときに、初期設定として、ユーザ端末2が存在する地域（都道府県名、あるいは地方名など）の入力を、ユーザに促すようになっており、これにより、ユーザに、ユーザ端末

2が存在する地域を入力してもらうようになっている。記録再生プログラム44は、このように、初期設定時に入力されたユーザ端末2が存在する地域から視聴エリアを認識し、その視聴エリアを表す値を設定する。視聴エリアが設定されると、記録再生プログラム44において、その視聴エリアが表す地域用の後述する図37に示すチャンネル変換テーブルが選択され、その地域で受信可能なチャンネル（放送局）が認識される。そして、記録再生プログラム44は、放送局名を用いて、チャンネルを選択することが可能となる。即ち、視聴エリアが、例えば、関東地方に設定された場合、例えば、「NHK総合テレビ」という放送局名を用いて、TVチューナ20により1チャンネルを受信することができ、また、例えば、「NHK教育テレビ」という放送局名を用いて、TVチューナ20により3チャンネルを受信することができるようになる。

【0106】

ステップS11では、情報アップデートクライアント46が、上述のように初期設定時に設定された視聴エリアの設定値を、記録再生プログラム44から取得する。

【0107】

そして、ステップS12に進み、情報アップデートクライアント46は、ユーザが視聴している番組の放送局の局名を、記録再生プログラム44から取得する。即ち、ユーザが視聴している番組が、ライブ番組である場合には、ステップS12では、情報アップデートクライアント46は、そのライブ番組を放送している放送局の局名を、記録再生プログラム44から取得する。また、ユーザが視聴している番組が、録画番組である場合には、情報アップデートクライアント46は、その録画番組を放送した放送局の局名を、記録再生プログラム44から取得する。

【0108】

ここで、記録再生プログラム44は、番組を録画するときに、その番組とともに、その番組のチャンネルも、HD15に記録するようになっている。そして、記録再生プログラム44は、録画番組の放送局の局名を、その録画番組のチャンネルと、視聴エリアの設定値とから認識するようになっている。

【0109】

ステップS12において、ユーザの視聴している番組の放送局の局名（放送局名）が取得されると、ステップS13に進み、情報アップデートクライアント46は、その番組に対する好感度を、記録再生プログラム44から取得し、ステップS14に進む。即ち、情報アップデートクライアント46は、図9に示した表示ウィンドウ71における好感度スライダ86の位置に対応する値を、好感度として取得し、ステップS14に進む。

【0110】

ステップS14では、情報アップデートクライアント46は、例えば、図示せぬRTC(Real Time Clock)から、現在の日時を取得し、ステップS15に進む。

【0111】

ここで、ステップS14で取得される現在の日時は、ユーザが番組を視聴している実際の視聴の日時（以下、適宜、実視聴日時という）である。

【0112】

なお、ステップS14で取得される現在の日時は、後述するように、情報収集サーバ54において、実際にその日時に放送されている番組と対応付けられるので、正確であることが望ましい。このため、ユーザ端末2のTV総合アプリケーション43は、例えば、原子時計に接続された図示せぬ時刻サーバへの問い合わせを行い、あるいは、放送局1による時報のテレビジョン放送を用い、時刻合わせを行う自動時刻合わせ機能を有しており、これにより、RTCが、常に正確な時刻を保つことができるようになっている。

【0113】

ステップS15では、情報アップデートクライアント46は、ユーザが視聴している番組が、ライブ番組であるのか、または録画番組であるのかを、記録再生プログラム44に問い合わせることで判定する。

【0114】

ステップS15において、ユーザが視聴している番組が、ライブ番組であると判定された場合、即ち、図9の表示ウィンドウ71において、識別枠89が、「TV」の文字の表示部分を囲んでいる場合、ステップS16に進み、情報アップデ

ートクライアント46は、ユーザが視聴している番組の属性を表すフラグVideo_Flagに、ライブ番組を表す、例えば0をセットして、視聴情報の取得処理を終了する。

【0115】

また、ステップS15において、ユーザが視聴している番組が、録画番組であると判定された場合、即ち、図9の表示ウィンドウ71において、識別枠89が、「PLAY」の文字の表示部分を囲んでいる場合、ステップS17に進み、情報アップデートクライアント46は、ユーザが視聴した録画番組の放送日時を基準とする録画番組の視聴の日時（以下、適宜、放送時基準視聴日時という）を取得する。即ち、ステップS17では、仮に、ユーザが、その録画番組を、実際に放送されている最中に視聴しているとしたときの、その視聴の日時が、放送時基準視聴日時として取得される。従って、ユーザが、例えば、ある日の17時から放送が開始された番組を録画し、その録画番組の開始から、例えば10分の位置の画像と音声を再生して視聴している場合、その放送日の17時10分が、放送時基準視聴日時として取得される。

【0116】

ここで、放送時基準視聴日時を求めるためには、その基準となる録画番組の放送日時が必要となるが、この録画番組の放送日時（ここでは、例えば、放送開始日時）は、例えば、記録再生プログラム44が、番組を録画するときに、その番組とともに、HD15に記録するようになっている。

【0117】

ステップS17の処理後は、ステップS18に進み、情報アップデートクライアント46は、フラグVideo_Flagに、録画番組を表す、例えば1をセットして、視聴情報の取得処理を終了する。

【0118】

以上のようにして、視聴情報が取得された後、情報アップデートクライアント46では、上述した図8のステップS1-3において、その視聴情報を送信するための、例えば、図11や図12に示すフォーマットの送信コードが生成される。

【0119】

即ち、図11は、ユーザがライブ番組を視聴している場合に生成される送信コードを示している。

【0120】

送信コードの先頭には、図10のステップS11で取得された視聴エリアの設定値に基づき、エリア情報が配置される。ここで、本実施の形態では、エリア情報は、ユーザ端末2が存在する都道府県と地域とから構成されている。

【0121】

エリア情報の後には、図10のステップS12で取得された、ユーザが視聴しているライブ番組の放送局の局名（放送局名）が配置される。なお、TV総合アプリケーション43（図4）は、後述するような、放送局名と、チャンネル（チャンネル番号）とを対応付けたチャンネル変換ファイルを有しており、送信コードに配置される放送局名は、例えば、チャンネル変換ファイルに記述されている放送局名の名前付け規則にしたがったものが用いられる。

【0122】

放送局名の後には、図10のステップS13で取得された好感度が配置される。ここで、本実施の形態では、好感度は、好感度スライダ86（図9）の位置に対応する整数値で表されるようになっており、図11では、5になっている。なお、好感度は、例えば、その値が大きいほど、番組が面白く、逆に、その値が小さいほど、番組がつまらないことを表す。

【0123】

好感度の後には、図10のステップS16でフラグVideo_Flagにセットされた、ライブ番組を表す0が配置される。そして、フラグVideo_Flagの後には、図10のステップS14で取得された現在の日時、即ち、ライブ番組を視聴した実際の日時である実視聴日時が配置される。

【0124】

ここで、図11の送信コードでは（後述する図12および図16の送信コードにおいても同様）、番組を放送する（している）放送局を判別する情報として、放送局名を採用しているが、これは、次のような理由による。即ち、番組を放送す

る放送局を判別する情報としては、例えば、エリア情報と、その放送局のチャンネル（チャンネル番号）との組を採用することも可能である。しかしながら、ユーザ端末2側の環境によっては、例えば、本来ならば、ある放送局が割り当てられるべきチャンネルに、館内放送や、BS(Broadcasting Satellite)放送、CS(Communication Satellite)放送、ケーブルテレビジョン放送などが割り当てられることがあり、この場合、エリア情報とチャンネル番号の組では、そのチャンネル番号で番組放送を行っている放送局を特定することができない。そこで、本実施の形態では、TV総合アプリケーション43（図4）が有するチャンネル変換ファイルを用い、あるチャンネルの番組を放送している放送局を、そのチャンネル番号ではなく、放送局名（チャンネル名）によって特定することとしている。

【0125】

これにより、例えば、放送局1による番組放送のチャンネルが、本来ならば、チャンネル番号CH#iに割り当てられるべき場合に、そのチャンネル割り当てが変更され、あるAケーブルテレビジョン放送局のあるチャンネル α が、チャンネル番号CH#iに割り当てられたとしても、その割り当て変更時に、チャンネル変換ファイルを（自動的に）書き換え（あるいは、Aケーブルテレビジョン放送局から、そのAケーブルテレビジョン放送局用の追加分のチャンネル変換ファイルをダウンロードし）、チャンネル変換ファイルにおいて、Aケーブルテレビジョン放送局のチャンネル α と、チャンネル番号CH#iとが対応付けられることにより、チャンネル番号CH#iでの番組放送を行っているのが、Aケーブルテレビジョン放送局のチャンネル α であることを認識することができる。

【0126】

なお、上述のような放送局名（チャンネル名）とチャンネル番号とが対応付けられたチャンネル変換テーブルは、ユーザ端末2の他、サーバシステム4でも使用される。

【0127】

即ち、端末2では、チャンネル変換テーブルは、上述した送信コードを生成するときの他、後述するコマンドファイルに記述される放送局名を、チャンネル番号に変換するときなどに使用（参照）される。

【0128】

また、サーバシステム4では、サーバシステム4で管理されている、後述する各種のテーブルにデータを登録するセルを決定するのに、そのセルを特定する放送局名と、ユーザ端末2から送信されてくる送信コードに配置されている放送局名とのマッチングをとるときや、後述するEPGページを作成するのに、そのEPGページ上の番組を放送する放送局の放送局名と、サーバシステム4で管理されている各種のテーブルのセルを特定する放送局名とのマッチングをとるとき、コマンドファイルに、放送局名を記述するときなどに、チャンネル変換テーブルが使用される。

【0129】

次に、図12は、ユーザが録画番組を視聴している場合に生成される送信コードを示している。

【0130】

録画番組についての送信コードも、図11に示したライブ番組についての送信コードと同様に、その先頭から、エリア情報、放送局名、好感度、フラグVideo_Flagが順次配置されて構成される。但し、録画番組についての送信コードのフラグVideo_Flagとしては、録画番組を表す1が配置される。

【0131】

また、録画番組についての送信コードは、フラグVideo_Flagの後に、図10のステップS17で取得された放送時基準視聴日時が配置される。そして、放送時基準日時の後に、図10のステップS14で取得された現在の日時、即ち、録画番組を視聴した実際の日時である実視聴日時が配置される。

【0132】

図11と図12から明らかなように、ライブ番組と録画番組についての送信コードのフォーマットは、録画番組についての送信コードに、放送時基準視聴日時が含まれるのに対して、ライブ番組についての送信コードに、放送時基準視聴日時が含まれない点が異なる。

【0133】

また、ライブ番組については、実視聴日時が、そのライブ番組が放送された放

送日時を表すので、図11の送信コードにおける放送局名と実視聴日時から、ユーザが視聴しているライブ番組を特定することができる。

【0134】

一方、録画番組については、放送時基準視聴日時が、その録画番組が放送された放送日時を表すので、図12の送信コードにおける放送局名と放送時基準視聴日時から、ユーザが視聴している録画番組を特定することができる。

【0135】

なお、送信コードのフォーマットは、図11や図12に示したものに限定されるものではない。即ち、例えば、送信コードを構成するエリア情報や放送局名などの配置順は、図11や図12に示した順番に限定されるものではない。

【0136】

また、図11に示した送信コードとされた視聴情報は、ユーザがライブ番組を視聴した場合に生成されることから、ユーザが、番組を、その放送時間帯に視聴するアクションをとったことを表すアクション情報であるといえることができる。また、図12に示した送信コードとされた視聴情報も、ユーザが録画番組を視聴した場合に生成されることから、ユーザが、放送時間帯に録画された録画番組を再生して視聴するアクションをとったことを表すアクション情報であるといえることができる。

【0137】

次に、図13のフローチャートを参照して、図8のステップS1-4で行われる、アクション情報としての送信コードを情報収集サーバ54にアップロードするアップロード処理について説明する。

【0138】

情報アップデートクライアント46は、まず最初に、ユーザ端末2が、インターネットであるネットワーク3に接続されている状態（オンライン状態）であるかどうかを判定し、オンライン状態でないと判定した場合、ステップS22に進み、図8のステップS1-3で生成した送信コードを、例えば、HD15上の所定のファイルである待機リストに保存して、アップロード処理を終了する。

【0139】

また、ステップS 2 1において、ユーザ端末2がオンライン状態であると判定された場合、ステップS 2 3に進み、情報アップデートクライアント4 6は、情報集計サーバ5 4への接続を試みて、ステップS 2 4に進む。

【0 1 4 0】

ステップS 2 4では、情報アップデートクライアント4 6が、情報集計サーバ5 4への接続が成功したかどうかを判定する。ステップS 2 4において、情報アップデートクライアント4 6から、情報集計サーバ5 4への接続が成功しなかったと判定された場合、即ち、情報アップデートクライアント4 6と、情報集計サーバ5 4との間で通信リンクを確立することができなかった場合、ステップS 2 2に進み、上述したように、情報アップデートクライアント4 6は、図8のステップS 1-3で生成した送信コードを、待機リストに保存して、アップロード処理を終了する。

【0 1 4 1】

また、ステップS 2 4において、情報アップデートクライアント4 6から、情報集計サーバ5 4への接続が成功したと判定された場合、即ち、情報アップデートクライアント4 6と、情報集計サーバ5 4との間で通信リンクを確立することができた場合、ステップS 2 5に進み、ユーザ認証が行われる。

【0 1 4 2】

なお、ここでは、ユーザ端末2のユーザが、既にユーザ登録を行っており、そのユーザ登録によって、サーバシステム4から発行されるユーザIDおよびパスワードなどのユーザ認証情報が、ユーザ端末2において、HD 1 5に記憶されているものとする。ステップS 2 5では、情報アップデートクライアント4 6が、HD 1 5に記憶されているユーザ認証情報を、情報集計サーバ5 4に送信する。

【0 1 4 3】

ステップS 2 5の処理後は、ステップS 2 6に進み、情報アップデートクライアント4 6は、過去に行われたステップS 2 2の処理によって、待機リストに、まだ情報集計サーバ5 4に送信されていない送信コードが保存されているかどうかを確認し、待機リストに、まだ情報集計サーバ5 4に送信されていない送信コードが保存されている場合には、その送信コードを読み出して、ステップS 2 7

に進む。

【0144】

ステップS27では、情報アップデートクライアント46は、図8のステップS1-3で生成した送信コード、さらには、待機リストに、まだ情報集計サーバ54に送信されていない送信コードが保存されている場合には、その送信コードを、情報集計サーバ54に送信し、アップロード処理を終了する。

【0145】

以上のように、ユーザが番組を視聴した場合には、ユーザ端末2からサーバシステム4に対して、ユーザが、番組を、その放送時間帯に視聴したことを表すアクション情報としての送信コードや、放送時間帯に録画された録画番組を再生して視聴したことを表すアクション情報としての送信コードが、ユーザの操作によらず、いわば自動的に送信される。

【0146】

次に、図14のフローチャートを参照して、図7のステップS2で起動された予約イベント監視スレッドの処理について説明する。

【0147】

視聴監視スレッドが起動されると、まず最初に、ステップS2-1において、情報アップデートクライアント46は、予約イベント待ちの状態となる。即ち、録画予約プログラム45（図6）は、例えば、ユーザが入力部16を所定操作したとき、あるいは、後述するコマンドファイルが、サーバシステム4からダウンロードされたとき等に起動し、番組の録画予約に関する処理を行うが、録画予約または録画予約の取り消しの処理が終了すると、録画予約または録画予約の取り消しが行われたことを表す予約イベントを発生し、情報アップデートクライアント46に供給する。

【0148】

ステップS2-1では、以上のように、録画予約プログラム45が、予約イベントを発生するまで、待ち時間がおかれる。

【0149】

なお、ユーザ端末2において、ユーザが、番組の録画予約を行った場合、その

録画予約は変更することが可能である。ユーザが、ある番組の録画予約から、他の番組への録画予約への録画予約の変更を行った場合、例えば、ある番組の録画予約の取り消しの予約イベントと、他の番組の録画予約の予約イベントとが、続けて発生する。

【0150】

そして、録画予約プログラム45が、予約イベントが発生すると、ステップS2-1からS2-2に進み、情報アップデートクライアント46は、ユーザによる録画予約または録画予約の取り消しに関する各種の予約情報を取得する。なお、この予約情報の取得の詳細については、後述する。

【0151】

情報アップデートクライアント46は、ステップS2-2において、各種の予約情報を取得した後、ステップS2-3に進み、その予約情報を、所定のフォーマットに配置した送信コードを生成し、ステップS2-4に進む。

【0152】

ステップS2-4では、情報アップデートクライアント46は、送信コードを、図13で説明した場合と同様にして、サーバシステム4の情報収集サーバ54にアップロードして、ステップS2-1に戻り、以下、同様の処理が繰り返される。

【0153】

次に、図15のフローチャートを参照して、図14のステップS2-2で行われる予約情報を取得する処理の詳細について説明する。

【0154】

情報アップデートクライアント46は、まず最初に、ステップS41において、予約イベントが、録画予約または録画予約の取り消しのいずれが行われたことを表すイベントであるかを判定する。

【0155】

ステップS41において、予約イベントが、録画予約が行われたことを表すイベントであると判定された場合、ステップS42に進み、情報アップデートクライアント46は、録画予約または録画予約の取り消しが行われたことを表すフラ

グCommandに、録画予約が行われたことを表す、例えば0をセットし、ステップS43に進む。

【0156】

ステップS43では、情報アップデートクライアント46は、図10のステップS11における場合と同様に、視聴エリア設定値を取得して、ステップS44に進む。ステップS44では、情報アップデートクライアント46は、録画予約プログラム45から、ユーザが録画予約を行った番組の放送局の放送局名を取得する。即ち、録画予約プログラム45において、番組の録画予約が行われる場合には、少なくとも、その録画予約の対象となる番組の放送局名、録画開始日時、録画終了日時が、HD15上の所定のファイルである録画予約管理用ファイルに登録される。ステップS44では、情報アップデートクライアント46は、録画予約プログラム45から、ユーザが録画予約を行った番組について、録画予約管理用ファイルに登録されている放送局の放送局名を取得する。

【0157】

ステップS44において、録画予約が行われた番組の放送局の局名（放送局名）が取得されると、ステップS45に進み、情報アップデートクライアント46は、その番組の録画開始日時と録画終了日時を、録画予約プログラム45から、取得し、予約情報の取得処理を終了する。即ち、ステップS45では、情報アップデートクライアント46は、録画予約プログラム45から、ユーザが録画予約を行った番組について、録画予約管理用ファイルに登録されている録画開始日時と録画終了日時を取得して、予約情報の取得処理を終了する。

【0158】

一方、ステップS41において、予約イベントが、録画予約の取り消しが行われたことを表すイベントであると判定された場合、ステップS46に進み、情報アップデートクライアント46は、フラグCommandに、録画予約の取り消しが行われたことを表す、例えば1をセットする。

【0159】

そして、以下、ステップS43乃至S45に順次進み、上述した場合と同様の処理が行われる。但し、ステップS44とS45では、録画予約の取り消しが行

われた番組について、上述した処理が行われ、予約情報の取得処理を終了する。

【0160】

従って、この場合、ステップS44では、情報アップデートクライアント46は、録画予約プログラム45から、ユーザが録画予約の取り消しを行った番組について、録画予約管理用ファイルに登録されている放送局の放送局名を取得する。

【0161】

また、ステップS44では、情報アップデートクライアント46は、録画予約プログラム45から、ユーザが録画予約の取り消しを行った番組について、録画予約管理用ファイルに登録されている録画開始日時と録画終了日時を取得する。

【0162】

以上のようにして、予約情報が取得された後、情報アップデートクライアント46では、上述した図14のステップS2-3において、例えば、図16に示すフォーマットの送信コードが生成される。

【0163】

即ち、送信コードの先頭には、図15のステップS43で取得された視聴エリアの設定値に基づき、図11および図12の送信コードにおける場合と同様のエリア情報が配置される。

【0164】

エリア情報の後には、図15のステップS44で取得された、録画予約または録画予約の取り消しが行われた番組の放送局の局名（放送局名）が、やはり、図11および図12の送信コードにおける場合と同様に配置される。

【0165】

放送局名の後には、図15のステップS42またはS26で値がセットされたフラグCommandが配置される。ここで、図16の実施の形態では、フラグCommandとして、録画予約が行われたことを表す0がセットされている。なお、録画予約の取り消しが行われた場合には、送信コードにおけるフラグCommandとして、1がセットされる。フラグCommandの後には、図15のステップS45で取得された録画開始日時と録画終了日時が配置される。

【0166】

なお、録画開始日時と録画終了日時は、録画予約または録画予約の取り消しの対象となっている番組の放送時間帯を表すので、録画予約または録画予約の取り消しが行われた場合に生成される図16の送信コードによれば、図11や図12の送信コードにおける場合と同様に、放送局名と録画開始日時または録画終了日時から、録画予約または録画予約の取り消しが行われた番組を特定することができる。

【0167】

なお、送信コードのフォーマットは、図16に示したものに限定されるものではない。即ち、例えば、送信コードを構成するエリア情報や放送局名などの配置順は、図16に示した順番に限定されるものではない。

【0168】

また、図16に示した送信コードは、録画予約または録画予約の取り消しを行った場合に生成されることから、ユーザが、番組の録画予約または録画予約の取り消しのアクションを行ったことを表すアクション情報であるといえることができる。

【0169】

以上のように、ユーザが番組の録画予約または録画予約の取り消しを行った場合には、ユーザ端末2からサーバシステム4に対して、ユーザが、番組の録画予約もしくはその予約の取り消しを行ったことを表すアクション情報としての送信コードが、ユーザの操作によらず、いわば自動的に送信される。

【0170】

次に、図17のフローチャートを参照して、サーバシステム4における情報集計サーバ54（図6）の処理について説明する。

【0171】

情報集計サーバ54は、ユーザ端末2の情報アップデートクライアント46において、図13で説明したアップロード処理が行われることにより、情報アップデートクライアント46からアクセスがあると、処理を開始し、まず最初に、ステップS51において、ユーザ認証を行う。

【0172】

即ち、サーバシステム4において、ユーザ端末2のユーザについて、既に、ユーザ登録が行われているものとする、ユーザ端末2では、そのユーザに対して発行されたユーザ認証情報が、HD15に記録されており、サーバシステム4では、そのユーザ認証情報が、ユーザ情報と対応付けられた形で、ユーザ情報／認証情報として、ユーザ情報／認証情報DB63に記憶されている。そして、情報アップデートクライアント46は、情報集計サーバ54との通信リンクを確立した後、上述したように、サーバシステム4から発行されたユーザ認証情報を送信してくるので、情報集計サーバ54は、ステップS51において、その情報アップデートクライアント46から送信されてくるユーザ認証情報と、ユーザ情報／認証情報DB63に記憶されているユーザ認証情報との一致を確認することで、ユーザ認証を行う。

【0173】

なお、ステップS51のユーザ認証において、そのユーザ認証が成功しなかった場合、即ち、情報アップデートクライアント46からユーザ認証情報が送信されてこなかったり、あるいは、ユーザ認証情報が送信されてきても、そのユーザ認証情報と一致するユーザ認証情報が、ユーザ情報／認証情報DB63に記憶されていない場合、情報集計サーバ54では、例えば、処理を終了し、その後のユーザ端末2からのアクセスを拒否する。但し、情報集計サーバ54では、ユーザ認証が成功しなかった場合に、ユーザ端末2に、ユーザ登録を促すメッセージを送信し、そのメッセージに対応して、ユーザ登録が行われた後に、処理を続行するようにすること等が可能である。

【0174】

また、ユーザ端末2では、ユーザ認証情報を、単独で送信するのではなく、送信コードに配置し、送信コードの一部として送信するようにすることが可能である。この場合、ステップS51でのユーザ認証は、情報集計サーバ54が後述するステップS52において送信コードを受信した後に行われる。

【0175】

ステップS51において、ユーザ認証が行われた後は、ステップS52に進み

、情報集計サーバ5.4は、情報アップデートクライアント4.6から、その後に送信コードとして送信されてくるアクション情報である視聴情報または予約情報（以下、適宜、視聴／予約情報ともいう）を受信し、ステップS5.3に進む。

【0176】

ステップS5.3では、情報集計サーバ5.4は、情報アップデートクライアント4.6から送信されてきた視聴／予約情報を、個人別DB6.1において、例えば、ユーザIDごとに用意されたテーブルのうちの、その視聴／予約情報を送信してきたユーザ端末2のユーザに発行されたユーザIDが付されたテーブルに、追加する形で登録する。

【0177】

ここで、情報アップデートクライアント4.6が送信コードとして送信する視聴／予約情報は、上述したように、ユーザが行ったアクションを表すアクション情報であるということができる。そして、このアクション情報である視聴／予約情報は、そのアクション情報を送信してきたユーザ端末2のユーザに発行されたユーザIDが付されたテーブルに追加登録される。従って、そのテーブルに登録された視聴／予約情報の一覧は、ユーザが行った番組の視聴に関するアクションの履歴であるアクション履歴データであるということができる。

【0178】

なお、個人別DB6.1のテーブルに、上述したように、視聴／予約情報を追加登録していくと、テーブルのデータ量が膨大なものとなる。そこで、個人別DB6.1の各ユーザごとのテーブルに登録された視聴／予約情報は、例えば、登録後から所定の時間だけ経過したときに削除（消去）するようにすることが可能である。

【0179】

ステップS5.3において、視聴／予約情報が、個人別DB6.1に登録された後は、ステップS5.4に進み、情報集計サーバ5.4は、その視聴／予約情報が、統計データDB6.2の統計データに含めることが必要な、有効なものであるかどうかを判定する。

【0180】

ここで、情報アップデートクライアント4.6が送信コードとして送信する視聴

／予約情報は、後述するように集計され、視聴率等の統計データを求めるのに用いられる。

【0181】

ところで、ユーザが、例えば、複数のユーザ端末それぞれにおいてTV総合アプリケーション43を起動し、その複数のユーザ端末に同一のユーザ認証情報が登録されている場合、図11に示した実視聴日時だけが同一、あるいは僅かな時間だけ異なる複数の視聴／予約情報（実視聴日時が、例えば、後述する、同一のタイムゾーン内に位置する複数の視聴／予約情報）が、複数のユーザ端末それぞれの情報アップデートクライアント46から情報収集サーバ54に送信されてくることもあり得る。この場合、その複数の視聴／予約情報すべてを視聴率等の計算に用いるのは、番組を視聴しているユーザ等を重複カウントすることとなり、好ましくない。

【0182】

そこで、既に、統計データDB62の統計データに含められた視聴／予約情報（以下、適宜、既使用視聴／予約情報という）と同一のユーザIDのユーザ端末2から送信され、かつ実視聴日時だけが同一、あるいは僅かな時間だけ異なる視聴情報などは、ステップS54において、有効でないものと判定して、統計データDB62の統計データに含められないようになっている。

【0183】

なお、上述のように、ユーザが、例えば、あるライブ番組を視聴している場合に、情報アップデートクライアント46から送信される複数の視聴／予約情報の他、例えば、ユーザが、ある録画番組を、繰り返し再生して視聴した場合に、情報アップデートクライアント46から送信される複数の視聴／予約情報についても、最初に、統計データDB62の統計データに含められた視聴／予約情報以外のものは、ステップS54において、有効でないものと判定して、統計データDB62の統計データに含めないようにすることが可能である。

【0184】

ステップS54において、視聴／予約情報が、有効なものであると判定された場合、ステップS55に進み、情報集計サーバ54は、その視聴／予約情報を、

統計データDB 6 2 に既に登録されている統計データに含めて集計し、その結果得られる新たな統計データを統計データDB 6 2 に登録して、処理を終了する。

【0185】

また、ステップS 5 4において、視聴／予約情報が、有効なものでないと判定された場合、ステップS 5 5をスキップして、処理を終了する。従って、この場合、情報アップデートクライアント 4 6 から情報収集サーバ 5 4 に送信されてきた視聴／予約情報は、統計データDB 6 2 に登録されている統計データの集計には用いられない。

【0186】

以上のように、情報集計サーバ 5 4 では、ユーザから視聴／予約情報が送信されてくると、その視聴／予約情報に基づき、即座に、個人別DB 6 1 と統計データDB 6 2 を更新する。従って、個人別DB 6 1 と統計データDB 6 2 の内容は、基本的に、常時、最新の視聴／予約情報が反映されたものとなる。

【0187】

次に、図 1 8 は、図 1 7 のステップS 5 3 において、視聴／予約情報が登録される、個人別DB 6 1 に記憶されているテーブルを示している。

【0188】

個人DB 6 1 には、ユーザごとに、そのユーザのユーザIDが付されたテーブルが用意されている。そして、ユーザごとのテーブルとしては、生視聴履歴テーブル、録画再生履歴テーブル、および録画予約履歴テーブルの3つが用意されている。

【0189】

生視聴履歴テーブルには、送信コードとして送信されてくる視聴情報のうちの、フラグVideo_Flagが、ライブ番組を表す0になっているもの（以下、適宜、ライブ番組視聴情報という）、即ち、図 1 1 に示した送信コードとしての視聴情報における実視聴日時、放送局名、視聴エリア、好感度が登録される。

【0190】

なお、生視聴履歴テーブルには、例えば、視聴情報における実視聴日時、放送局名、視聴エリア、好感度が、1レコードとして、1行（または1列）に登録さ

れる。また、生視聴履歴テーブルでは、視聴情報のメンバ（項目）のうちの実視聴日時が、その視聴情報を特定する主キーとして登録され、他の放送局名、視聴エリア、好感度は、視聴情報の単なるメンバとして登録される。

【0191】

録画再生履歴テーブルには、送信コードとして送信されてくる視聴情報のうちの、フラグVideo_Flagが、録画番組を表す1になっているもの（以下、適宜、録画番組視聴情報という）、即ち、図12に示した送信コードとしての視聴情報における放送時基準視聴日時、放送局名、視聴エリア、実視聴日時、好感度が登録される。

【0192】

なお、録画再生履歴テーブルには、例えば、視聴情報における放送時基準視聴日時、放送局名、視聴エリア、実視聴日時、好感度が、1レコードとして、1行に登録される。また、録画再生履歴テーブルでは、視聴情報のメンバのうちの放送時基準視聴日時が、その視聴情報を特定する主キーとして登録され、他の放送局名、視聴エリア、実視聴日時、好感度は、視聴情報の単なるメンバとして登録される。

【0193】

録画予約履歴テーブルには、図16に示した送信コードとして送信されてくる予約情報における録画開始日時、録画終了日時、放送局名、視聴エリア、フラグCommandが登録される。

【0194】

なお、録画予約履歴テーブルには、例えば、予約情報における録画開始日時、録画終了日時、放送局名、視聴エリア、フラグCommandが、1レコードとして、1行に登録される。また、録画予約履歴テーブルでは、予約情報のメンバのうちの録画開始日時が、その予約情報を特定する主キーとして登録され、他の録画終了日時、放送局名、視聴エリア、フラグCommandは、予約情報の単なるメンバとして登録される。

【0195】

図17のステップS53では、情報集計サーバ54は、情報アップデートクラ

イアント46から送信されてきた視聴／予約情報を、個人別DB61において、例えば、ユーザIDごとに用意されたテーブルのうちの、その視聴／予約情報を送信してきたユーザ端末2のユーザに発行されたユーザIDが付されたテーブルに、追加する形で登録する。

【0196】

従って、視聴／予約情報は、ユーザがライブ番組や録画番組を視聴したことや、録画予約を行った等のユーザのアクションを表し、また、個人DB61のユーザごとの生視聴履歴テーブル、録画再生履歴テーブル、および録画予約履歴テーブルには、そのユーザのアクションを表す視聴／予約情報が、いわば時系列に登録されていくことから、個人DB61には、ユーザが行ったアクションの履歴を表すアクション履歴データが、ユーザごとに登録されるということが出来る。

【0197】

次に、図19は、統計データが登録される統計データDB62の構成例を示している。

【0198】

統計データDB62は、生視聴者情報テーブル、録画再生視聴者情報テーブル、録画予約者情報テーブルの3つのテーブルで構成されている。

【0199】

ここで、統計データDB62を構成する生視聴者情報テーブル、録画再生視聴者情報テーブル、録画予約者情報テーブルの3つのテーブルを、以下、適宜、統計データテーブルという。

【0200】

統計データテーブルは、例えば、その縦方向が、タイムゾーンと呼ばれる所定の時間間隔ごとの時間に区分けされており、その横方向が、放送局（の放送局名）ごとに区分けされた表形式になっている。従って、統計データテーブルの各欄は、タイムゾーンごとに区分けされている行と、放送局ごとに区分けされている列とによって特定される。

【0201】

ここで、統計データテーブルの各欄を、以下、適宜、セルという。

【0202】

なお、図19の実施の形態では、タイムゾーンが1分となっているが、タイムゾーンとする時間間隔は1分に限定されるものではない。また、タイムゾーンとする時間間隔は、例えば、図8のステップS1-5でとられる待ち時間と同期がとれた時間間隔とされる。

【0203】

統計データテーブルのうちの、生視聴者情報テーブルのセルについては、ライブ視聴情報を用いて、各種の集計が行われ、その集計結果としての統計データが登録される。

【0204】

即ち、情報集計サーバ54は、ライブ視聴情報における実視聴日時と放送局名に基づき、生視聴者情報テーブルにおいて、その実視聴日時を包含するタイムゾーンの行と、その放送局名が表す放送局の列とで特定されるセルを、注目セルとして、その注目セルに登録すべき統計データを求め、注目セルに登録する。

【0205】

ここで、生視聴者情報テーブルのセルは、そのセルによって特定されるタイムゾーンの時間帯において、そのセルによって特定される放送局の番組を視聴していたユーザの数を、ユーザの属性ごとに表す複数のメンバを有している。即ち、生視聴者情報テーブルのセルは、そのセルによって特定されるタイムゾーンの時間帯において、そのセルによって特定される放送局の番組を視聴していたユーザすべての数（視聴者数）、そのユーザの男性の数および女性の数（男女別視聴者数）、そのユーザの年齢層ごとの数（各年齢層別視聴者数）をメンバとして有している。さらに、生視聴者情報テーブルのセルは、そのセルによって特定されるタイムゾーンの時間帯において、そのセルによって特定される放送局の番組を視聴していたユーザから送信されてきたライブ視聴情報における好感度の平均値（ライブ番組好感度の平均値）も、メンバとして有している。

【0206】

情報集計サーバ54は、注目セルのメンバの値を、ライブ視聴情報に基づいて更新する。即ち、例えば、注目セルのメンバ「視聴者数」については、そのメン

バ「視聴者数」の値を1だけインクリメントし、その値を、メンバ「視聴者数」の新たな値として登録する。

【0207】

ここで、以上のようにして更新された注目セルのメンバ「視聴者数」の値は、注目セルによって特定されるタイムゾーンの時間帯において、その注目セルによって特定される放送局の番組を視聴していたユーザの数の集計結果であるということができる。

【0208】

注目セルのメンバ「視聴者数」以外のメンバの値も、同様にして更新される。

【0209】

なお、情報集計サーバ54において、注目セルの、例えば、メンバ「男女別視聴者数」や「各年齢層別視聴者数」を集計するには、ライブ視聴情報を送信していたユーザ端末2のユーザの性別や年齢といったユーザの属性が必要となるが、情報集計サーバ54は、このユーザの属性を、ユーザ登録時にユーザ情報／認証情報DB63に登録されたユーザ情報から認識する。

【0210】

統計データテーブルのうちの、録画再生視聴者情報テーブルのセルについては、録画視聴情報を用いて、各種の集計が行われ、その集計結果としての統計データが登録される。

【0211】

即ち、情報集計サーバ54は、録画視聴情報における放送時基準視聴日時と放送局名に基づき、録画再生視聴者情報テーブルにおいて、その放送時基準視聴日時を包含するタイムゾーンの行と、その放送局名が表す放送局の列とで特定されるセルを、注目セルとして、その注目セルに登録すべき統計データを求め、注目セルに登録する。

【0212】

ここで、録画再生視聴者情報テーブルのセルは、そのセルによって特定されるタイムゾーンの時間帯において、そのセルによって特定される放送局の番組を録画し、後に、その録画番組を再生して視聴していたユーザの数を、ユーザの属性

ごとに表す複数のメンバを有している。即ち、録画再生視聴者情報テーブルのセルも、生視聴者情報テーブルのセルと同様に、録画番組を再生して視聴したユーザすべての数（録画再生視聴者数）、そのユーザの男性の数および女性の数（男女別録画再生視聴者数）、そのユーザの年齢層ごとの数（各年齢層別録画再生視聴者数）をメンバとして有している。また、録画再生視聴者情報テーブルのセルは、やはり、生視聴者情報テーブルのセルと同様に、ユーザから送信されてきた録画視聴情報における好感度の平均値（録画番組好感度の平均値）も、メンバとして有している。

【0213】

情報集計サーバ54は、録画再生視聴者情報テーブルについても、生視聴者情報テーブルにおける場合と同様に、注目セルのメンバの値を、録画視聴情報に基づいて更新する。

【0214】

ここで、録画再生視聴者情報テーブルのセルは、さらに、そのセルによって特定されるタイムゾーンの時間帯において、そのセルによって特定される放送局の番組を録画し、後に、その録画番組を再生して視聴していたユーザを、その録画が行われてから再生が行われるまでの期間ごとに分類したユーザの数も、メンバとして有している。

【0215】

なお、番組の録画が行われてから再生が行われるまでの期間ごとに分類した、その録画番組を再生して視聴したユーザの数を求めるには、番組の録画と再生それぞれが行われたタイミングが必要となるが、情報集計サーバ54では、番組の録画が行われたタイミングは、録画視聴情報における放送時基準視聴日時によって認識され、再生が行われたタイミングは、録画視聴情報における実視聴日時によって認識される。

【0216】

また、番組の録画が行われてから再生が行われるまでの期間としては、例えば、1日以内や、1週間以内、1ヶ月以内、1年以内などを採用することができる。

【0217】

統計データテーブルのうちの、録画予約者情報テーブルのセルについては、予約情報を用いて、各種の集計が行われ、その集計結果としての統計データが登録される。

【0218】

即ち、情報集計サーバ54は、予約情報における録画開始日時および録画終了日時と放送局名に基づき、録画予約者情報テーブルにおいて、その録画開始日時から録画終了日時までに包含されるタイムゾーンの行と、その放送局名が表す放送局の列とで特定されるセルを、注目セルとして、その注目セルに登録すべき統計データを求め、注目セルに登録する。従って、タイムゾーンが、例えば、1分間隔であり、予約情報における録画開始日時と録画終了日時が、例えば、それぞれ、13:00（13時0分）と13:59である場合には、その13:00から13:59までに含まれるタイムゾーンの60行に亘るセルが、注目セルとされ、統計データが登録される。

【0219】

ここで、録画予約者情報テーブルのセルは、そのセルによって特定されるタイムゾーンの時間帯において放送される、そのセルによって特定される放送局の番組の録画予約をしたユーザの数を、ユーザの属性ごとに表す複数のメンバを有している。即ち、録画予約者情報テーブルのセルも、生視聴者情報テーブルのセルと同様に、番組の録画予約をしたユーザすべての数（予約者数）、そのユーザの男性の数および女性の数（男女別予約者数）、ユーザの年齢層ごとの数（各年齢層別予約者数）をメンバとして有している。

【0220】

情報集計サーバ54は、録画予約者情報テーブルについても、生視聴者情報テーブルにおける場合と同様に、注目セルのメンバの値を、予約情報に基づいて更新する。

【0221】

即ち、録画予約者情報テーブルについては、例えば、「予約者数」を例にすれば、予約情報のうち、フラグCommandが、録画予約を表す1になっている場合は

、その「予約者数」の値が、上述した生視聴者情報テーブルの「視聴者数」における場合と同様に1だけインクリメントされる。従って、例えば、上述したように、タイムゾーンが1分間隔であり、予約情報における録画開始日時と録画終了日時が、それぞれ13:00と13:59である場合には、その13:00から13:59までに含まれるタイムゾーンの60行に亘るセルが、注目セルとされ、その60の注目セルそれぞれの「予約者数」の値が1だけインクリメントされる。ここで、上述のような「予約者数」の値の更新方法は、予約情報によって特定される番組を、将来視聴する視聴者の数をカウントしていると考えることができる。

【0222】

なお、録画予約者情報テーブルについては、例えば、「予約者数」を例にすれば、予約情報のうち、フラグCommandが、録画予約を表す1になっている場合は、その「予約者数」の値が、上述した生視聴者情報テーブルの「視聴者数」における場合と同様に1だけインクリメントされるが、フラグCommandが、録画予約の取り消しを表す0になっている場合は、「予約者数」の値は1だけデクリメントされる。

【0223】

ここで、録画予約者情報テーブルのセルには、さらに、そのセルによって特定されるタイムゾーンの時間帯において放送される、そのセルによって特定される放送局の番組の録画予約をしたユーザを、その録画予約が行われてから番組の放送が行われるまでの期間ごとに分類したユーザの数も、メンバとして含めるようにすることができる。

【0224】

なお、番組の録画予約が行われてからその番組の放送が行われるまでの期間ごとに分類した、その録画予約を行ったユーザの数を求めるには、番組の録画予約が行われた日時と、番組の放送時刻が必要となる。番組の放送時刻は、予約情報における録画開始日時（または録画終了日時）から認識することができるが、番組の録画予約自体が行われた日時は、例えば、予約情報に含めて、ユーザ端末2からサーバシステム4に送信するようにする必要がある。但し、番組の録画予約自体が行われた日時としては、例えば、予約情報を情報集計サーバ54が受信し

た日時を採用することが可能である。この場合、予約情報には、番組の録画予約自体が行われた日時を含める必要がない。

【0225】

番組の録画予約が行われてからその番組の放送が行われるまでの期間ごとに分類した、その録画予約を行ったユーザの数によれば、番組の録画予約を、どのくらい前から行ったユーザが、どのくらいの数だけいるのかを認識することが可能となる。

【0226】

ここで、生視聴者情報テーブルに登録されている「視聴者数」は、番組を、その放送時間帯に視聴したユーザの数であるから、その番組について、ユーザの興味の度合いを表す統計データであるといえることができる。

【0227】

また、録画再生視聴者情報テーブルに登録されている「録画再生視聴者数」は、番組を録画し、さらに、その録画した番組を再生して視聴したユーザの数であり、従って、録画してまでも、その番組を見たいというユーザの数であるから、やはり、その番組について、ユーザの興味の度合いを表す統計データであるといえることができる。

【0228】

さらに、録画予約者情報テーブルに登録されている「予約者数」は、番組の録画予約を行ったユーザの数であり、従って、録画して、後で、その番組を視聴するかもしれないユーザの数であるから、やはり、その番組について、ユーザの興味の度合いを表す統計データであるといえることができる。

【0229】

なお、図18の個人DB61におけるユーザごとの生視聴履歴テーブル、録画再生履歴テーブル、および録画予約履歴テーブルについても、図19に示した統計データDB62における統計データテーブルと同様に、例えば、縦方向をタイムゾーンごとに区分けするとともに、横方向を放送局ごとに区分けしたフォーマットを採用することができる。この場合、ユーザ端末2から送信されてくる視聴／予約情報における実視聴日時を包含するタイムゾーンの行、放送基準視聴日時を包

含するタイムゾーンの行、または録画開始日時から録画終了日時までに包含されるタイムゾーンの行と、その視聴／予約情報における放送局名が表す放送局の列とで特定されるセルを、注目セルとして、その注目セルに、視聴／予約情報における他のメンバ（例えば、好感度や、視聴エリア、録画終了時刻など）を登録するようにすることができる。

【0230】

次に、図20のフローチャートを参照して、サーバシステム4における番組情報ページ生成サーバ55（図6）の処理について説明する。

【0231】

サーバシステム4において、webサーバ52は、ユーザ端末2のwebブラウザ42から、EPGが表示されたwebページ（以下、適宜、EPGページという）の要求を、インターネットであるネットワーク3を介して受信すると、番組情報ページ生成サーバ55に対して、EPGページの作成（生成）を要求する。

【0232】

番組情報ページ生成サーバ55は、webサーバ52から、EPGページの作成の要求を受信すると、処理を開始する。

【0233】

即ち、番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS61において、ユーザ認証（個人認証）を行う。

【0234】

ここで、ステップS61のユーザ認証は、例えば、図17のステップS51における場合と同様に行われる。

【0235】

即ち、サーバシステム4において、ユーザ端末2のユーザについて、既に、ユーザ登録が行われているものとする、ユーザ端末2では、そのユーザに対して発行されたユーザ認証情報が、HD15に記録されており、サーバシステム4では、そのユーザ認証情報が、ユーザ情報と対応付けられた形で、ユーザ情報／認証情報として、ユーザ情報／認証情報DB63に記憶されている。そして、webブラウザ42は、webサーバ52に対するEPGページの要求時に、上述したように、サ

ーバシステム 4 から発行されたユーザ認証情報を送信する。

【0236】

番組情報ページ生成サーバ 55 は、ステップ S 61 において、web ブラウザ 42 から送信されてくるユーザ認証情報を、web サーバ 52 を介して受信し、そのユーザ認証情報と、ユーザ情報／認証情報 DB 63 に記憶されているユーザ認証情報との一致を確認することで、ユーザ認証を行う。

【0237】

なお、ステップ S 61 のユーザ認証において、そのユーザ認証が成功しなかった場合、即ち、web ブラウザ 42 からユーザ認証情報が送信されてこなかったり、あるいは、ユーザ認証情報が送信されてきても、そのユーザ認証情報と一致するユーザ認証情報が、ユーザ情報／認証情報 DB 63 に記憶されていない場合、番組情報ページ生成サーバ 55 では、例えば、処理を終了し、その後の web ブラウザ 42 からのアクセスを拒否する。

【0238】

但し、番組情報ページ生成サーバ 55 では、ユーザ認証が成功しなかった場合に、ユーザ端末 2 に、ユーザ登録を促すメッセージを送信し、そのメッセージに対応して、ユーザ登録が行われた後に、処理を続行するようにすること等が可能である。

【0239】

また、ユーザ認証が成功しなかった場合、番組情報ページ生成サーバ 55 では、従来から提供されている、例えば、番組案内データのみからなる EPG 等が表示された EPG ページを生成し、web サーバ 52 を介して、web ブラウザ 42 に送信することが可能である。この場合、ユーザ登録を行っているユーザと、行っていないユーザそれぞれに対して提供される EPG ページが異なることとなるので、ユーザ登録の有無によって、提供するサービスの差別化を図ることが可能となる。

【0240】

ここで、番組情報ページ生成サーバ 55 では、ユーザ登録の有無に関係なく、すべてのユーザに対して、後述するステップ S 63 で作成される EPG ページを提供するようにすることも可能である。

【0241】

ステップS61において、ユーザ認証が行われた後は、ステップS62に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、放送期間を設定する。

【0242】

即ち、webブラウザ42は、webサーバ52に対するEPGページの要求時などに、番組案内データを希望する番組の放送期間（以下、適宜、希望放送期間という）を送信するようになっており、番組情報ページ生成サーバ55は、そのようにしてwebブラウザ42から送信されてくる希望放送期間に放送される番組を、EPGの作成の対象として設定する。

【0243】

なお、webブラウザ42からは、必ずしも、希望放送期間を送信する必要はない。webブラウザ42から希望放送期間が送信されてこない場合、番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS62において、例えば、当日（今日）を、希望放送期間として、その希望放送期間に放送される番組を、EPGの作成の対象として設定する。

【0244】

ステップS62の処理後は、ステップS63に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、希望放送期間に放送される番組についてのEPGを作成し、さらに、そのEPGを配置したEPGページを作成する。ここで、EPGページの記述にあたっては、例えば、インターネット上に構築されているWWWで一般的に採用されているHTML(Hyper Text Markup Language)が用いられる。

【0245】

番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS63においてEPGページを作成すると、ステップS64に進み、そのEPGページを、webサーバ52およびネットワーク3を介して、webブラウザ42に送信して、処理を終了する。

【0246】

webブラウザ42では、以上のようにしてサーバシステム4から送信されてくるEPGページが受信されて表示される。

【0247】

次に、図 21 のフローチャートを参照して、図 20 のステップ S 63 で行われる EPG ページの作成処理について説明する。

【0248】

まず最初に、ステップ S 71 において、番組情報ページ生成サーバ 55 は、希望放送期間に放送される番組を認識し、その番組についての番組案内データを、EPG_DB 64 から読み出すことによって取得する。

【0249】

そして、ステップ S 72 に進み、番組情報ページ生成サーバ 55 は、ステップ S 71 で取得した番組案内データを用いて、後述する EPG レイアの画面を作成し、ステップ S 73 に進む。ステップ S 73 では、番組情報ページ生成サーバ 55 は、後述する番組進行レイアの画面を作成し、ステップ S 74 に進む。ステップ S 74 では、番組情報ページ生成サーバ 55 は、統計データ DB 62 に登録されている統計データ、即ち、図 19 に示した生視聴者情報テーブル、録画再生視聴者情報テーブル、および録画予約者情報テーブルに登録された統計データを用いて、後述する統計データレイアの画面を作成し、ステップ S 75 に進む。ステップ S 75 では、番組情報ページ生成サーバ 55 は、個人別 DB 61 に登録されたユーザごとのアクション履歴データ、即ち、図 18 に示したユーザごとの生視聴履歴テーブル、録画再生履歴テーブル、および録画予約履歴テーブルに登録されたデータ（アクション履歴データ）を用いて、ユーザごとの、後述する個人別履歴データレイアの画面を作成し、ステップ S 76 に進む。ステップ S 76 では、番組情報ページ生成サーバ 55 は、EPG_DB 64 に登録されているコマンドファイルにリンクされている操作データを用いて、ユーザごとの、後述するコントローラレイアの画面を作成し、ステップ S 77 に進む。

【0250】

ステップ S 77 では、番組情報ページ生成サーバ 55 は、EPG レイア、番組進行レイア、統計データレイア、個人別履歴データレイア、コントローラレイアの各画面を重畳することにより、EPG ページを作成し、EPG ページの作成処理を終了する。

【0251】

なお、上述の場合には、EPGレイヤ、番組進行レイヤ、統計データレイヤ、個人別履歴データレイヤ、コントローラレイヤの各画面の作成後、それらの画面を重畳するようにしたが、その他、番組進行レイヤ、統計データレイヤ、個人別履歴データレイヤ、コントローラレイヤの各画面は、その画面が作成され次第、順次、最初に作成されるEPGレイヤの画面に重畳していくことも可能である。

【0252】

また、EPGレイヤ、番組進行レイヤ、統計データレイヤ、個人別履歴データレイヤ、コントローラレイヤの画面のうちの、EPGレイヤ、番組進行レイヤ、統計データレイヤの画面は、各ユーザに共通に用いることが可能であり、従って、EPGレイヤ、番組進行レイヤ、統計データレイヤの画面については、必ずしも、ユーザからのアクセスのたびに作成しなくても良い。即ち、別のユーザ（もしくは同じユーザ）から行われた過去のアクセスにより、既に、EPGレイヤ、番組進行レイヤ、統計データレイヤの画面が作成され、キャッシュされている場合には、そのキャッシュされているEPGレイヤ、番組進行レイヤ、統計データレイヤの画面を用いて、EPGページを作成することが可能である。

【0253】

ここで、EPGレイヤの画面（さらには、その作成に用いられた、ステップS71で取得された番組案内データ）については、キャッシュの期間を、例えば、1日とすることができる。即ち、サーバシステム4では、その日に最初にアクセスしたユーザに対して作成したEPGレイヤの画面をキャッシュしておいて、以後、その1日間は、そのキャッシュされたEPGレイヤの画面を利用するようにすることができる。また、番組進行レイヤと統計データレイヤの画面については、キャッシュの期間を、例えば、上述した図19の統計データテーブルにおけるタイムゾーンの時間間隔と同一とすることができる。タイムゾーンの時間間隔の間であれば、統計データテーブルにおける統計データを新たに計算する必要はないからである。

【0254】

次に、図22は、図21のステップS72で作成されるEPGレイヤの画面を、模式的に示している。

【0255】

EPGレイヤの画面は、例えば、縦方向を時刻とするとともに、横方向を放送局として、番組が放送される時間と放送局によって特定される番組の欄に、その番組についての番組案内データが配置されることによって作成される。

【0256】

ここで、図23に、実際のEPGレイヤの画面のイメージを示す。

【0257】

次に、図24は、図21のステップS73で作成される番組進行レイヤの画面を、模式的に示している。

【0258】

番組進行レイヤの画面は、EPGレイヤの画面と同一の、例えば、縦方向を時刻とするとともに、横方向を放送局とするレイアウトを採用し、番組が放送される時間と放送局によって特定される番組の欄が、その番組の進行状況（放送状況）ごとに異なる表示態様で表示されるように構成されることによって作成される。

【0259】

即ち、図24の実施の形態では、放送が終了した番組、放送中の番組、未放送の番組それぞれごとに異なる表示態様で、各番組の欄が構成されている。

【0260】

そして、図24では、現在時刻が13時30分頃であるとして、放送が終了した番組の欄を、薄い影を付して示してある。また、図24では、放送中の番組の欄を、濃い影を付して示してあり、未放送の番組の欄を、影を付さずに示してある。

【0261】

ここで、図25に、実際の番組進行レイヤの画面のイメージを示す。図25では、現在時刻が15時であるとして、各番組の欄に、その番組の放送状況に対応する模様を付してある。

【0262】

なお、放送が終了した番組、放送中の番組、未放送の番組それぞれの欄は、上述したように、濃淡の異なる影を付したり、異なる模様を付す他、例えば、表示

色を変えたりすることなどが可能である。

【0263】

次に、図26は、図21のステップS74で作成される統計データレイヤの画面を、模式的に示している。

【0264】

統計データレイヤの画面は、EPGレイヤの画面と同一の、例えば、縦方向を時刻とするとともに、横方向を放送局とするレイアウトを採用し、番組が放送される時間と放送局によって特定される番組の欄に、その番組について集計された統計データ等が配置されることによって作成される。

【0265】

即ち、統計データレイヤの画面の番組の欄には、例えば、録画再生視聴者数アイコン101、録画予約者数アイコン102、生視聴者アイコン103、好感度指数アイコン104、より詳細な総計データのwebページへリンクされている「詳細」の文字のリンク表示である「詳細」リンク表示105の中から必要なものが配置される。

【0266】

録画再生視聴者数アイコン101は、その録画再生視聴者数アイコン101が配置される欄の番組を録画し、その録画番組を再生して視聴したユーザの人数（録画再生視聴者数）の平均値とともに配置される。ここで、番組を録画するには、少なくとも、その番組の放送が開始されている必要があり、従って、録画再生視聴者数アイコン101は、放送が開始されている番組の欄には配置されうるが、放送が開始されていない番組の欄には配置されない。

【0267】

録画予約者数アイコン102は、その録画予約者数アイコン102が配置される欄の番組の録画予約を行ったユーザの人数（予約者数）とともに配置される。従って、録画予約者数アイコン102は、いずれの番組の欄にも配置されうる。

【0268】

生視聴者アイコン103は、その生視聴者アイコン103が配置される欄の番組を、その番組の放送中に視聴したユーザに関する統計データ（生視聴者データ

）とともに配置される。従って、生視聴者アイコン103は、放送が開始された番組の欄には配置されうるが、放送が開始されていない番組の欄には配置されない。

【0269】

ここで、図26の実施の形態では、生視聴者アイコン103は、番組の放送中に視聴したユーザに関する3種類の統計データとともに配置されるようになっている。生視聴者アイコン103のすぐ右側には、番組を視聴した（視聴している）ユーザの数の平均値（平均視聴者数）が配置され、その平均値の右側には、括弧付きで、番組を視聴した（視聴している）ユーザの最大数（最大視聴者数）が配置される。そして、その最大数の右側には、%付きで、視聴率が配置される。

【0270】

好感度指数アイコン104は、その好感度指数アイコン104が配置される欄の番組の好感度によって示される、その番組の面白さまたはつまらなさの度合い（以下、適宜、好感度指数という）を表す。即ち、好感度アイコン104は、その左側に、番組がつまらないことを表すキャラクタが配置され、その右側に、番組が面白いことを表すキャラクタが配置されるとともに、その左右のキャラクタの間に、面白さまたはつまらなさの度合い（好感度指数）を表すバーが配置されて構成される。そして、そのバーが、所定の位置で左右に二分されており、その二分されている位置が、左または右の位置であるほど、それぞれ、番組がつまらないまたは面白いことを表す。

【0271】

なお、録画再生視聴者数アイコン101とともに配置される録画再生視聴者数、録画予約者数アイコン102とともに配置される録画予約者数、生視聴者アイコン103とともに配置される生視聴者データ、および好感度指数アイコン104によって表される好感度指数の求め方については、後述する。

【0272】

また、統計データレイヤの画面に表示される「詳細」リンク表示105が、webブラウザ42上でクリックされた場合、番組情報ページ生成サーバ55は、より詳細な総計データのwebページ（以下、適宜、詳細視聴情報ページという）を

作成し、webブラウザ42に送信するが、この詳細視聴情報ページの詳細についても、後述する。

【0273】

ここで、図27に、実際の統計データレイヤの画面のイメージを示す。なお、図27では、現在時刻が15時であるとしてあり、また、好感度指数アイコン104および「詳細」リンク表示105の表示を省略してある。また、図27では、録画再生視聴者数アイコン101とともに配置される録画再生視聴者数、録画予約者数アイコン102とともに配置される録画予約者数、生視聴者アイコン103とともに配置される生視聴者データは図示してあるが、録画再生視聴者数アイコン101、録画予約者数アイコン102、生視聴者アイコン103自体の図示は、省略してある。

【0274】

次に、図28は、図21のステップS75で作成される個人別履歴データレイヤの画面を、模式的に示している。

【0275】

個人別履歴データレイヤの画面は、EPGレイヤの画面と同一の、例えば、縦方向を時刻とするとともに、横方向を放送局とするレイアウトを採用し、番組が放送される時間と放送局によって特定される番組の欄に、その番組についてユーザが行った（行っている）アクションを表すアクション履歴データが配置（反映）されることによって作成される。

【0276】

即ち、ユーザが、番組を録画したが、まだ、その録画番組を再生して視聴していない場合には、その番組の欄に、例えば、メッセージ「録画しました。まだ見てません」が、ユーザが行ったアクションを表すアクション履歴データとして配置される。

【0277】

また、ユーザが、既に放送が終了している番組を、その番組の放送時間帯に視聴した場合には、その番組の欄に、例えば、メッセージ「生で見ました。」が、ユーザが行ったアクションを表すアクション履歴データとして配置される。

【0278】

さらに、ユーザが、現在放送されている番組を視聴している場合には、その番組の欄に、例えば、メッセージ「今見えます。」が、ユーザが行っているアクションを表すアクション履歴データとして配置される。

【0279】

また、ユーザが、番組の録画予約を行った場合には、その番組の欄に、例えば、メッセージ「予約しています。」が、ユーザが行っているアクションを表すアクション履歴データとして配置される。

【0280】

以上のように、個人別履歴データレイヤの画面には、各番組の欄に、その番組についてユーザが行ったアクションを表すメッセージが表示される。そして、個人別履歴データレイヤの画面は、その縦方向が時刻を表すから、個人別履歴データレイヤの画面を縦方向に見ていった場合には、ユーザが各番組について行ったアクションの履歴を表示しているといえることができる。

【0281】

ここで、図29に、実際の個人別履歴データレイヤの画面のイメージを示す。

【0282】

図29の個人別履歴データレイヤの画面では、メッセージ「生で見ました。」の代わりに、メッセージ「生視聴」が採用されているとともに、メッセージ「予約しています。」の代わりに、メッセージ「予約」が採用されている。

【0283】

なお、個人別履歴データレイヤの画面においては、番組の欄に、その番組についてユーザが行ったアクションを表すアクション履歴データとしてのメッセージを配置する他、そのアクション履歴データに対応する模様や影を付したり、色付けを行ったりすることも可能である。

【0284】

ところで、番組情報ページ生成サーバ55は、上述したように、図21のステップS75において、個人別DB61に登録されたユーザごとのアクション履歴データを用いて、個人別履歴データレイヤの画面を作成する。アクション履歴デー

タは、図18に示したように、ユーザごとの生視聴履歴テーブル、録画再生履歴テーブル、および録画予約履歴テーブルに分けて登録されている。そして、いま、例えば、生視聴履歴テーブルに注目すると、生視聴テーブルでは、視聴情報のうちの実視聴日時を主キーとして、視聴情報の他のメンバである放送局名、視聴エリア、好感度とともに、1レコードが構成されている。

【0285】

従って、生視聴テーブルによれば、ユーザが、その放送時間帯に視聴した番組を、生視聴テーブルの各レコードにおける実視聴日時と放送局名から特定することができる他、その番組を視聴していた時刻も、実視聴日時から特定することができる。

【0286】

その結果、例えば、ユーザが、あるチャンネルの番組の視聴を開始し、その番組の途中で、その番組の視聴を中止して、他のチャンネルの番組の視聴を開始した場合には、生視聴テーブルを参照することにより、ユーザが、あるチャンネルの番組の視聴を開始した時刻と終了した時刻、および他のチャンネルの番組の視聴を開始した時刻と終了した時刻を認識することができる。

【0287】

従って、上述の場合には、個人別履歴データレイヤの画面における番組の欄単位に、その番組についてユーザが行ったアクションを表すアクション履歴データを配置するようにしたが、個人別履歴データレイヤの画面には、番組の欄を、時刻の方向である上下方向に分割した、番組の欄より細かい単位で、ユーザが行ったアクションを表すアクション履歴データを配置することが可能である。

【0288】

具体的には、例えば、上述したように、ユーザが、あるチャンネルの番組の視聴を開始し、その番組の途中で、その番組の視聴を中止して、他のチャンネルの番組の視聴を開始した場合には、個人別履歴データレイヤの画面において、あるチャンネルの番組の欄の開始時刻から、ユーザがその番組の視聴を中止した時刻までの部分に、メッセージ「生で見ました。」を配置し、さらに、他のチャンネルの番組の欄の、ユーザがその番組の視聴を開始した時刻から終了した時刻まで

の部分に、メッセージ「生で見ました。」を配置することが可能である。

【0289】

個人別履歴データレイヤの画面には、生視聴履歴テーブルの他、録画再生履歴テーブルや、録画予約履歴テーブルに登録されたアクション履歴データも、番組の欄より細かい単位で配置することが可能であり、この場合、個人別履歴データレイヤの画面には、番組全体の視聴や録画予約等が行われたといった情報の他、番組の一部の視聴や録画予約等が行われたといった情報を反映することができる。

【0290】

次に、図30は、図21のステップS76で作成されるコントローレイヤの画面を、模式的に示している。

【0291】

コントローレイヤの画面は、EPGレイヤの画面と同一の、例えば、縦方向を時刻とするとともに、横方向を放送局とするレイアウトを採用し、番組が放送される時間と放送局によって特定される番組の欄に、その番組について、ユーザ端末2のTV総合アプリケーション43に所定の処理を行わせるときに操作される操作データが配置されることによって作成される。

【0292】

即ち、コントローレイヤの画面の番組の欄には、操作データとしての、例えば、再生ボタン111、削除ボタン112、視聴ボタン113、予約ボタン114の中から必要なものが配置される。

【0293】

再生ボタン111は、その再生ボタン111が配置された欄の番組を再生するときに操作される。即ち、コントローレイヤの画面が、ユーザ端末2のwebブラウザ42に表示されている状態で、再生ボタン111が操作（例えば、クリック）されると、録画再生プログラム44が起動していない場合には、録画再生プログラム44が起動され、その録画再生プログラム44によって表示される図9の表示ウィンドウ71において、操作された再生ボタン111が配置されている欄の番組の再生が行われる。

【0294】

従って、再生ボタン111は、ユーザ端末2において録画され、HD15等に記録されている番組の欄のみに表示される。

【0295】

削除ボタン112は、その削除ボタン112が配置された欄の番組を削除するときに操作される。即ち、コントローレイヤの画面が、ユーザ端末2のwebブラウザ42に表示されている状態で、削除ボタン112が操作されると、録画再生プログラム44が起動していない場合には、録画再生プログラム44が起動され、その録画再生プログラム44において、操作された削除ボタン112が配置されている欄の番組であって、ユーザ端末2において録画され、HD15に記録されている番組（のファイル）が、HD15上から削除される。

【0296】

従って、削除ボタン112は、再生ボタン111と同様に、ユーザ端末2において録画され、HD15等に記録されている番組の欄のみに表示される。

【0297】

視聴ボタン113は、その視聴ボタン113が配置された欄の番組を視聴するときに操作される。即ち、コントローレイヤの画面が、ユーザ端末2のwebブラウザ42に表示されている状態で、視聴ボタン113が操作されると、録画再生プログラム44が起動していない場合には、録画再生プログラム44が起動され、その録画再生プログラム44によって表示される図9の表示ウィンドウ71において、操作された視聴ボタン113が配置されている欄の番組の表示が行われる。

【0298】

従って、視聴ボタン113は、現在視聴することができる番組、即ち、現在放送されている番組の欄のみに表示される。但し、ユーザ端末2において、録画再生プログラム44が起動され、図9の表示ウィンドウ71において、現在放送されている、ある番組が表示されている場合、既に、その番組の表示が行われているので、再度、表示ウィンドウ71に、その番組を表示させる必要はない。従って、表示ウィンドウ71に既に表示されている番組の欄には、視聴ボタン113

を表示しないようにすることができる。

【0299】

予約ボタン114は、その予約ボタン114が配置された欄の番組の録画予約を行うときに操作される。即ち、コントローレイヤの画面が、ユーザ端末2のwebブラウザ42に表示されている状態で、予約ボタン114が操作されると、録画予約プログラム45が起動していない場合には、録画予約プログラム45が起動され、その録画予約プログラム45において、操作された予約ボタン114が配置されている欄の番組の録画予約が行われる。

【0300】

従って、予約ボタン114は、ユーザ端末2において、これから録画することができる番組、即ち、まだ放送が開始されていない番組の欄のみに表示される。

【0301】

なお、予約ボタン114が操作され、番組の録画予約が行われた場合には、再度、予約ボタン114が操作されたときに、その録画予約の取り消しを行うようにすることが可能である。番組の録画予約が行われているかどうかは、図28および図29で説明した個人別履歴データレイヤの画面によって確認することができる。

【0302】

また、録画予約が行われた番組の欄には、図30において点線で示すように、取り消しボタン115を配置するようにすることができる。取り消しボタン115が操作された場合、録画予約プログラム45において、その取り消しボタン115が配置された欄の番組に対して行われた録画予約が取り消される。

【0303】

ところで、本件出願人は、インターネット上で提供するEPGのwebページであるiEPG(internet EPG)について先に提案しており、既に、<http://www.so-net.ne.jp/tv/>からリンクされているwebページにおいて、iEPGを提供している。

【0304】

iEPGでは、その各番組の欄に、その番組を特定する情報が記述された、その番組の録画予約に用いられる録画予約データファイルへリンクされている、「予約

」の文字のリンク表示である「予約」リンク表示が配置されている。

【0305】

クライアント側において、ユーザが、iEPGにおける「予約」リンク表示をクリックすると、図31Aに示すように、クライアントは、その「予約」リンク表示からリンクされている録画予約データファイルを、サーバからダウンロードし、その録画予約データファイルの記述内容によって特定される番組（クリックされた「予約」リンク表示が配置された欄の番組）の録画予約を行う。なお、iEPGにおいて、録画予約を行うためには、専用のアプリケーションプログラムが起動していなければならない。ここで、この録画予約を行うためには、専用のアプリケーションプログラムとしては、例えば、本件出願人により開発された「GigaPocket」（登録商標）がある。

【0306】

一方、コントローレイヤの画面の番組の欄に配置される操作データとしての再生ボタン111、削除ボタン112、視聴ボタン113、予約ボタン114には、各ボタンが操作されることによって行われる上述した処理の実行を指令するコマンドを含む情報が記述されたコマンドファイルへのリンクが張られる。

【0307】

従って、ユーザ端末2（クライアント）において、ユーザが、操作データとしての再生ボタン111、削除ボタン112、視聴ボタン113、または予約ボタン114を操作した場合には、図31Bに示すように、ユーザ端末2は、その操作された操作データからリンクされているコマンドファイルを、サーバシステム4（サーバ）からダウンロードし、そのコマンドファイルに記述されているコマンドを実行することができる。

【0308】

以上のように、iEPGでは、「予約」リンク表示からリンクされている録画予約データファイルに記述されているのが、番組を特定する情報であるから、その録画予約データファイルによって特定される番組の録画予約等の固定の処理が行われることとなるが、コントローレイヤの画面では、操作データからリンクされているコマンドファイルには、番組を特定する情報に加えて、コマンドが記述さ

れているため、録画予約などの固定の処理に限らず、そのコマンドに応じた種々の処理を行うことが可能となる。

【0309】

なお、図31Bに図示してある"Command=play this program", "Play this 25min. after the program starts.", "Command=reserve this program", "Command=remove this program"は、コマンドファイルに記述するコマンドの例示である。

【0310】

コマンド"Command=play this program"は、例えば、再生ボタン111からリンクされるコマンドファイルに記述されるコマンドで、その再生ボタン111が表示された欄の番組の再生を行うことを指令するコマンドである。

【0311】

コマンド"Play this 25min. after the program starts."は、そのコマンドが記述されたコマンドファイルにリンクされた操作データが操作された場合に、その操作データによって特定される番組の再生を、その番組の開始時刻から25分経過した時刻から開始するように指令するコマンドである。なお、このようなコマンドの使用方法については、後述する。

【0312】

コマンド"Command=reserve this program"は、例えば、予約ボタン114からリンクされるコマンドファイルに記述されるコマンドで、その予約ボタン114が配置された欄の番組の録画予約を行うことを指令するコマンドである。

【0313】

コマンド"Command=remove this program"は、例えば、削除ボタン112からリンクされるコマンドファイルに記述されるコマンドで、その削除ボタン112が配置された欄の番組（録画された番組）の削除を行うことを指令するコマンドである。

【0314】

なお、コマンドファイルは、例えば、サーバシステム4のEPG_DB64に記憶させておき、ユーザ端末2で操作された操作データに対応するコマンドファイルを、ユーザ端末2に送信するようにすることができる。また、コマンドファイルは

、例えば、webサーバ52において、ユーザ端末2で操作された操作データに対応するコマンドファイルを、動的に生成し、ユーザ端末2に送信するようにすることも可能である。

【0315】

ここで、図32に、実際のコントローレイヤの画面のイメージを示す。なお、図32では、図30における予約ボタン114のみを図示しており、他の再生ボタン111、削除ボタン112、および視聴ボタン113の図示は、省略してある。

【0316】

図21のステップS77では、観念的には、以上のような図22のEPGレイヤの画面、図24の番組進行レイヤの画面、図26の統計データレイヤの画面、図28の個人別履歴データレイヤの画面、および図30のコントローレイヤの画面を、図33に示すように重畳することにより、最終的なEPGページが作成される。従って、EPGページは、図34に示すように、それらの画面に配置された情報すべてを有するものとなる。

【0317】

ここで、図34においては、図が煩雑になるのを避けるため、符号の図示を省略してある。

【0318】

なお、EPGページを構成する各レイヤの画面のうち、EPGレイヤの画面、番組進行レイヤの画面、統計データレイヤの画面は、すべてのユーザに共通のものが作成されるが、個人別履歴データレイヤの画面とコントローレイヤの画面は、ユーザごとに作成されるので、その作成のためには、サーバシステム4にアクセスしてきたユーザを特定する必要がある。

【0319】

従って、サーバシステム4において、アクセスしてきたユーザ端末2のユーザを特定するための、例えば、ユーザ認証などの処理を行わない場合には、そのアクセスしてきたユーザを特定することができず、個人別履歴データレイヤの画面とコントローレイヤの画面を作成することができない。但し、この場合、サー

バスシステム 4 では、例えば、個人別履歴データレイヤの画面とコントローレイヤの画面を用いず、EPGレイヤの画面、番組進行レイヤの画面、および統計データレイヤの画面を重畳して、EPGページを作成し、ユーザに提供するようにすることが可能である。

【0320】

なお、図 20 の実施の形態では、図 34 に示した EPG ページを作成した後に、その EPG ページを、ユーザ端末 2 に送信するようにしたが、その他、例えば、EPG レイヤ、番組進行レイヤ、統計データレイヤ、個人別データレイヤ、コントローレイヤの画面を、各画面の作成が完了次第、ユーザ端末 2 に送信することが可能である。この場合、ユーザ端末 2 では、各画面レイヤの画面が順次重畳されていき、最終的には、図 34 の EPG ページが表示される。

【0321】

次に、サーバシステム 4 の番組情報ページ生成サーバ 55 は、例えば、1 日分の番組の番組案内データを用いて、1 ページの EPG レイヤの画面を作成する。番組進行レイヤの画面、統計データレイヤの画面、個人別履歴データレイヤの画面、およびコントローレイヤの画面は、上述したように、いずれも、EPG レイヤの画面と同様のレイアウトを採用するから、やはり、1 日分の番組について、1 ページの画面が作成される。

【0322】

従って、番組情報ページ生成サーバ 55 が作成する EPG ページは、図 35 に示すように、1 日分の番組の情報が 1 ページに配置されたものとなる。

【0323】

この場合、ユーザ端末 2 の web ブラウザ 42 では、一般に、1 日分の EPG ページの全体を表示することはできず、図 35 に示すように、その EPG ページの一部が表示されることになる。しかしながら、ユーザは、web ブラウザ 42 に表示された EPG ページをスクロールさせることで、その 1 日に放送される番組についての情報を、即座に得ることができる。

【0324】

即ち、サーバシステム 4 における EPG ページの提供方法としては、例えば、1

日を幾つかの時間帯に区切った各時間帯のEPGページのうち、webブラウザ42から要求があった時間帯のものを、サーバシステム4から提供する方法がある。

【0325】

しかしながら、この場合、ユーザは、他の時間帯のEPGページを見たい場合には、再度、その他の時間帯のEPGページを、サーバシステム4に要求する必要がある。さらに、サーバシステム4からwebブラウザ42へのEPGページの送信には、ある程度の時間を要し、従って、ユーザは、他の時間帯のEPGページを見たいと思ってから、実際に、そのEPGページを見るまでに、ある程度の時間だけ待たなければならない。

【0326】

これに対して、図35に示したように、1日単位のEPGページを、サーバシステム4からwebブラウザ42に送信する場合には、ユーザは、スクロールをするだけで、その日の任意の番組に関する情報を、即座に得ることが可能となる。

【0327】

ここで、1日である24時間の計時には、一般には、0時から23時までが用いられるが、番組情報ページ生成サーバ55で作成されるEPGページの縦方向を表す時刻の表示には、放送局において1日の番組の放送が開始される時刻から計時される時刻を採用することが可能である。即ち、放送局において、1日の番組の放送が、例えば、5時に開始される場合には、番組情報ページ生成サーバ55で作成されるEPGページの縦方向を表す時刻の表示には、5時を基準として、5時から28時までを用いることが可能である。

【0328】

次に、ユーザ端末2のwebブラウザ42において、図34に示したようなEPGページが表示され、ユーザが、操作データである再生ボタン111、削除ボタン112、視聴ボタン113、または予約ボタン114（図30）を操作した場合に行われる処理について、例えば、予約ボタン114が操作されたケースを例に説明する。

【0329】

ユーザが、ユーザ端末2のwebブラウザ42に表示されたEPGページにおいて、

録画予約を希望する番組の欄に配置された予約ボタン 1 1 4 をクリック等すると、その予約ボタン 1 1 4 からリンクされたコマンドファイルが、サーバシステム 4 の webサーバ 5 2 に要求される。webサーバ 5 2 は、webブラウザ 4 2 からの要求に応じて、ユーザによってクリックされた予約ボタン 1 1 4 にリンクされたコマンドファイルを、例えば、EPG_DB 6 4 から読み出し（あるいは動的に作成し）、ユーザ端末 2 に送信する。そして、ユーザ端末 2 は、webサーバ 5 2 からのコマンドファイルを受信し、コマンドファイルに記述されたコマンドに対応する処理を行う。

【0 3 3 0】

ここで、図 3 6 は、コマンドファイルを示している。

【0 3 3 1】

コマンドファイルは、例えば、各行が、属性とその属性値とがコロン (:) で区切られて構成される。

【0 3 3 2】

コマンドファイルの 1 行目の "Content-type: application/x-tv-program-info; charset=shift_jis" は、このコマンドファイルに、番組を特定する情報 (application/x-tv-program-info) が記述されており、さらに、コマンドファイルの記述に、シフトJISコード (charset=shift_jis) が採用されていることを示している。

【0 3 3 3】

コマンドファイルの 2 行目の "version:1" は、コマンドファイルの記述規則のバージョンが 1 であることを示している。

【0 3 3 4】

コマンドファイルの 3 行目の "command:Command=reserve this program" は、コマンドファイルに記述されている情報によって特定される番組（これは、ユーザがクリックした予約ボタン 1 1 4 は配置された欄の番組に等しい）の録画予約を行うことを指令するコマンドである。

【0 3 3 5】

ユーザ端末 2 の TV 総合アプリケーション 4 3 は、属性 "command" の属性値であ

るコマンド"Command=reserve this program"を解釈し、そのコマンドに対応する処理を行う。いまの場合、コマンド"Command=reserve this program"は、録画予約を行うことを指令するコマンドであるから、録画予約プログラム 4 5 が起動され、コマンドファイルの記述内容によって特定される番組の録画予約が行われる。

【0 3 3 6】

コマンドファイルの 4 行目の"station:大日本テレビジョン"は、番組を放送する放送局の放送局名が、"大日本テレビジョン"であることを示している。

【0 3 3 7】

コマンドファイルでは、この放送局名については、所定の範囲での曖昧な記述が許容されており、図 3 7 に示すチャンネル変換ファイルを利用した処理により、放送局名が、その放送局名によって特定される放送局のチャンネル（番組が放送されるチャンネル）に変換される。

【0 3 3 8】

即ち、図 3 7 のチャンネル変換ファイルの、例えば、"1 4, 0, 0, 1 4, 大日本テレビジョン, 大日本テレビジョン, 大日テレ, 大日本テレビジョン放送網, DTV"の文字列において、左から 1 つ目の数字"1 4"は、チャンネルを表しており、左から 3 つ目のコンマの右に位置する数字"1 4"は、チャンネル表示のデータであり、左から 4 つ目のコンマの右に位置する文字列"大日本テレビジョン"は、放送局名表示のためのデータである。左から 5 つ目のコンマの右に位置する、コンマで区切られた文字列（"大日本テレビジョン", "大日テレ", "大日本テレビジョン放送網", "DTV"のそれぞれ）は、コマンドファイルの"station:"の後に記述される放送局名とマッチングさせるための文字列である。

【0 3 3 9】

例えば、図 3 6 のコマンドファイルには、"station:大日本テレビジョン"と記述されているが、この場合、録画予約プログラム 4 5 は、"station:"に続く文字列"大日本テレビジョン"が、チャンネル変換ファイルの、左から 5 つ目のコンマの右に位置する文字列のいずれかとマッチングするか否かを判定する。

【0 3 4 0】

図 3 7 に示したように、チャンネル変換ファイルに、"1 4, 0, 0, 1 4, 大日本テレビジョン, 大日本テレビジョン, 大日テレ, 大日本テレビジョン放送網, DTV" の文字列が含まれている場合には、録画予約プログラム 4 5 では、"station:" に続く文字列 "大日本テレビジョン" が、チャンネル変換ファイルに記述された文字列 "大日本テレビジョン" (左から 5 つ目のコンマの右に位置する) にマッチングすると判定される。

【0 3 4 1】

コマンドファイルにおける "station:" に続く文字列と、チャンネル変換ファイルの文字列とがマッチングしたとき、録画予約プログラム 4 5 は、マッチングしたチャンネル変換ファイルの同じ行に記述されているチャンネルを、番組が放送されるチャンネルとして認識する。

【0 3 4 2】

例えば、図 3 7 における "1 4, 0, 0, 1 4, 大日本テレビジョン, 大日本テレビジョン, 大日テレ, 大日本テレビジョン放送網, DTV" の文字列と、コマンドファイルにおける "station:" に続く文字列とがマッチングしたとき、録画予約プログラム 4 5 は、"1 4" を、番組が放送されるチャンネルとして認識する。

【0 3 4 3】

従って、図 3 7 のチャンネル変換ファイルによれば、例えば、コマンドファイルにおける "station:" に続く文字列が、"大日本テレビジョン"、"大日テレ"、"大日本テレビジョン放送網"、または "DTV" のいずれであっても、録画予約プログラム 4 5 において、番組が放送されるチャンネルが "1 4" であることを認識することができる。

【0 3 4 4】

このように、コマンドファイルにおいて、"station:" に続けて記述される放送局名が、ある程度曖昧であっても、録画予約プログラム 4 5 は、その放送局名の放送局のチャンネルを認識することができる。なお、チャンネル変換ファイルは、例えば、視聴エリアごとに用意され、TV 総合アプリケーション 4 3 では、初期設定時に設定された視聴エリアに対応するチャンネル変換ファイルが使用される。

【0345】

図36に戻り、コマンドファイルの5行目"year:1999"、6行目"month:04"、7行目"data:06"は、それぞれ、番組が放送される年が1999年であること、月が4月であること、日が4日であることを表す。コマンドファイルの8行目"start:21:00"と、9行目"end:21:03"は、番組の放送開始時刻が21:00(21時0分)であることと、終了時刻が21:03であることを、それぞれ表す。コマンドファイルの10行目"program-title:火曜サスペンスクイズ"と、11行目"program-subtitle:「犯人は誰?」"は、番組のタイトルが火曜サスペンスクイズであることと、番組のサブタイトルが「犯人は誰?」であることを、それぞれ表す。

【0346】

なお、コマンドファイルの記述は、上述したように、属性とその属性値とをコロンで区切って行われるから、コロンの直後に記述される属性値が何を表すかは、コロンの直前に記述される属性(属性名)から判断することができる。従って、どのような属性とその属性値のセットを、コマンドファイルの何行目に記述するかは、特に限定されない。

【0347】

また、図36の実施の形態では、コマンドファイルは、テキストデータの1つであるシフトJISコードで記述されている。この場合、ユーザは、例えば、ワードプロセッサまたはテキストエディタ等の汎用のアプリケーションプログラムで、コマンドファイルを簡単に作成、編集等することができる。

【0348】

上述したように、ユーザ端末2は、コマンドファイルに記述されたコマンドに対応する処理を行う。

【0349】

即ち、コマンドファイルが、例えば、図36に示したものである場合には、コマンド"Command=reserve this program"にしたがい、録画予約プログラム45が起動され(但し、この起動の処理は、録画予約プログラム45が既に起動している場合にはスキップされる)、コマンドファイルの記述内容によって特定される

番組の録画予約が行われる。

【0350】

具体的には、例えば、録画予約プログラム45は、図38に示すように、録画する番組のチャンネルおよび放送局名、並びに録画の開始日および開始時刻を設定する開始ウィンドウを、出力部17（のディスプレイ）に表示させる。そして、録画予約プログラム45は、この開始ウィンドウの所定のフィールドのそれぞれに、図36のコマンドファイルによって特定される番組のチャンネルおよび放送局名、並びに、開始日（放送日）および開始時刻（放送開始時刻）（図の例では、時および分は、それぞれ異なるフィールドに設定される）を設定する。

【0351】

番組のチャンネルおよび放送局名、並びに開始日および開始時刻が設定された後、ユーザが、“次へ”と表示されたボタンをクリックすると、録画予約プログラム45は、図38の開始ウィンドウから、図39の終了ウィンドウに表示を切り換える。

【0352】

図39の終了ウィンドウには、図38の開始ウィンドウの所定のフィールドにそれぞれ設定された番組のチャンネル、並びに開始日および開始時刻が反映されている。そして、録画予約プログラム45は、図39の終了ウィンドウの所定のフィールドに、図36のコマンドファイルによって特定される番組の終了時刻（図の例では、時および分は、それぞれ異なるフィールドに設定される）を設定する。

【0353】

なお、図39の終了ウィンドウには、録画モードを設定するフィールドも設けられている。録画モードは、例えば、デフォルトで“標準”に設定される。

【0354】

また、図38および図39のウィンドウにおいて、▼印が付されているフィールドについては、ユーザが、その▼印の部分をクリックすることによって、その▼印が付されているフィールドに設定されている値を変更することが可能である。

【0355】

録画予約プログラム45は、終了時刻および録画モードを設定した後、番組の録画時間、録画に使用されるHD15の使用量等を計算し、図39の終了ウィンドウに表示する。

【0356】

その後、図39の終了ウィンドウにおいて、“次へ”と表示されたボタンを、ユーザがクリックすると、録画予約プログラム45は、図39のウィンドウから、図40の確認ウィンドウに表示を切り換える。

【0357】

図40の確認ウィンドウにおいては、図38の開始ウィンドウと図39の終了ウィンドウで設定された情報、即ち、録画する番組のチャンネルおよび放送局名、番組の開始日および開始時刻、番組の終了日および終了時刻、並びに録画モード等を表示する。

【0358】

図40の確認ウィンドウにおいて、“完了”と表示されたボタンを、ユーザがクリックすると、録画予約プログラム45は、HD15上の所定のファイルである録画予約管理用ファイルに、図40の確認ウィンドウに表示された情報等を登録し、図40の確認ウィンドウを閉じて、録画予約を完了する。

【0359】

その後、現在の日時が、録画予約管理ファイルに登録された番組の放送開始日時となると、録画予約プログラム45は、録画再生プログラム44に、その録画予約ファイルに記述された情報によって特定される番組の録画を要求する。これにより、録画再生プログラム44では、その番組の録画が行われ、その番組の画像データと音声データが、HD15に記録される。

【0360】

EPGページにおいて、予約ボタン114以外の操作データ（再生ボタン111、削除ボタン112、視聴ボタン113、取り消しボタン115）が操作された場合にも、その操作データに対応するコマンドファイルが、サーバシステム4からユーザ端末2にダウンロードされ、ユーザ端末2において、そのコマンドファ

イルに記述されたコマンドにしたがった処理が行われる。即ち、再生ボタン 1 1 1 または削除ボタン 1 1 2 が操作された場合には、その再生ボタン 1 1 1 または削除ボタン 1 1 2 が配置された欄の番組についての HD 1 5 上の画像データと音声データの再生または削除が、それぞれ行われる。また、視聴ボタン 1 1 3 が操作された場合には、その視聴ボタン 1 1 3 が配置された番組の受信が TV チューナ 2 0 で行われ、その番組の画像と音声が出力される。さらに、取り消しボタン 1 1 5 が操作された場合には、その取り消しボタン 1 1 5 が配置された欄の番組について、録画予約管理用ファイルに登録された情報が削除される。

【0361】

なお、録画予約プログラム 4 5 において、コマンドファイルに記述されたコマンドにしたがって、録画予約が行われる場合には、図 3 8 の開始ウィンドウおよび図 3 9 の終了ウィンドウの表示は省略し、図 4 0 の確認ウィンドウだけを表示するようにすることが可能である。また、録画予約プログラム 4 5 において、コマンドファイルに記述されたコマンドにしたがって、録画予約が行われる場合には、図 3 8 乃至図 4 0 のいずれのウィンドウの表示も省略するようにすることが可能である。

【0362】

次に、図 4 1 のフローチャートを参照して、図 2 1 のステップ S 7 4 で行われる、図 2 6 に示した統計データレイヤの画面の作成処理について説明する。

【0363】

まず最初に、ステップ S 8 1 において、番組情報ページ生成サーバ 5 5 は、統計データ DB 6 2 に記憶された、図 1 9 に示した 3 つの生視聴者情報テーブル、録画再生視聴者情報テーブル、および録画予約者情報テーブルからなる統計データテーブルから、タイムゾーンが、希望放送期間に含まれる統計データ（以下、適宜、処理対象統計データという）を取得し、ステップ S 8 2 に進む。ステップ S 8 2 では、番組情報ページ生成サーバ 5 5 は、希望放送期間に放送される番組のうち、まだ、注目番組としていないものの 1 つを、注目番組として設定し、ステップ S 8 3 に進む。

【0364】

ステップS 8 3では、番組情報ページ生成サーバ5 5は、注目番組の予約録画をしている人数の平均人数（平均予約者数）を求める。即ち、番組情報ページ生成サーバ5 5は、ステップS 8 1で取得した処理対象統計データにおける各タイムゾーンの予約者数の中から、注目番組の放送局の録画予約を行った予約者数であって、注目番組の放送時間に包含されるタイムゾーンの予約者数を抽出し、その加算値を注目番組の放送時間に包含されるタイムゾーンの数で除算して求められる平均値を、注目番組の平均予約者数として求める。

【0365】

ここで、ステップS 8 3での平均予約者数の算出方法は、後述する図4 2で説明する平均視聴者数の算出方法と同様である。

【0366】

ステップS 8 3の処理後は、ステップS 8 4に進み、番組情報ページ生成サーバ5 5は、注目番組が、これから放送される未来の番組（まだ放送が開始されていない番組）であるかどうかを判定する。ステップS 8 4において、注目番組が、これから放送される未来の番組であると判定された場合、ステップS 8 5およびS 8 6をスキップして、ステップS 8 8に進み、番組情報ページ生成サーバ5 5は、統計データレイヤの画面における注目番組の欄に、ステップS 8 3で求められた注目番組の予約者数を、録画予約者数アイコン102（図26）とともに描画し、ステップS 8 9に進む。

【0367】

また、ステップS 8 4において、注目番組が、これから放送される未来の番組でないと判定された場合、即ち、注目番組が、現在放送中の番組か、または既に放送が終了した番組である場合、ステップS 8 5に進み、番組情報ページ生成サーバ5 5は、注目番組の瞬間最大視聴者数、平均視聴者数、および視聴率を求める。

【0368】

即ち、番組情報ページ生成サーバ5 5は、ステップS 8 1で取得した処理対象統計データにおける各タイムゾーンの視聴者数の中から、注目番組の放送局の視聴者数であって、注目番組の放送時間に包含されるタイムゾーンの視聴者数を抽

出し、そのタイムゾーンの視聴者数のうちの最大値を、瞬間最大視聴者数として求める。

【0369】

さらに、番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS81で取得した処理対象統計データにおける各タイムゾーンの視聴者数の中から、注目番組の放送局の視聴者数であって、注目番組の放送時間に包含されるタイムゾーンの視聴者数を抽出し、そのタイムゾーンの視聴者数の平均値を、平均視聴者数として求める。

【0370】

即ち、例えば、いま、図42に示すように、注目番組が、放送局名「NHK総合」の放送局で放送される番組であり、その放送時間が、13:30:00（13時30分0秒）から、14:14:59であるとともに、タイムゾーンが1分間隔であるとする。この場合、注目番組の放送時間に包含されるタイムゾーンの数、70となるから、ステップS85では、放送局「NHK総合」をその放送時間帯に視聴した視聴者数の中の、注目番組の放送時間に包含される70のタイムゾーンの視聴者数が抽出される。そして、その70のタイムゾーンの視聴者数が加算され、その加算値を、タイムゾーンの数である70で除算した値が、注目番組の平均視聴者数として求められる。

【0371】

また、番組情報ページ生成サーバ55は、例えば、平均視聴者数を、アクティブユーザ数で除算し、その除算結果を、視聴率として求める。

【0372】

ここで、アクティブユーザ数とは、例えば、視聴／予約情報のアップロードを、所定の期間内に、所定の回数以上だけ行っているユーザの数を意味し、番組情報ページ生成サーバ55が、個人別DB61を参照することで求める。

【0373】

ステップS85の処理後は、ステップS86に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、注目番組を録画し、その後再生して視聴したユーザの数（録画再生視聴者数）の平均値を求める。

【0374】

即ち、番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS81で取得した処理対象統計データにおける各タイムゾーンの録画再生視聴者数の中から、注目番組の放送局の録画再生視聴者数であって、注目番組の放送時間に包含されるタイムゾーンの録画再生視聴者数を抽出し、そのタイムゾーンの録画再生視聴者数の平均値を求める。

【0375】

そして、ステップS87に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、注目番組の好感度指数を求める。

【0376】

即ち、番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS81で取得した処理対象統計データにおける各タイムゾーンのライブ番組好感度の平均値および録画番組好感度の平均値の中から、注目番組の放送局のライブ番組好感度の平均値および録画番組好感度の平均値であって、注目番組の放送時間に包含されるタイムゾーンのライブ番組好感度の平均値および録画番組好感度の平均値を抽出する。さらに、番組情報ページ生成サーバ55は、その抽出したライブ番組好感度の平均値および録画番組好感度の平均値の全体の平均値を、注目番組の好感度指数として求める。

【0377】

以上のようにして、番組情報ページ生成サーバ55は、注目番組の瞬間最大視聴者数、平均視聴者数、視聴率、録画再生視聴者数の平均値、好感度指数を求めると、ステップS88に進み、それらの情報を、統計データレイヤの画面における注目番組の欄に描画して、ステップS89に進む。

【0378】

即ち、この場合、ステップS88では、注目番組の平均視聴者数、最大視聴者数、および視聴率が、生視聴者アイコン103（図26）とともに、統計データレイヤの画面における注目番組の欄に描画される。さらに、ステップS88では、注目番組の再生視聴者数の平均値が、録画再生視聴者数アイコン101（図26）とともに、統計データレイヤの画面における注目番組の欄に描画される。また、ステップS88では、注目番組の好感度指数を表す好感度指数アイコン10

4 (図26) が、統計データレイヤの画面における注目番組の欄に描画される。

【0379】

その後、ステップS89において、番組情報ページ生成サーバ55は、希望放送期間に放送される番組のすべてを、注目番組としたかどうかを判定する。ステップS89において、希望放送期間に放送される番組のすべてを、まだ、注目番組としていないと判定された場合、ステップS82に戻り、まだ注目番組とされていない番組が、新たに注目番組に設定され、以下、同様の処理が繰り返される。

【0380】

また、ステップS89において、希望放送期間に放送される番組のすべてを、注目番組としたと判定された場合、ステップS90に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、統計データレイヤの画面におけるすべての番組の欄に、「詳細」リンク表示105 (図26) を描画して、統計データレイヤの画面の作成処理を終了する。

【0381】

以上の処理により、図26に示した統計データレイヤの画面が作成される。

【0382】

なお、図41の統計データレイヤの画面の作成処理では、その他、例えば、平均予約者数や録画再生視聴者数の平均値を、アクティブユーザ数で除算することにより、番組の「録画予約率」や「再生視聴率」を求め、統計データレイヤの画面に反映することが可能である。さらに、統計データレイヤの画面の作成処理では、例えば、番組の平均視聴者数と録画再生視聴者数の平均値とを加算した人数を、その番組の総合的な視聴者数として、その総合的な視聴者数や、総合的な視聴者数をアクティブユーザ数で除算した「総合的な視聴率」を求め、統計データレイヤの画面に反映することが可能である。その他、統計データレイヤの画面の作成処理では、例えば、番組の平均予約者数によって、その番組の録画再生視聴者数の平均値を除算し、番組の録画予約を行ったユーザのうち、どの程度の割合のユーザが、その番組を再生して視聴したかを表す「再生視聴率」などを求め、統計データレイヤの画面に反映することが可能である。

【0383】

次に、図43のフローチャートを参照して、図21のステップS75で行われる、図28に示した個人別履歴データレイヤの画面の作成処理について説明する。

【0384】

まず最初に、ステップS91において、番組情報ページ生成サーバ55は、個人別DB61に記憶された、図18に示した3つの生視聴履歴テーブル、録画再生履歴テーブル、および録画予約履歴テーブルのうちの、図20のステップS61で認証されたユーザのものから、主キーである実視聴日時、放送時基準視聴日時、または録画開始日時が、希望放送期間に含まれるアクション履歴データ（以下、適宜、処理対象アクション履歴データという）を取得し、ステップS92に進む。ステップS92では、番組情報ページ生成サーバ55は、希望放送期間に放送される番組のうち、まだ、注目番組としていないものの1つを、注目番組として設定し、ステップS93に進む。

【0385】

ステップS93では、番組情報ページ生成サーバ55は、注目番組が、いつ放送される（放送された）番組であるかを判定する。

【0386】

ステップS93において、注目番組が、既に放送が終了した番組（過去の番組）であると判定された場合、ステップS94に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS91で取得した処理対象アクション履歴データを参照することにより、ユーザ端末2のユーザが、注目番組を、その放送時間中に視聴したかどうかを判定する。ステップS94において、ユーザが注目番組を、その放送時間中に視聴していないと判定された場合、ステップS95をスキップして、ステップS96に進む。

【0387】

また、ステップS94において、ユーザが、注目番組を、その放送時間中に視聴したと判定された場合、即ち、処理対象アクション履歴データの中に、注目番組を、その放送時間中に視聴したことを表すアクション履歴データが存在する場

合、ステップS95に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、そのアクション履歴データに対応するアクションをユーザが行ったことを表すメッセージとして、例えば、「生で見ました」を生成し、ステップS96に進む。

【0388】

ステップS96では、番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS91で取得した処理対象アクション履歴データを参照することにより、注目番組の録画が行われているかどうかを判定する。ステップS96において、注目番組の録画が行われていないと判定された場合、ステップS97乃至S99をスキップして、ステップS104に進む。

【0389】

また、ステップS96において、注目番組の録画が行われていると判定された場合、即ち、処理対象アクション履歴データの中に、注目番組の録画予約を行ったことを表すアクション履歴データが存在する場合（かつ、その注目番組の録画予約の取り消しを行ったことを表すアクション履歴データが存在しない場合）、ステップS97に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、そのアクション履歴データに対応するアクションをユーザが行ったことを表すメッセージとして、例えば、「録画しました」を生成し、ステップS98に進む。

【0390】

ステップS98では、番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS91で取得した処理対象アクション履歴データを参照することにより、ユーザ端末2で録画された注目番組の再生が行われたかどうかを判定する。ステップS98において、注目番組の再生が行われたと判定された場合、ステップS99をスキップして、ステップS104に進む。

【0391】

また、ステップS98において、注目番組の再生が行われていないと判定された場合、即ち、処理対象アクション履歴データの中に、注目番組を再生して視聴したことを表すアクション履歴データが存在しない場合、ステップS99に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、そのアクション履歴データに対応するアクションをユーザが行っていないことを表すメッセージとして、例えば、「まだ見

ていません」を生成し、ステップS104に進む。

【0392】

一方、ステップS93において、注目番組が、現在放送している番組（現在の番組）であると判定された場合、ステップS100に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS91で取得した処理対象アクション履歴データを参照することにより、ユーザ端末2のユーザが、注目番組を、現に視聴しているかどうかを判定する。ステップS100において、ユーザが注目番組を視聴していないと判定された場合、ステップS101およびS104をスキップして、ステップS105に進む。

【0393】

また、ステップS100において、ユーザが注目番組を視聴していると判定された場合、即ち、処理対象アクション履歴データの中に、注目番組を視聴していることを表すアクション履歴データが存在する場合、ステップS101に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、そのアクション履歴データに対応するアクションをユーザが行ったことを表すメッセージとして、例えば、「今見えます」を生成し、ステップS104に進む。

【0394】

一方、ステップS93において、注目番組が、まだ放送されていない、これから放送される番組（将来の番組）であると判定された場合、ステップS102に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS91で取得した処理対象アクション履歴データを参照することにより、ユーザ端末2のユーザが、注目番組の録画予約を行っているかどうかを判定する。ステップS102において、ユーザが注目番組の録画予約を行っていないと判定された場合、ステップS103およびS104をスキップして、ステップS105に進む。

【0395】

また、ステップS102において、ユーザが注目番組の録画予約を行っているとして判定された場合、即ち、処理対象アクション履歴データの中に、注目番組の録画予約を行っていることを表すアクション履歴データが存在する場合（かつ、その注目番組の録画予約の取り消しを行ったことを表すアクション履歴データが存

在しない場合)、ステップS103に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、そのアクション履歴データに対応するアクションをユーザが行ったことを表すメッセージとして、例えば、「予約してます」を生成し、ステップS104に進む。

【0396】

ステップS104では、番組情報ページ生成サーバ55は、個人別履歴データレイヤの画面における注目番組の欄に、注目番組について生成されたメッセージを描画し、ステップS105に進む。なお、注目番組について、ステップS97, S99, S100, S103のいずれにおいてもメッセージが生成されなかった場合には、ステップS104の処理は、スキップされる。

【0397】

ステップS105では、番組情報ページ生成サーバ55は、希望放送期間に放送される番組のすべてを、注目番組としたかどうかを判定する。ステップS105において、希望放送期間に放送される番組のすべてを、注目番組としていないと判定された場合、ステップS92に戻り、まだ注目番組とされていない番組が、新たに注目番組に設定され、以下、同様の処理が繰り返される。

【0398】

また、ステップS105において、希望放送期間に放送される番組のすべてを、注目番組としたと判定された場合、個人別履歴データレイヤの画面の作成処理を終了する。

【0399】

以上の処理により、図28に示した個人別履歴データレイヤの画面が作成される。

【0400】

次に、図44のフローチャートを参照して、図21のステップS76で行われる、図30に示したコントローラレイヤの画面の作成処理について説明する。

【0401】

まず最初に、ステップS111において、番組情報ページ生成サーバ55は、希望放送期間に放送される番組のうち、まだ、注目番組としていないものの1つ

を、注目番組として設定し、ステップS112に進む。

【0402】

ステップS112では、番組情報ページ生成サーバ55は、注目番組が、いつ放送される（放送された）番組であるかを判定する。

【0403】

ステップS112において、注目番組が、既に放送が終了した番組（過去の番組）であると判定された場合、ステップS113に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、個人別DB61に登録されている、図20のステップS61で認証されたユーザ端末2のユーザのアクション履歴データを参照することにより、ユーザ端末2において注目番組の録画が行われているかどうかを判定する。ステップS113において、注目番組の録画が行われていないと判定された場合、ステップS114、S115、およびS121をスキップして、ステップS122に進む。

【0404】

また、ステップS113において、注目番組の録画が行われていると判定された場合、即ち、ユーザ端末2のユーザのアクション履歴データの中に、注目番組の録画予約を行ったことを表すアクション履歴データが存在する場合（かつ、その注目番組の録画予約の取り消しを行ったことを表すアクション履歴データが存在しない場合）、ステップS114に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、録画された注目番組を再生する処理を行うことを指令するコマンドファイルである再生用コマンドファイルへリンクする再生ボタン111（図30）を生成することにより取得し、ステップS115に進む。ステップS115では、番組情報ページ生成サーバ55は、録画された注目番組をHD15から削除する処理を行うことを指令するコマンドファイルである削除用コマンドファイルへリンクする削除ボタン112（図30）を生成することにより取得し、ステップS121に進む。

【0405】

一方、ステップS112において、注目番組が、現在放送している番組（現在の番組）であると判定された場合、ステップS116に進み、番組情報ページ生

成サーバ55は、個人別DB61に登録されている、図20のステップS61で認証されたユーザ端末2のユーザのアクション履歴データを参照することにより、ユーザ端末2のユーザが、注目番組を、現に視聴しているかどうかを判定する。ステップS116において、ユーザが注目番組を視聴していると判定された場合、ステップS117およびS121をスキップして、ステップS122に進む。

【0406】

また、ステップS116において、ユーザが注目番組を視聴していないと判定された場合、即ち、ユーザ端末2のユーザのアクション履歴データの中に、注目番組を視聴していることを表すアクション履歴データが存在しない場合、ステップS117に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、ユーザが、いま視聴していない注目番組を選局して表示する処理を行うことを指令するコマンドファイルであるチャンネル選局用コマンドファイルへリンクする視聴ボタン113（図30）を生成することにより取得し、ステップS121に進む。

【0407】

一方、ステップS112において、注目番組が、まだ放送されていない、これから放送される番組（将来の番組）であると判定された場合、ステップS118に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、個人別DB61に登録されている、図20のステップS61で認証されたユーザ端末2のユーザのアクション履歴データを参照することにより、ユーザ端末2のユーザが、注目番組の録画予約を行っているかどうかを判定する。ステップS118において、ユーザが注目番組の録画予約を行っているとは判定された場合、即ち、ユーザ端末2のユーザのアクション履歴データの中に、注目番組の録画予約を行っていることを表すアクション履歴データが存在する場合（かつ、その注目番組の録画予約の取り消しを行ったことを表すアクション履歴データが存在しない場合）、ステップS119に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、録画予約が行われている注目番組の録画予約を取り消す処理を行うことを指令するコマンドファイルである取り消し用コマンドファイルへリンクする取り消しボタン115（図30）を生成することにより取得し、ステップS121に進む。

【0408】

また、ステップS118において、ユーザが注目番組の録画予約を行っていないと判定された場合、即ち、ユーザ端末2のユーザのアクション履歴データの中に、注目番組の録画予約を行っていることを表すアクション履歴データが存在しない場合（または、注目番組の録画予約を行っていることを表すアクション履歴データが存在するが、その注目番組の録画予約の取り消しを行ったことを表すアクション履歴データも存在する場合）、ステップS120に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、注目番組の録画予約をする処理を行うことを指令するコマンドファイルである予約用コマンドファイルへリンクする予約ボタン114（図30）を生成することにより取得し、ステップS121に進む。

【0409】

ステップS121では、番組情報ページ生成サーバ55は、コントローラレイヤの画面における注目番組の欄に、注目番組について生成された再生ボタン111、削除ボタン112、視聴ボタン113、予約ボタン114、または取り消しボタン115を描画し、ステップS122に進む。なお、注目番組について、ステップS114、S115、S117、S119、S120のいずれにおいてもボタンが生成されなかった場合には、ステップS121の処理は、スキップされる。

【0410】

ステップS122では、番組情報ページ生成サーバ55は、希望放送期間に放送される番組のすべてを、注目番組としたかどうかを判定する。ステップS122において、希望放送期間に放送される番組のすべてを、注目番組としていないと判定された場合、ステップS111に戻り、まだ注目番組とされていない番組が、新たに注目番組に設定され、以下、同様の処理が繰り返される。

【0411】

また、ステップS122において、希望放送期間に放送される番組のすべてを、注目番組としたと判定された場合、コントローラレイヤの画面の作成処理を終了する。

【0412】

以上の処理により、図30に示したコントローラレイヤの画面が作成される。

【0413】

次に、図34に示したEPGページにおいて、「詳細」リンク表示105は、図26で説明したように、より詳細な総計データのwebページ（以下、適宜、詳細視聴情報ページという）へリンクされている。

【0414】

従って、ユーザ端末2のwebブラウザ42に、図34に示したEPGページが表示されている場合において、ユーザが、ある番組の欄における「詳細」リンク表示105をクリック等すると、webブラウザ42は、その「詳細」リンク表示105からリンクされている詳細視聴情報ページを、サーバシステム4に要求する。この場合、サーバシステム4では、webサーバ52において、その詳細視聴情報ページの要求が受信され、その要求が、番組情報ページ生成サーバ55に送信される。

【0415】

番組情報ページ生成サーバ55は、webサーバ52から詳細視聴情報ページの要求を受信すると、図45のフローチャートにしたがった処理を行う。

【0416】

即ち、番組情報ページ生成サーバ55は、まず最初に、ステップS131において、詳細視聴情報ページの要求を送信してきたユーザ端末2のユーザを認識するとともに、その要求された詳細視聴情報ページにリンクしている「詳細」リンク表示105が配置された欄の番組を認識する。

【0417】

ここで、詳細視聴情報ページの要求を送信してきたユーザ端末2のユーザは、例えば、ユーザ端末2のwebブラウザ42からEPGページの要求があったときに図20のステップS61で行われるユーザ認証の結果から認識することができる。

【0418】

また、「詳細」リンク表示105がクリックされることにより、webブラウザ42が送信する詳細視聴情報ページの要求には、その詳細視聴情報ページを特定する情報（例えば、その詳細視聴情報ページのURL(Uniform Resource Locator)が含まれており、その情報から、「詳細」リンク表示105が配置された欄の番

組を認識することができる。

【0419】

ステップS131の処理後は、ステップS132に進み、番組情報ページ生成サーバ55は、個人別DB61に登録されている、ステップS131で認識されたユーザ端末2のユーザ（以下、適宜、認識ユーザという）のアクション履歴データと、統計データDB62に登録されている統計データを用いて、ステップS131で認識された番組（以下、適宜、認識番組という）についての詳細視聴情報ページを作成（生成）する。

【0420】

番組情報ページ生成サーバ55は、ステップS132において詳細視聴情報ページを作成すると、ステップS133に進み、その詳細視聴情報ページを、webサーバ52およびネットワーク3を介して、認識ユーザのユーザ端末2におけるwebブラウザ42に送信して、処理を終了する。

【0421】

図46は、番組情報ページ生成サーバ55が作成する詳細視聴情報ページを、模式的に示している。

【0422】

番組タイトル表示部121には、認識番組の番組のタイトルが配置される。放送時間表示部122には、認識番組の放送開始時刻と放送終了時刻が配置される。放送局名表示部123には、認識番組の放送局の放送局名が配置される。番組紹介表示部124には、認識番組の内容を紹介するメッセージが配置される。

【0423】

リンク表示部125には、認識番組に関するwebページが、インターネットであるネットワーク3上に存在する場合に、そのwebページへのリンクが張られたリンク表示が配置される。リンク表示部126には、認識番組についての情報交換の場である掲示板としてのwebページが、インターネットであるネットワーク3上に存在する場合に、そのwebページへのリンクが張られたリンク表示が配置される。

【0424】

ここで、以上の番組タイトル表示部 121 乃至リンク表示部 126 に配置される情報は、例えば、EPG_DB 64 に登録されている番組案内データに含まれる。

【0425】

録画情報表示部 127 には、認識ユーザが、認識番組を録画しているかどうか（認識ユーザのユーザ端末 2 において、認識番組が録画されているかどうか）を表すメッセージが配置される。ここで、認識ユーザが、認識番組を録画しているかどうかは、個人別 DB 61 に登録されている認識ユーザのアクション履歴データ（図 18）を参照することにより判断される。図 46 では、録画情報表示部 127 に、ユーザが認識番組の録画を行い、その認識番組の画像データ及び音声データが HD 15 に記録されていることを表すメッセージ「貴方はこの番組を録画しています。」が表示されている。

【0426】

リンク表示部 128 または 129 には、認識ユーザが認識番組を録画している場合に、その認識番組を再生または削除する処理を行うことを指令するコマンドファイルにリンクが張られたリンク表示「再生」または「削除」が、それぞれ配置される。従って、このリンク表示「再生」または「削除」がクリック等された場合には、上述の再生ボタン 111 または削除ボタン 112 が操作された場合とそれぞれ同様の処理が行われる。

【0427】

視聴者数時間推移表示部 130 には、認識番組を視聴したユーザの数を、タイムゾーンの整数倍の時間間隔の時刻ごとに、折れ線グラフで表示した視聴者数時間推移情報が配置される。

【0428】

ここで、視聴者数時間推移表示部 130 に配置される視聴者数時間推移情報は、統計データ DB 62 に登録されている統計データ（図 19）のうちの、認識番組を放送している放送局の放送局名と、認識番組の放送時間に含まれるタイムゾーンとで特定されるセル上の統計データを参照することで作成される。

【0429】

なお、視聴者数時間推移情報において、認識番組を視聴したユーザの数は、例

例えば、その認識番組をその放送時間帯に視聴したユーザ（生視聴ユーザ）と、認識番組を録画し、後で再生して視聴したユーザ（録画再生ユーザ）とに分けて表示される。

【0 4 3 0】

また、視聴者数時間推移情報には、生視聴ユーザの数と録画再生ユーザの数について、例えば、その最大値（Max.）や時間平均値（Ave.）も表示される。

【0 4 3 1】

さらに、図 4 6 において、視聴者数時間推移情報では、横方向を時間とするとともに、縦方向を視聴者数として、認識番組を視聴したユーザの数（視聴者数）の時間推移が示されているが、その時間を表す横方向は、幾つかの時間間隔の部分 1 3 1 に区切られており、各時間間隔の部分 1 3 1 には、その時間間隔における認識番組の再生を行うことを指令するコマンドファイルがリンクされている。

【0 4 3 2】

即ち、視聴者数時間推移情報における、例えば、認識番組の開始から 2 5 分の位置における時間間隔の部分 1 3 1 には、図 3 1 で説明したコマンド”Play this 25min. after the program starts.”などが記述されたコマンドファイルにリンクされている。

【0 4 3 3】

”Play this 25min. after the program starts.”は、上述したように、番組の再生を、その番組の開始時刻から 2 5 分経過した時刻から開始することを指令するコマンドであり、従って、認識番組の開始から 2 5 分の位置における時間間隔の部分 1 3 1 に、ユーザがカーソル 1 4 1 を移動してクリックすると、その時間間隔の部分 1 3 1 にリンクされたコマンドファイルが、サーバシステム 4 からユーザ端末 2 にダウンロードされ、ユーザ端末 2 では、そのコマンドファイルにしたがい、記録再生プログラム 4 5 において、認識番組が、その開始時刻から 2 5 分を経過した時刻から再生される。

【0 4 3 4】

従って、ユーザは、録画された認識番組を、その最初から最後まで再生して視聴するのではなく、例えば、視聴者数が多い部分だけを再生して視聴するような

ことが可能となる。

【0435】

男女別視聴者数表示部132には、認識番組の視聴者数が、男女別に配置される。なお、図46では、認識番組のタイムゾーンごとの視聴者数のうちの最大値と平均値（図46における括弧付きの数字）が、男女別に配置されている。

【0436】

番組好感度指数表示部133には、EPGページにおける認識番組の欄に配置される好感度指数アイコン104（図26）と同一のアイコンが配置される。

【0437】

年齢層別視聴者数表示部134には、認識番組を視聴したユーザの数の平均値（認識番組の放送時間に含まれるタイムゾーンごとのユーザの数の平均値）が、ユーザの年齢層ごとに、生視聴ユーザと録画再生ユーザとに分けて、棒グラフの形で配置される。

【0438】

視聴者数推移表示部135には、ユーザが、認識番組を、その放送が行われてからどれくらい経過した後に視聴したかを表す視聴者数推移情報が棒グラフの形で配置される。図46では、認識番組を、その放送時間帯に視聴したユーザの数、認識番組を録画して、その日に再生して視聴したユーザの数、1日後、3日後、1週間後以内に再生して視聴したユーザそれぞれの数、1週間経過後に再生して視聴したユーザの数が、視聴者数推移情報として、棒グラフの形で表示されている。

【0439】

ここで、以上の男女別視聴者数表示部132に配置される認識番組の男女別の視聴者数、年齢層別視聴者数表示部134に配置される認識番組を視聴した年齢層ごとのユーザの数、および視聴者数推移表示部135に配置される視聴者数推移情報は、統計データDB62に登録されている統計データ（図19）のうちの、認識番組を放送している放送局の放送局名と、認識番組の放送時間に含まれるタイムゾーンとで特定されるセル上の統計データを参照することで作成される。

【0440】

次に、上述したように、サーバシステム4の番組情報ページ生成サーバ55は、図20のステップS61においてユーザ認証を行うことにより、EPGページを要求してきたユーザを認識し、その認識したユーザ（認識ユーザ）ごとに、個人別履歴データレイヤの画面（図28）におけるアクション履歴データと、コントロールレイヤの画面（図30）における操作データを配置したEPGページ、即ち、いわば、認識ユーザごとにカスタマイズされたEPGページを提供する。

【0441】

番組情報ページ生成サーバ55において、EPGページのカスタマイズは、アクション履歴データと操作データに関して行う他、例えば、EPGレイヤの画面（図22）のレイアウトに関して行うことも可能であり、図47は、EPGレイヤの画面がカスタマイズされたEPGページが、ユーザ端末2のwebブラウザ42に表示された状態を示している。

【0442】

表題部211には、EPG部213に配置されたEPG（番組表）が、いつの番組についてのものであるかを表す情報が配置される。

【0443】

日時変更部212には、EPG213に配置されるEPGの日時が、その日時のEPGページにリンクされた形で配置される。EPG213に配置された日時がクリック等されると、EPG部213に配置されるEPGが、クリック等された日時のEPGに変更されたEPGページが表示される。

【0444】

EPG部213には、EPGが配置される。上述した図34等のEPGページのEPGは、縦方向を時間とするとともに、横方向を放送局名とするものとなっていたが、図47では、縦方向を放送局名とするともに、横方向を時間とするEPGに、そのレイアウトがカスタマイズされている。

【0445】

その他、EPGのレイアウトは、ある放送局（チャンネル）で放送される番組の情報を表示し、あるいは表示しないように、カスタマイズすることが可能である。図47では、例えば、ユーザが、ほとんど視聴しない番組の放送局や、あるい

は、有料放送されている番組のうちのユーザが視聴契約していない番組の放送局などで放送される番組の情報を表示しないように、EPGがカスタマイズされている。

【0446】

チャンネル変更部215は、EPG部213に表示されるEPGに表示させる番組の放送局を変更するwebページへのリンク表示が配置される。チャンネル変更部215に配置されたリンク表示がクリック等されると、サーバシステム4は、EPG部213に配置されるEPGに表示させる番組の放送局を変更するwebページを、ユーザ端末2のwebブラウザ42に送信し、ユーザは、そのwebページ上で、EPGに表示させる番組の放送局を変更することができる。

【0447】

次に、上述の場合においては、サーバシステム4において、EPGページを作成し、そのEPGページを、ユーザ端末2に提供するようにしたが、EPGページは、ユーザ端末2で作成するようにすることも可能である。

【0448】

図48は、EPGページをユーザ端末2で作成する場合に、ユーザ端末2のCPU11（図2）が実行するプログラムの構成例を示している。なお、図中、図4における場合と対応する部分については、同一の符号を付してあり、以下では、その説明は、適宜省略する。

【0449】

図48のプログラム構成は、webブラウザ42が設けられておらず、かつ、TV総合アプリケーション43を構成するプログラム（モジュール）として、番組情報ページ生成クライアント301が追加されている点を除き、図4のプログラム構成と同様になっている。

【0450】

番組情報ページ生成クライアント301は、番組情報ページ生成サーバ55と同様にして、EPGページを作成（生成）する。

【0451】

次に、図49は、EPGページをユーザ端末2で作成する場合に、サーバシステ

ム4のCPU31（図4）が実行するプログラムの構成例を示している。なお、図中、図5における場合と対応する部分については、同一の符号を付してあり、以下では、その説明は、適宜省略する。

【0452】

図49のプログラム構成は、番組情報ページ生成サーバ55に代えて、情報送信サーバ302が設けられている点を除き、図5のプログラム構成と同様になっている。

【0453】

情報送信サーバ302は、webサーバ52を介して、ユーザ端末2の番組情報ページ生成クライアント301からのデータの要求を受信し、その要求のあったデータを、webサーバ52を介して、番組情報ページ生成クライアント301に送信する。

【0454】

次に、図50は、図48のプログラム構成のユーザ端末2と、図49のプログラム構成のサーバシステム4の機能的構成例を示している。なお、図中、図6における場合と対応する部分については、同一の符号を付してあり、以下では、その説明は、適宜省略する。

【0455】

即ち、図50において、ユーザ端末2は、webブラウザ42に代えて番組情報ページ生成クライアント301が設けられ、かつ個人DB311が新たに設けられている他は、図6における場合と同様に構成されている。また、図50において、サーバシステム4は、番組情報ページ生成サーバ55に代えて情報送信サーバ302が設けられ、かつ個人別DB61が設けられていない他は、図6における場合と同様に構成されている。

【0456】

番組情報ページ生成クライアント301は、webブラウザ42としての機能も有しており、EPGページを作成するのに必要なデータを、インターネットであるネットワーク3を介して、webサーバ52に要求する。

【0457】

ここで、番組情報ページ生成クライアント301は、webブラウザ42としての機能を設けずに構成することが可能である。但し、この場合、番組情報ページ生成クライアント301は、webサーバ52とのやりとりに、webブラウザ42等の、webサーバ52との間でデータを送受信することができるアプリケーションを利用する必要がある。また、番組情報ページ生成クライアント301は、webブラウザ42としての機能を設けずに、情報送信サーバ302との間で、所定の通信プロトコルによって通信することができるように構成することが可能である。この場合、番組情報ページ生成クライアント301は、情報送信サーバ302と直接通信することができるため、サーバシステム4において、webサーバ52を設ける必要はない。

【0458】

webサーバ52は、番組情報ページ生成クライアント301からデータの要求を受信すると、そのデータの要求を、情報送信サーバ302に転送する。情報送信サーバ302は、要求されたデータを、統計データDB62、ユーザ情報／認証情報DB63、またはEPG_DB64から読み出し、webサーバ55とネットワーク3を介して、番組情報ページ生成クライアント301に送信する。

【0459】

番組情報ページ生成クライアント301は、情報送信サーバ302から送信されてきたデータ、さらには、必要に応じて、個人DB311に記憶されているデータを用いて、EPGページを作成して、出力部17（のディスプレイ）に表示する。

【0460】

個人DB311は、HD15上のファイルであり、ユーザ端末2のユーザのアクション情報（アクション履歴データ）を記憶する。即ち、個人DB311には、情報アップデートクライアント46が情報集計サーバ54にアップロードするアクション情報が供給されるようになっており、個人DB311は、そのアクション情報を記憶する。従って、個人DB311は、図6の個人別DB61と同様に、アクション情報を記憶する。但し、図6の個人別DB61には、多くのユーザからサーバシステム4にアップロードされてくるアクション情報が、上述したように、ユーザ

ごとに分けて記憶されるが、図50の個人DB311には、ユーザ端末2のユーザについてのアクション情報だけが記憶される。

【0461】

なお、図50の実施の形態においては、個人DB311を、ユーザ端末2に設けるようにしたが、図50の実施の形態においても、図6の実施の形態における場合のように、個人DB311をユーザ端末2に設ける代わりに、個別DB61をサーバシステム4に設け、サーバシステム4の情報送信サーバ302において、ユーザ端末2の番組情報ページ生成クライアント301が必要とする個別DB61内のデータを、番組情報ページ生成クライアント301に送信するようにすることが可能である。

【0462】

次に、図51のフローチャートを参照して、サーバシステム4における情報送信サーバ302の処理について説明する。

【0463】

サーバシステム4において、webサーバ52は、ユーザ端末2の番組情報ページ生成クライアント301から、EPGページを作成するのに必要なデータの要求を、インターネットであるネットワーク3を介して受信すると、情報送信サーバ302に対して、番組情報ページ生成クライアント301から要求のあったデータを要求する。

【0464】

情報送信サーバ302は、webサーバ52から、データの要求を受信すると、処理を開始する。

【0465】

即ち、情報送信サーバ302は、まず最初に、ステップS141において、希望放送期間を取得する。即ち、番組情報ページ生成クライアント301は、webサーバ52に対するデータの要求時などに、番組案内データ等を希望する番組の放送期間（希望放送期間）を送信するようになっており、情報送信サーバ302は、番組情報ページ生成クライアント301から送信されてくる希望放送期間を、webサーバ52を介して取得する。

【0466】

なお、番組情報ページ生成クライアント301からは、必ずしも、希望放送期間を送信する必要はない。番組情報ページ生成クライアント301から希望放送期間が送信されてこない場合、情報送信サーバ302では、例えば、当日（今日）を、希望放送期間とすることができる。

【0467】

また、情報送信サーバ302では、ステップS141において希望放送期間を取得する前に、図20のステップS61における場合と同様に、ユーザ認証（個人認証）を行うようにすることが可能である。

【0468】

ステップS141の処理後は、ステップS142に進み、情報送信サーバ302は、希望放送期間に放送される番組すべてについての、番組情報ページ生成クライアント301から要求されたデータを認識し、ステップS143に進む。

【0469】

ステップS143では、情報送信サーバ302は、ステップS142で認識したデータを、統計データが記憶されている統計データDB62、番組案内データおよびコマンドファイルが記憶されているEPG_DB64から読み出すことで取得し、ステップS144に進む。

【0470】

ステップS144では、情報送信サーバ302は、ステップS143で取得したデータを、webサーバ52およびネットワーク3を介して、番組情報ページ生成クライアント301に送信して、処理を終了する。

【0471】

次に、図52のフローチャートを参照して、ユーザ端末2における番組情報ページ生成クライアント301（図50）の処理について説明する。

【0472】

ユーザ端末2において、番組情報ページ生成クライアント301が起動されると、番組情報ページ生成クライアント301は、まず最初に、ステップS151において、ネットワーク3を介して、サーバシステム4のwebサーバ55に接続

し、ステップS152に進む。

【0473】

ステップS152では、図13のステップS25における場合と同様にして、ユーザ認証が行われ、ステップS153に進み、番組情報ページ生成クライアント301は、例えば、ユーザに、希望放送期間の入力を促すメッセージを表示し、そのメッセージに応じて、ユーザが入力した期間を、希望放送期間として設定する。

【0474】

ここで、ユーザが希望放送期間を入力しなかった場合には、番組情報ページ生成クライアント301は、例えば、当日を、希望放送期間として設定する。

【0475】

そして、ステップS154に進み、番組情報ページ生成クライアント301は、希望放送期間に放送される番組について、EPGページの作成に必要なデータをサーバシステム4に要求することにより取得して、あるいは、個人DB311から取得して、図34に示したEPGページを作成する。ここで、EPGページの記述にあたっては、例えば、インターネット上に構築されているWWWで一般的に採用されているHTML(Hyper Text Markup Language)を用いられる。

【0476】

番組情報ページ生成クライアント301は、ステップS154においてEPGページを作成すると、ステップS155に進み、そのEPGページを、出力部17（のディスプレイ）に表示し、処理を終了する。

【0477】

番組情報ページ生成クライアント301は、以上のように、サーバシステム4に要求して取得したデータと、個人DB311から取得したデータを用いてEPGページを作成して表示する。

【0478】

ここで、ステップS154において、番組情報ページ生成クライアント301によるEPGページの作成は、図21で説明した番組情報ページ生成サーバ55によるEPGページの作成と同様に行われる。

【0479】

但し、EPGレイヤの画面の作成に必要な番組案内データと、統計データレイヤの画面の作成に必要な統計データは、番組情報ページ生成サーバ55が、サーバシステム4の情報送信サーバ302に要求することで取得される。また、個人別履歴データレイヤの画面とコントローラレイヤの画面の作成に必要なアクション履歴データは、ユーザ端末2の個人DB311から取得される。

【0480】

なお、ユーザ端末2の番組情報ページ生成クライアント301においてEPGページを作成する場合には、その番組情報ページ生成クライアント301が、コントローラレイヤの画面を作成するので、コントローラレイヤの画面には、サーバシステム4のEPG_DB64に記憶されたコマンドファイルへのリンクが張られた操作データを配置する他、そのコマンドファイルに記述されたコマンドによる処理（例えば、録画番組の再生や削除など）を実行する機能が直接割り当てられたボタンを配置するようにすることが、容易に可能となる。

【0481】

以上のように、番組案内データと統計データを取得し、その番組案内データと統計データとを重畳（反映）したEPGページを作成するようにしたので、ユーザは、そのEPGページを見ることによって、番組の視聴や録画の判断を容易に行うことが可能となる。即ち、ユーザは、例えば、同一時間帯に各チャンネルで放送される番組の中で、どのチャンネルの番組の視聴率が高いのかといった比較をして、視聴する番組や録画する番組を決定することができる。

【0482】

また、EPGページに配置される統計データとしては、番組を、その放送時間帯に視聴した人数、番組の、その放送時間帯における視聴率、番組の録画予約を行った人数、放送時間帯に録画された番組を再生して視聴した人数、または番組に対するユーザの感想を表す好感度などがあるので、ユーザは、番組の視聴率のみならず、録画予約を行ったユーザの人数（これは、将来放送される番組の視聴率の予測値として捉えることができる）や、録画された番組を再生して視聴したユーザの人数（これは、放送中に番組を視聴したユーザの人数とあわせることによ

り、実際に番組を視聴したユーザの人数等を求めることができる）、他のユーザの番組の感想などを総合的に加味して、番組に対する多数のユーザの興味の度合いを認識し、その番組の視聴や録画を行うかどうかを決定することができる。

【0483】

そして、サーバシステム4において、以上のような、ユーザにとって利便性の高いEPGページを提供することにより、そのEPGページに対してアクセスするユーザが増加するので、例えば、EPGページに、広告を表示した場合には、多大な広告収入を得ることが可能となる。

【0484】

また、ユーザ端末2では、EPGページにおいて、録画予約を行ったユーザの人数が多い、いわば人気番組を、自動的に録画予約するようなことが可能となる。この場合、人気番組の録画予約が行われた旨の情報は、ユーザ端末2からサーバシステム4にアップロードされるので、EPGページに反映される、人気番組の録画予約を行ったユーザの人数は、さらに多くなる。その結果、その人気番組は、より人気がある番組（超人気番組）として位置付けられるようになり、このことは、EPGページが、番組の人気を、いわば創り出す作用があるといえることができる。

【0485】

さらに、統計データのうちの視聴率は、所定の期間内に、所定の回数以上の情報の送信を行ったユーザ端末のユーザの人数を母数として求められるので、番組の視聴等を比較的高頻度で行うユーザを対象に、精度の高い視聴率を求めることが可能となる。

【0486】

また、サーバシステム4において、EPGページは、ユーザからの要求があったときに、個人別DB61、統計データDB62、ユーザ情報／認証情報DB63、EPG_DB64に記憶されたデータを用いて作成され、その最新のEPGページがユーザ端末2に送信されるので、ユーザは、リアルタイムで、番組の視聴率等を認識することができる。なお、図6のwebブラウザ42や、図50の番組情報ページ生成クライアント301が一定時間ごとに、webページを更新（リロード）する自動

更新機能を有している場合には、ユーザが特に操作を行わなくても、その自動更新機能によって、webブラウザ42や番組情報ページ生成クライアント301において表示されるEPGページを最新のものに更新することができる。

【0487】

また、ユーザのアクション履歴データを取得し、番組案内データおよび統計データの他、アクション履歴データを重畳（反映）したEPGページを作成するようにしたので、ユーザは、そのEPGページを見ることによって、自身が行った番組の視聴や録画予約などといったアクション、つまり、視聴した番組や、録画した番組等を、容易に認識することができる。

【0488】

さらに、操作データを取得し、番組案内データおよび統計データの他に、操作データを重畳（反映）したEPGページを作成するようにしたので、ユーザは、そのEPGページを見ることによって、番組の内容を認識し、興味を持った番組があった場合には、そのEPGページ上で、録画予約やチャンネルの切り換えなどを行うことができる。

【0489】

また、EPGページでは、番組案内データが、番組の放送状況ごとに、即ち、例えば、放送が終了した番組、放送中の番組、未放送の番組それぞれごとに異なる表示態様で表示されるので、ユーザは、現在視聴することができる番組や、録画予約を行うことができる番組などを、EPGページを一目見るだけで、即座に把握することができる。

【0490】

さらに、EPGページは、webブラウザで表示することができるので、ユーザは、新たなアプリケーションを購入しなくても、EPGページを利用することができる。なお、EPGページは、例えば、上述した番組情報ページ生成クライアント301（図50）のような専用のブラウザでしか生成、表示することができないものとすることも可能である。

【0491】

また、ユーザ端末2では、番組を、その放送時間帯に視聴したことを表す情報

の他、放送時間帯に録画された録画番組を再生して視聴したことを表す情報、番組の録画予約もしくはその予約の取り消しを行ったことを表す情報、さらには、番組に対するユーザの感想を表す好感度を、サーバシステム 4 にアップロードするようにしたので、サーバシステム 4 では、いわゆる視聴率の他、番組を録画したユーザの数や、さらには、その録画した番組を再生して視聴したユーザの数、番組に対するユーザの感想などを集計することができる。

【0 4 9 2】

さらに、ユーザ端末 2 では、放送時間帯に録画された録画番組を再生して視聴したことを表す情報に、ユーザが録画番組を視聴した実際の視聴の日時（実視聴日時）と、録画番組の放送日時を基準とする録画番組の視聴の日時（放送時基準視聴日時）とを含めてアップロードするようにしたので、録画番組が、その録画後に、どのように（例えば、どれだけの期間をおいて）再生されて視聴されているのかを調査することが可能となる。

【0 4 9 3】

さらに、統計データ DB 6 2 には、タイムゾーンごとに集計した統計データを登録するようにしたので、そのタイムゾーンを最小単位として、番組全体の視聴者数や予約者数等は勿論、番組の一部の時間帯の視聴者数や予約者数等も把握することができる。

【0 4 9 4】

また、個人別 DB 6 1 には、アクション履歴データを、ユーザごとに登録（保存）するようにしたので、そのアクション履歴データを用い、ユーザごとにカスタマイズした EPG ページを提供することが可能となる。

【0 4 9 5】

さらに、サーバシステム 4 では、ユーザ端末 2 から送信されてくる情報が有効な情報であるかどうかを判定し、有効な情報のみを、統計データ DB 6 2 に登録する統計データの集計の対象とするようにしたので、正確な統計データを求めることが可能となる。

【0 4 9 6】

また、サーバシステム 4 では、ユーザ端末 2 から送信されてくる情報を、ユー

ザの年齢層や性別などの属性ごとに集計するようにしたので、そのようなユーザの属性ごとに分けて集計された情報を、ユーザに提供することが可能となる。

【0497】

さらに、EPGページでは、1日分の番組案内データを1ページに表示するようにしたので、ユーザは、その1日の番組に関する情報を、即座に得ることができる。

【0498】

以上、本発明を、テレビジョン放送番組の録画再生機能ソフトウェアであるTV総合アプリケーション43搭載のパーソナルコンピュータであるユーザ端末2に適用した場合について説明したが、本発明は、その他、例えば、テレビジョン受信機や、VTR(Video Tape Recorder)、さらには、PVR(Personal Video Recorder)と呼ばれるHDD(HD Drive)レコーダ等のAV(Audio Visual)機器などに適用可能である。

【0499】

また、本実施の形態では、ユーザ端末2において、番組の受信、録画、再生、サーバシステム4への情報のアップロード、EPGページの表示のすべてを行うようにしたが、例えば、番組の受信、録画、再生と、サーバシステム4への情報のアップロードと、EPGページの表示とは、異なる装置で行うようにすることが可能である。

【0500】

即ち、例えば、VTRとパーソナルコンピュータとをLAN等で接続するとともに、そのパーソナルコンピュータをインターネットに接続可能にしておき、番組の受信、録画、再生は、VTRで行い、サーバシステム4への情報のアップロードは、パーソナルコンピュータにVTRを監視させることによって行い、EPGページの表示は、携帯電話機で行うようにすることが可能である。

【0501】

具体的には、この場合、VTRにおいて、番組の録画等が行われると、その録画等が行われた旨の情報が、パーソナルコンピュータからサーバシステム4にアップロードされる。一方、ユーザは、携帯電話機を用い、例えば、外出先等におい

てEPGページを取得する。そして、ユーザが、そのEPGページ上の、例えば、予約ボタン114（図30）を操作すると、その予約ボタン114にリンクされているコマンドファイルが、サーバシステム4から、携帯電話機を経由して、パーソナルコンピュータにダウンロードされ、パーソナルコンピュータにおいて、そのコマンドファイルにしたがい、VTRに対して、録画予約の設定が行われる。

【0502】

ここで、上述の場合に、コマンドファイルが、サーバシステム4から、パーソナルコンピュータに、直接ダウンロードされるようにすることも可能である。即ち、ユーザが、携帯電話機を用いて、EPGページ上の予約ボタン114を操作した場合、サーバシステム4は、その操作ボタン114が操作されたことを記憶しておく。一方、パーソナルコンピュータには、サーバシステム4に対して、操作ボタン114等が操作されたことが記憶されているかどうかを、定期的にまたは不定期にチェックしにいく設定をしておく。この場合、パーソナルコンピュータは、サーバシステム4にチェックをしにいった結果、操作ボタン114等が操作されたことが記憶されていることを認識すると、その操作された操作ボタン114等に関連付けられているコマンドファイルを、サーバシステム4からダウンロードする。但し、パーソナルコンピュータが、サーバシステム4と常時接続されている場合には、例えば、サーバシステム4に、パーソナルコンピュータを登録しておき、サーバシステム4が、携帯電話機から、EPGページ上の予約ボタン114等が操作された旨のメッセージを受信した時点で、登録されているパーソナルコンピュータに対して、その操作された予約ボタン114等に関連付けられているコマンドファイルをダウンロードするようにすることが可能である。

【0503】

なお、ユーザ端末2がインターネットであるネットワーク3にアクセスする方法としては、現在、大きく分けて、ADSLやCATV等による常時接続を行う方法と、電話回線によるダイヤルアップを行う方法とがある。常時接続によって、ネットワーク3にアクセスする場合は、ユーザが録画予約等を行うごとに、その旨の情報を、サーバシステム4に即座にアップロードしても問題ないが、ダイヤルアップ接続によって、ネットワークにアクセスする場合は、ユーザが録画予約等を行

うごとに、その旨の情報を、サーバシステム 4 に即座にアップロードすることとすると、アップロードのたびに、通話料等の課金が行われるので、ユーザが、そのような情報のアップロードを好まないことがある。そこで、ユーザ端末 2 が、ダイヤルアップによって、ネットワーク 3 にアクセスする場合には、例えば、ユーザが録画予約等を行うごとに、その旨の情報を、サーバシステム 4 に即座にアップロードするモードと、ある程度の数の情報が集まった時点で、あるいは、所定の周期で、情報をアップロードするモードとを、ユーザが選択可能なようにすることが可能である。

【0504】

また、本実施の形態では、EPGのページの記述に、HTMLを採用するようにしたので、そのEPGページを作成する番組情報ページ生成サーバ 55 または番組情報ページ生成クライアント 301 は、それぞれ、webサーバ 52 またはwebブラウザ 42 に、容易にインプリメントすることが可能である。

【0505】

【発明の効果】

以上の如く、本発明によれば、番組の視聴や録画を行う判断を、より一層容易にするユーザインタフェースとしてのEPGを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明を適用した放送システムの一実施の形態の構成例を示すブロック図である。

【図 2】

ユーザ端末 2 のハードウェア構成例を示すブロック図である。

【図 3】

サーバシステム 4 のハードウェア構成例を示すブロック図である。

【図 4】

ユーザ端末 2 で実行されるプログラムの構成例を示す図である。

【図 5】

サーバシステム 4 で実行されるプログラムの構成例を示す図である。

【図 6】

ユーザ端末 2 とサーバシステム 4 の機能的構成例を示す図である。

【図 7】

情報アップデートクライアント 4 6 の処理を説明するフローチャートである。

【図 8】

視聴監視スレッドの処理を説明するフローチャートである。

【図 9】

録画再生プログラム 4 4 によって表示される表示ウィンドウ 7 1 を示す平面図である。

【図 1 0】

視聴情報を取得する処理を説明するフローチャートである。

【図 1 1】

視聴情報を送信するときの送信コードのフォーマットを示す図である。

【図 1 2】

視聴情報を送信するときの送信コードのフォーマットを示す図である。

【図 1 3】

情報をアップロードする処理を説明するフローチャートである。

【図 1 4】

予約イベント監視スレッドの処理を説明するフローチャートである。

【図 1 5】

予約情報を取得する処理を説明するフローチャートである。

【図 1 6】

予約情報を送信するときの送信コードのフォーマットを示す図である。

【図 1 7】

情報集計サーバ 5 4 の処理を説明するフローチャートである。

【図 1 8】

生視聴履歴テーブル、録画再生履歴テーブル、および録画予約履歴テーブルを示す図である。

【図 1 9】

生視聴者情報テーブル、録画再生視聴者情報テーブル、および録画予約者情報テーブルを示す図である。

【図 20】

番組情報ページ生成サーバ55の処理を説明するフローチャートである。

【図 21】

番組情報ページの作成処理を説明するフローチャートである。

【図 22】

EPGレイヤの画面を示す図である。

【図 23】

EPGレイヤの画面を示す図である。

【図 24】

番組進行レイヤの画面を示す図である。

【図 25】

番組進行レイヤの画面を示す図である。

【図 26】

統計データレイヤの画面を示す図である。

【図 27】

統計データレイヤの画面を示す図である。

【図 28】

個人別履歴データレイヤの画面を示す図である。

【図 29】

個人別履歴データレイヤの画面を示す図である。

【図 30】

コントローレイヤの画面を示す図である。

【図 31】

コマンドファイルを説明する図である。

【図 32】

コントローレイヤの画面を示す図である。

【図 33】

EPGレイヤ、番組進行レイヤ、統計データレイヤ、個人別履歴データレイヤ、およびコントローラレイヤの画面が重畳される様子を示す図である。

【図 3 4】

EPGページを示す図である。

【図 3 5】

1 日分の番組案内データが配置されたEPGページを示す図である。

【図 3 6】

コマンドファイルを示す図である。

【図 3 7】

チャンネル変換ファイルを示す図である。

【図 3 8】

録画予約時に表示されるウィンドウを示す図である。

【図 3 9】

録画予約時に表示されるウィンドウを示す図である。

【図 4 0】

録画予約時に表示されるウィンドウを示す図である。

【図 4 1】

統計データレイヤの画面の作成処理を説明するフローチャートである。

【図 4 2】

平均予約者数の算出方法を説明する図である。

【図 4 3】

個人別履歴データレイヤの画面の作成処理を説明するフローチャートである。

【図 4 4】

コントローラレイヤの画面の作成処理を説明するフローチャートである。

【図 4 5】

番組情報ページ生成サーバ 5 5 の処理を説明するフローチャートである。

【図 4 6】

詳細視聴情報ページを示す図である。

【図 4 7】

カスタマイズされたEPGページを示す図である。

【図 4 8】

ユーザ端末 2 で実行されるプログラムの他の構成例を示す図である。

【図 4 9】

サーバシステム 4 で実行されるプログラムの他の構成例を示す図である。

【図 5 0】

ユーザ端末 2 とサーバシステム 4 の他の機能的構成例を示す図である。

【図 5 1】

情報送信サーバ 3 0 2 の処理を説明するフローチャートである。

【図 5 2】

番組情報ページ生成クライアント 3 0 1 の処理を説明するフローチャートである。

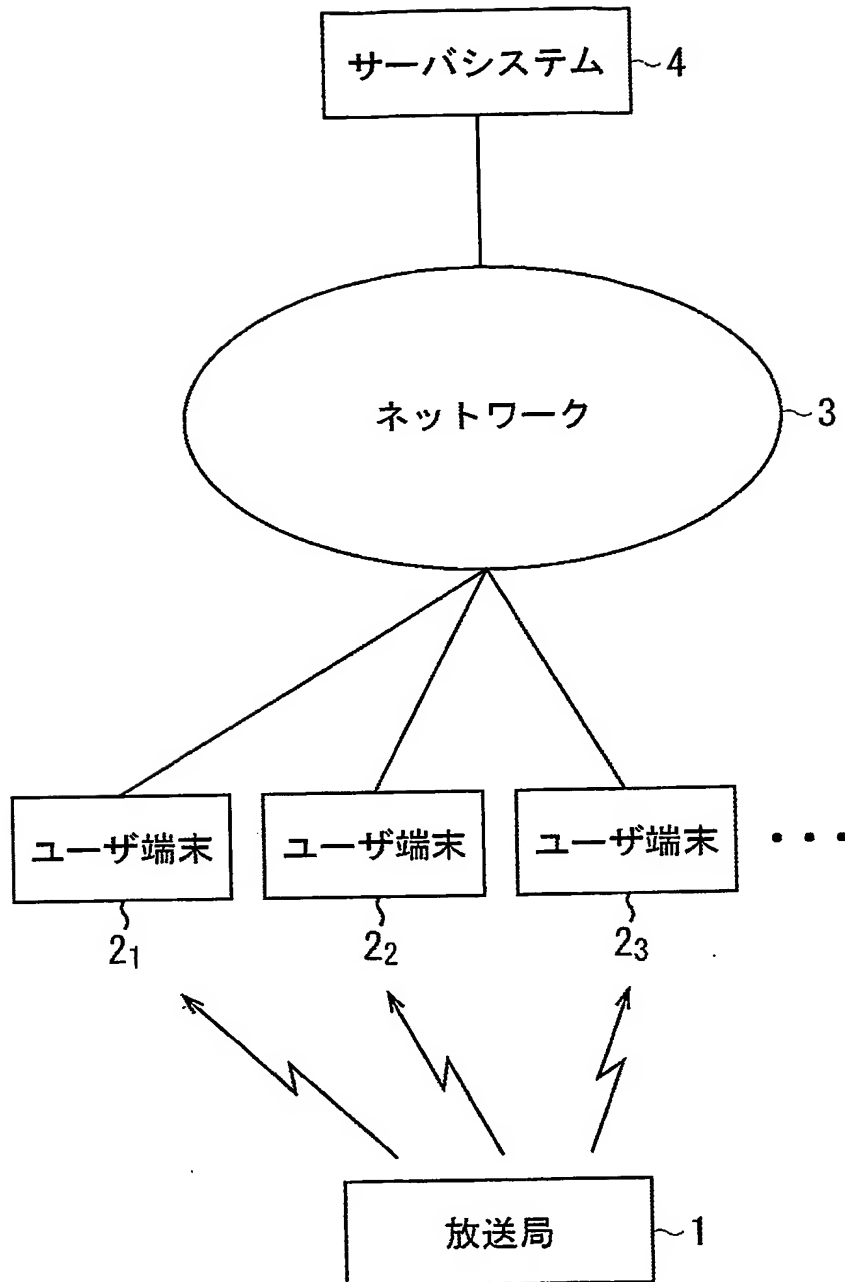
【符号の説明】

1 放送局, 2 1, 2 2, 2 3, . . . ユーザ端末, 3 ネットワーク,
4 サーバシステム, 4 2 webブラウザ, 4 3 TV総合アプリケーション,
4 4 録画再生プログラム, 4 5 録画予約プログラム, 4 6 情報
アップデートクライアント, 5 2 webサーバ, 5 3 情報提供サーバ,
5 4 情報集計サーバ, 5 5 番組情報ページ生成サーバ, 6 1 個人別DB
, 6 2 統計データDB, 6 3 ユーザ情報／認証情報DB, 6 4 EPG_DB,
3 0 1 番組情報ページ生成クライアント, 3 0 2 情報送信サーバ, 3
1 1 個人DB

【書類名】図面

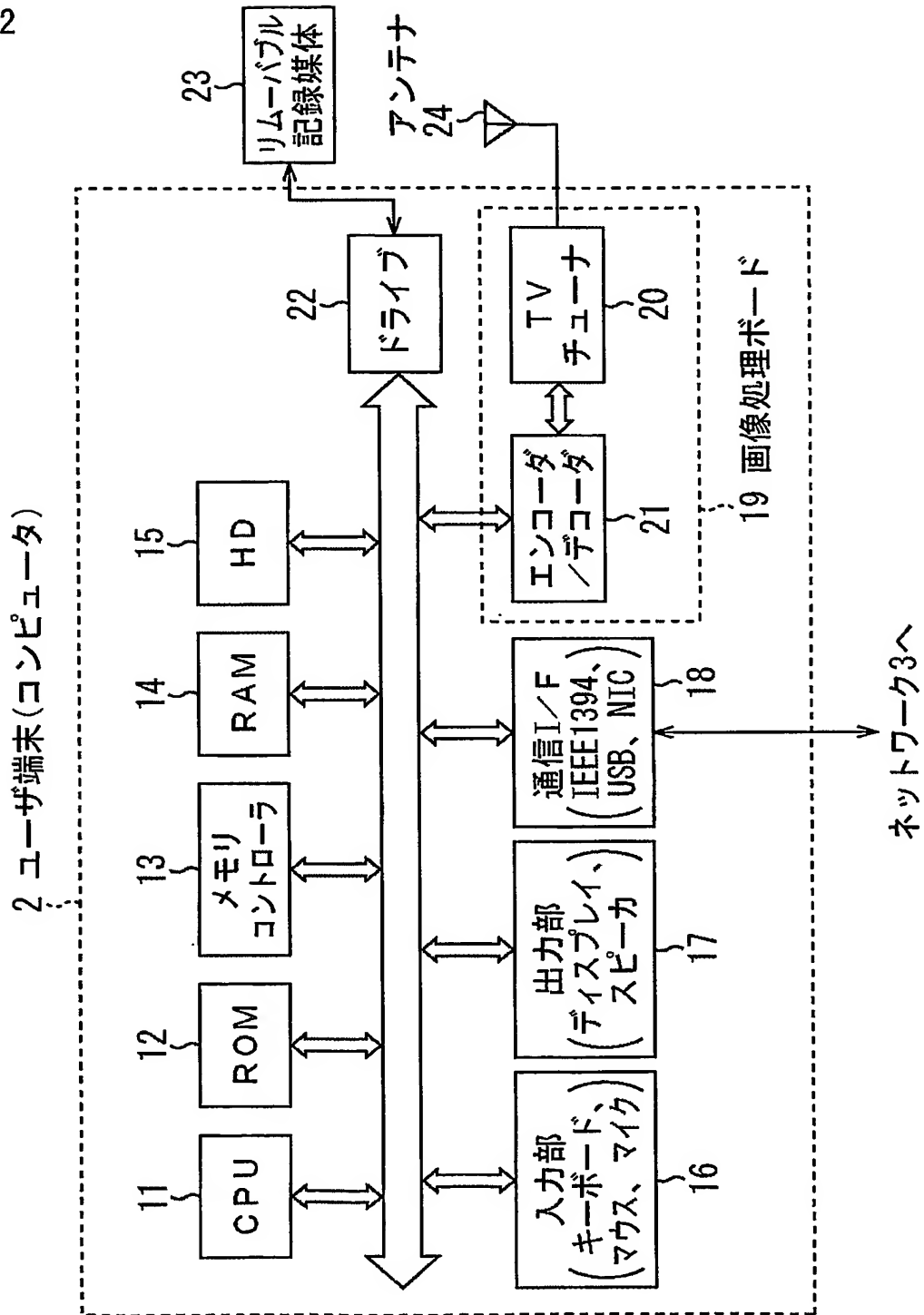
【図1】

図1



【図2】

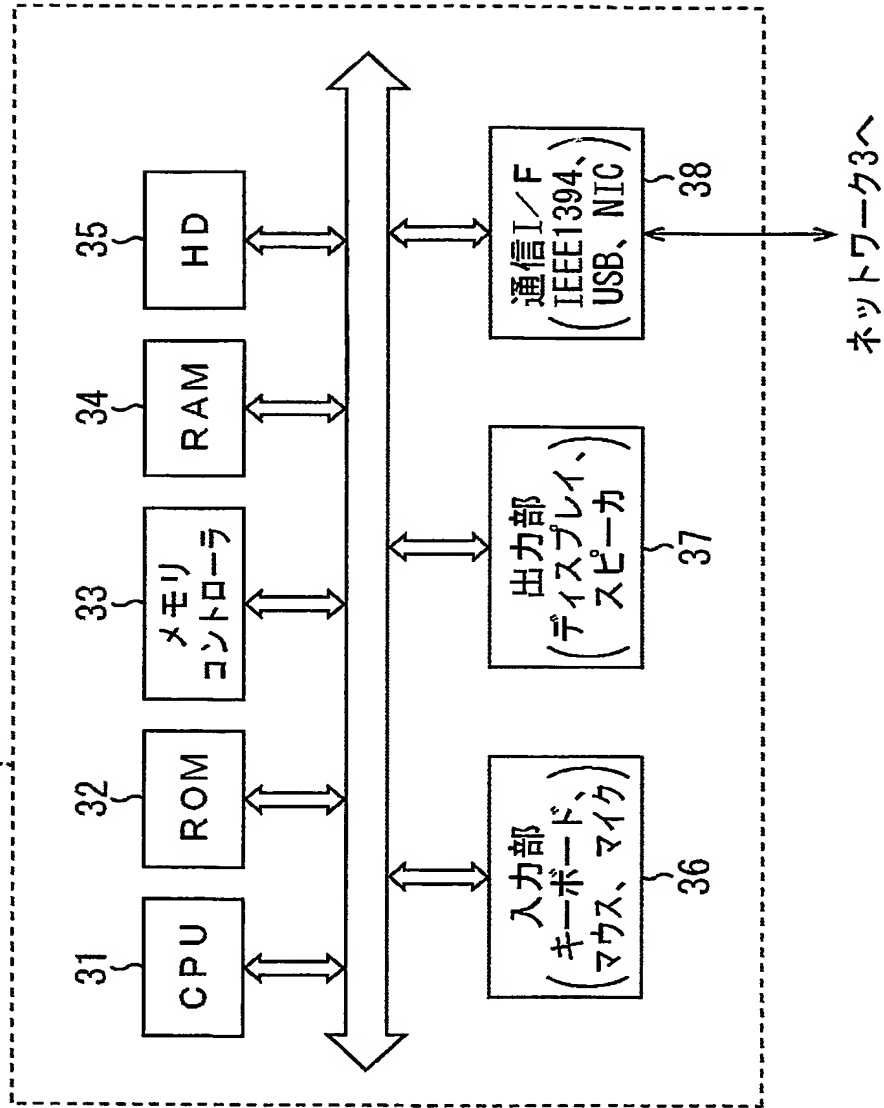
図2



【図3】

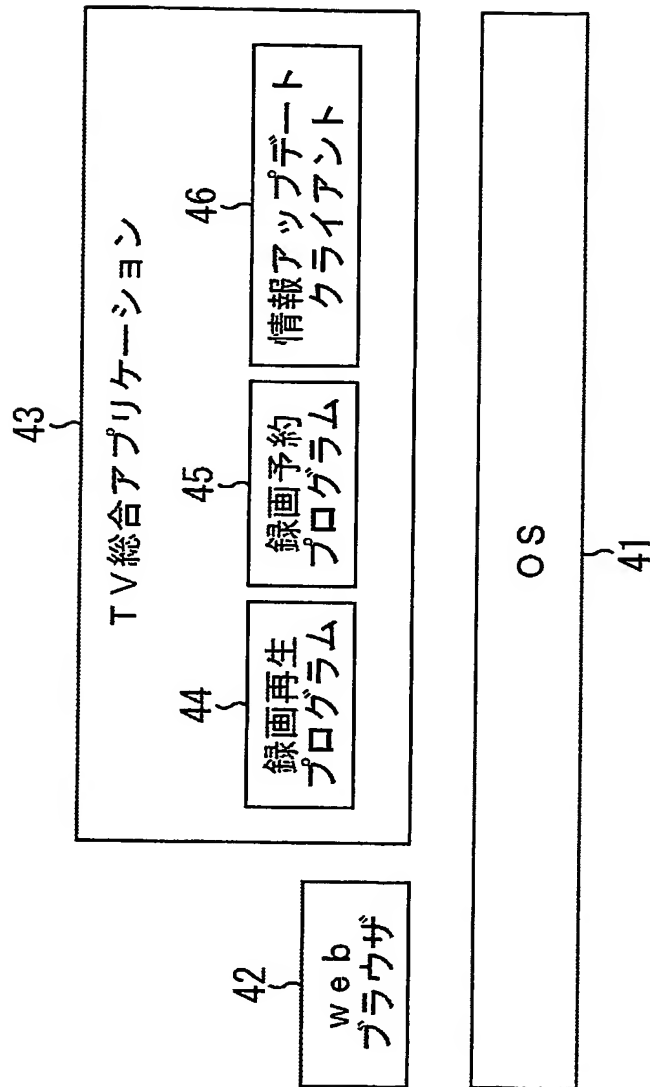
図3

4 サーバシステム(コンピュータ)



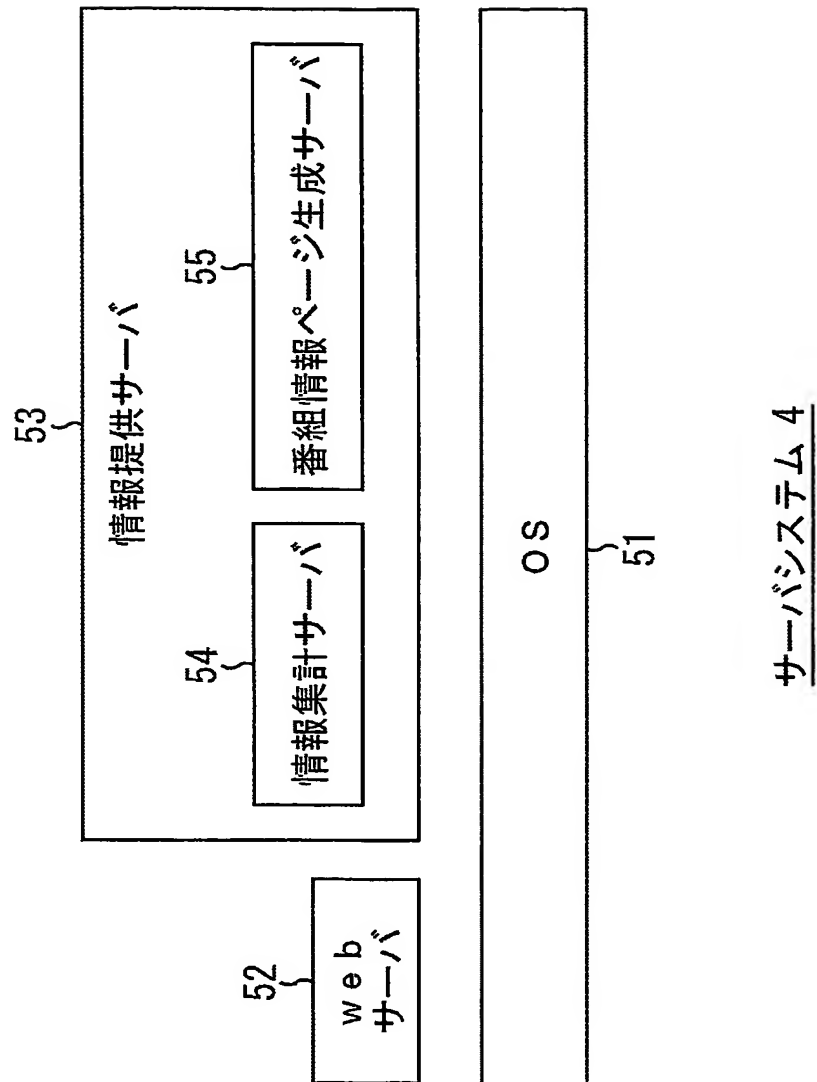
【図 4】

図4



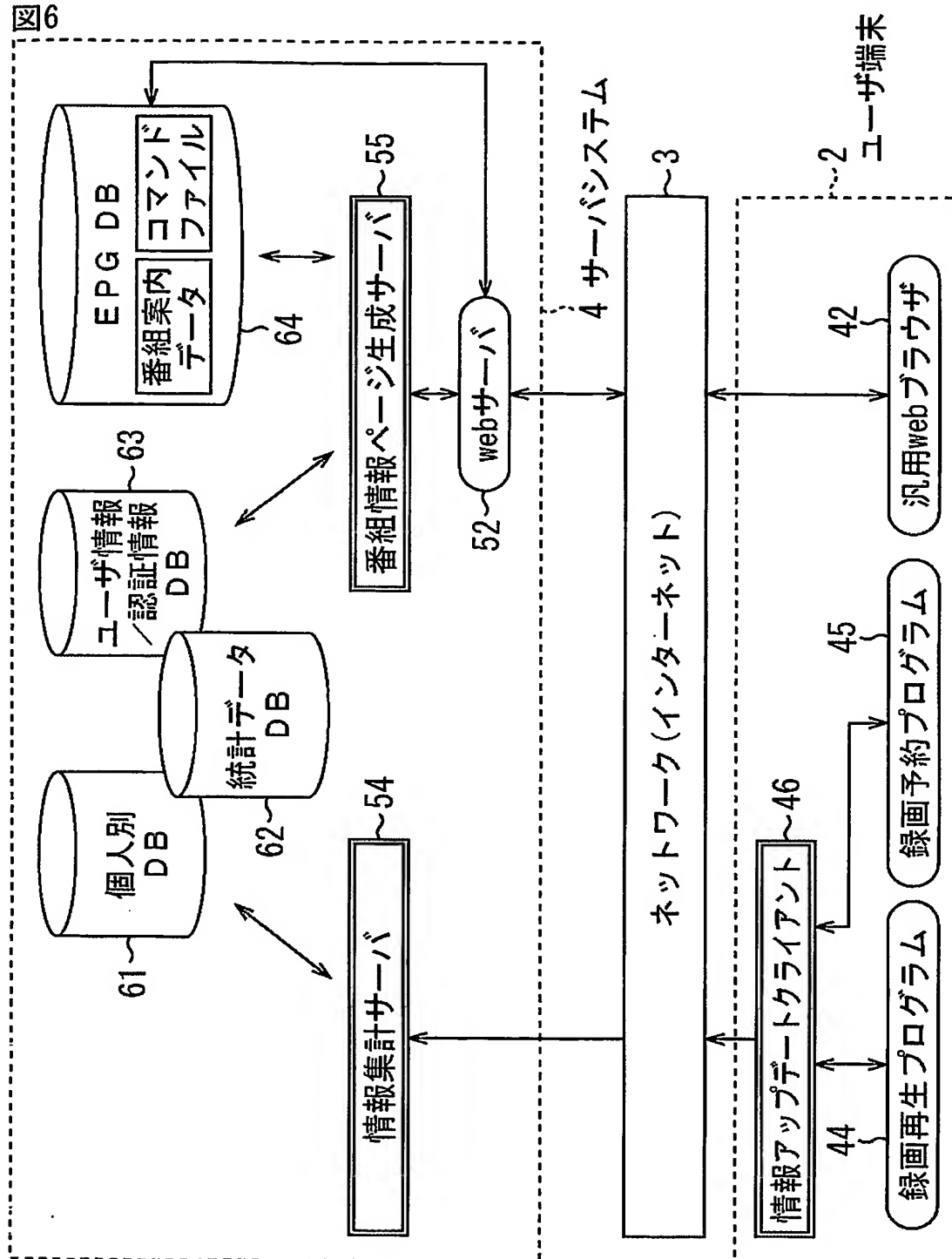
【図 5】

図5



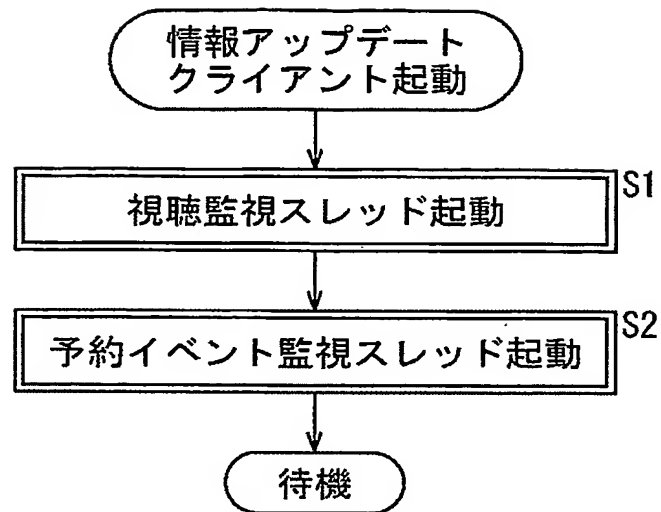
【图 6】

图6



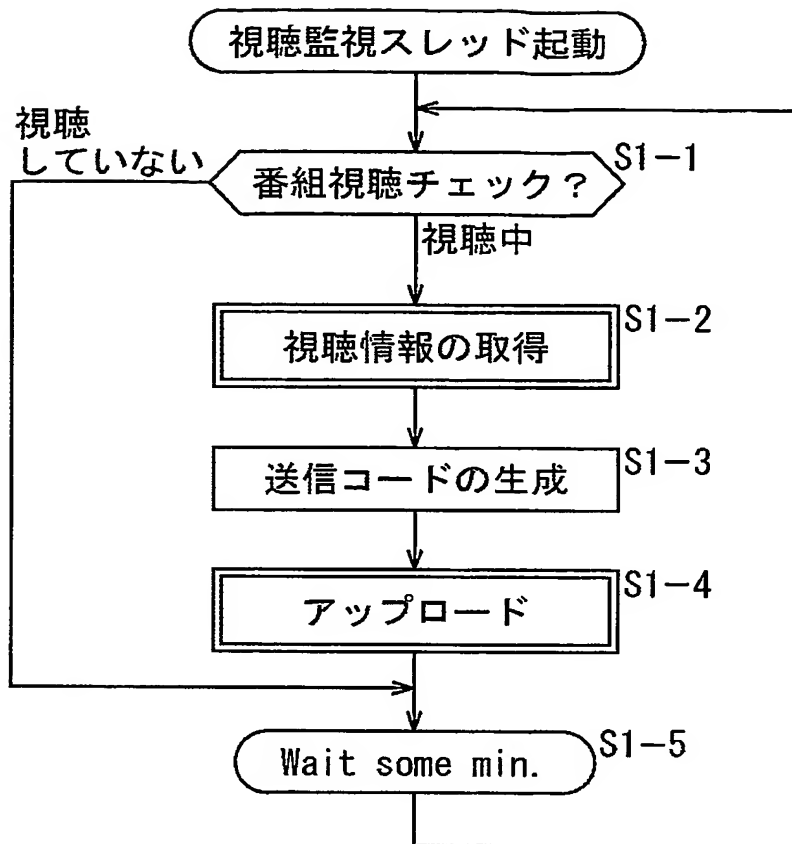
【図7】

図7



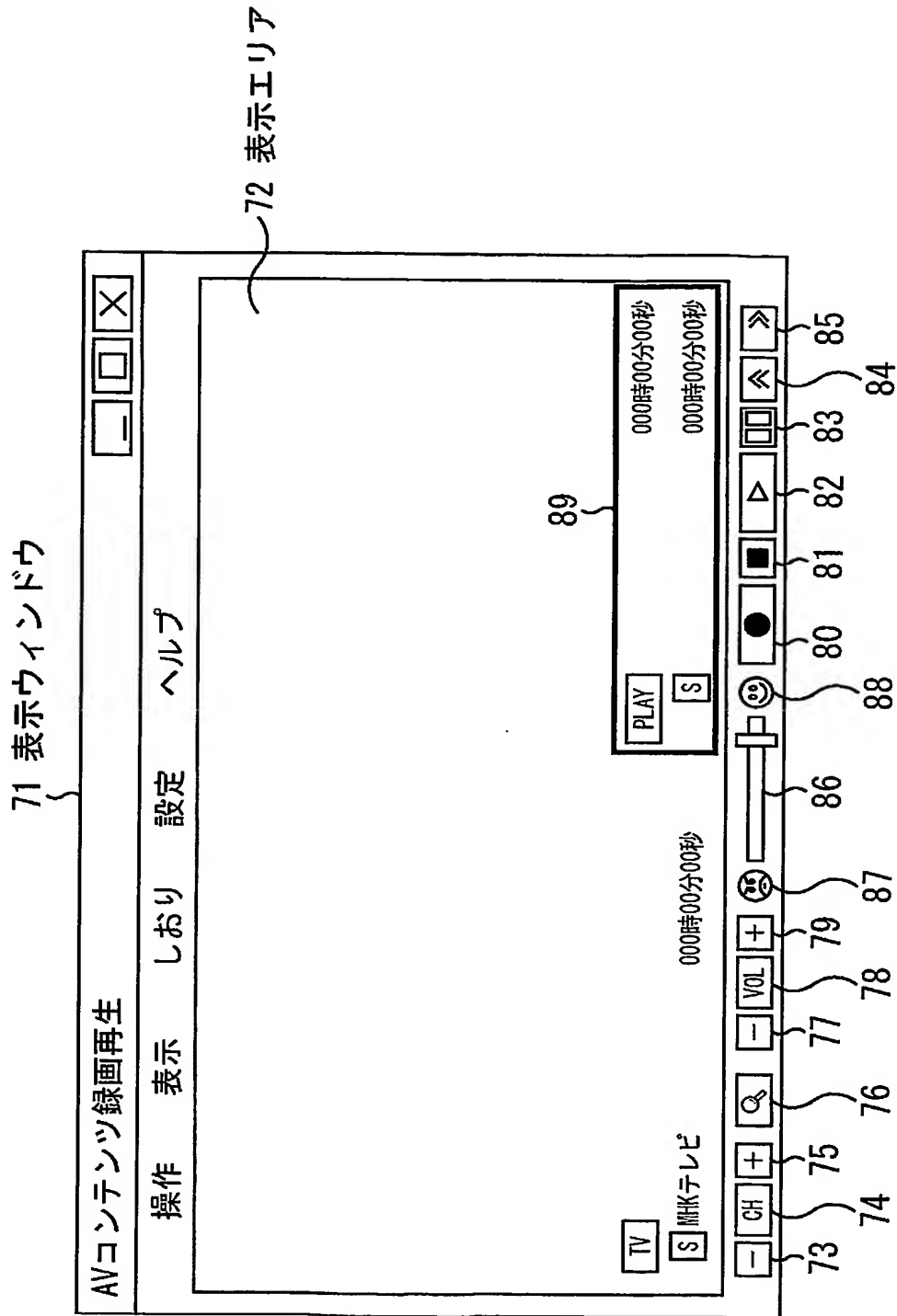
【図8】

図8



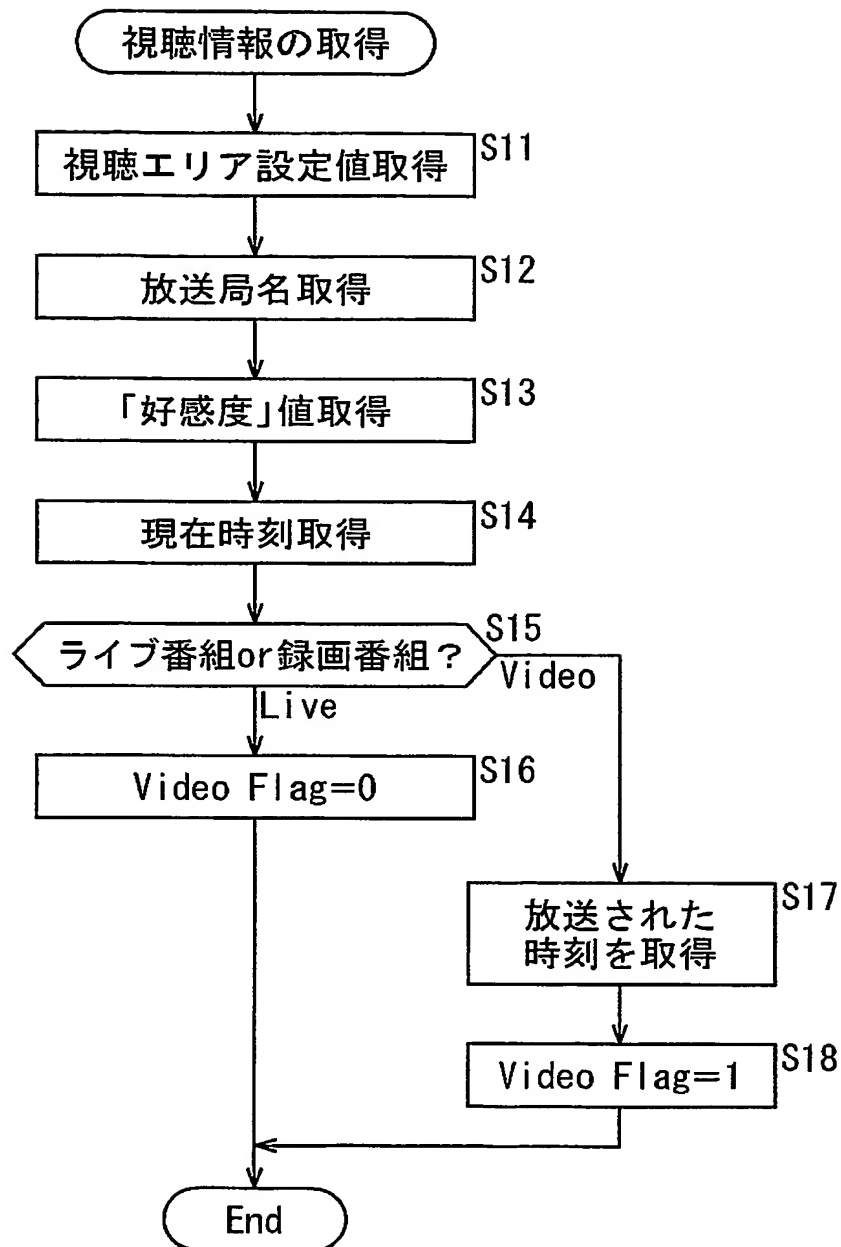
【図9】

図9



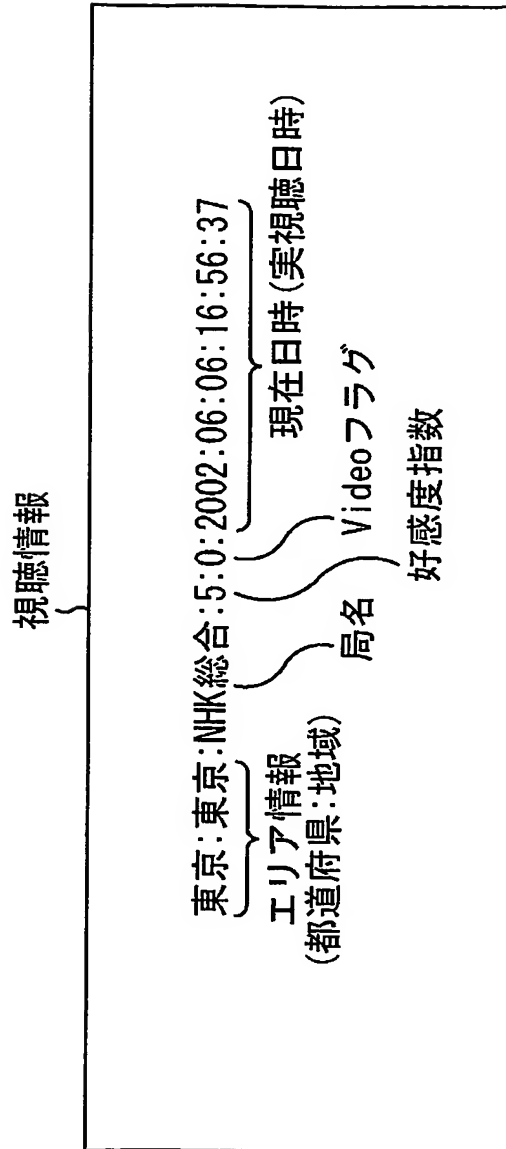
【図10】

図10



【図11】

図11



【図12】

図12

視聴情報

東京:東京:NHK総合:5:1:2002:06:06:16:56:37:2002:06:08:16:56:37

放送された日時
(放送時基準視聴日時)

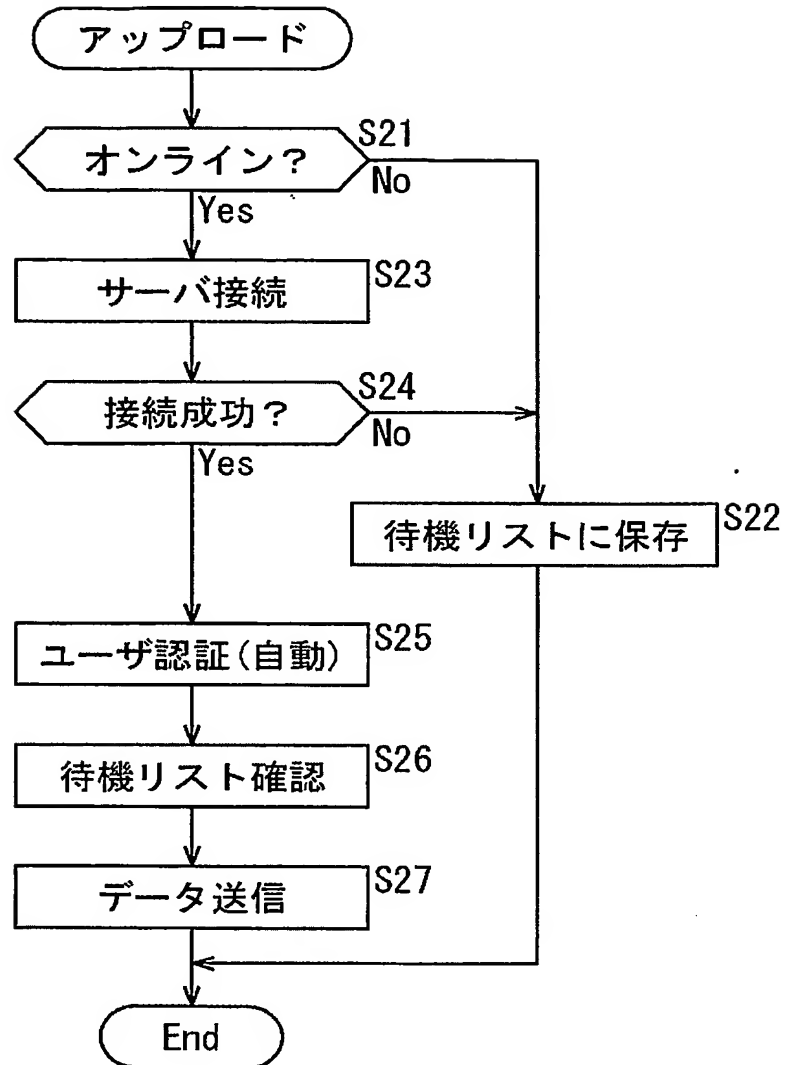
現在日時
(実視聴日時)

Videoフラグ

好感度指数

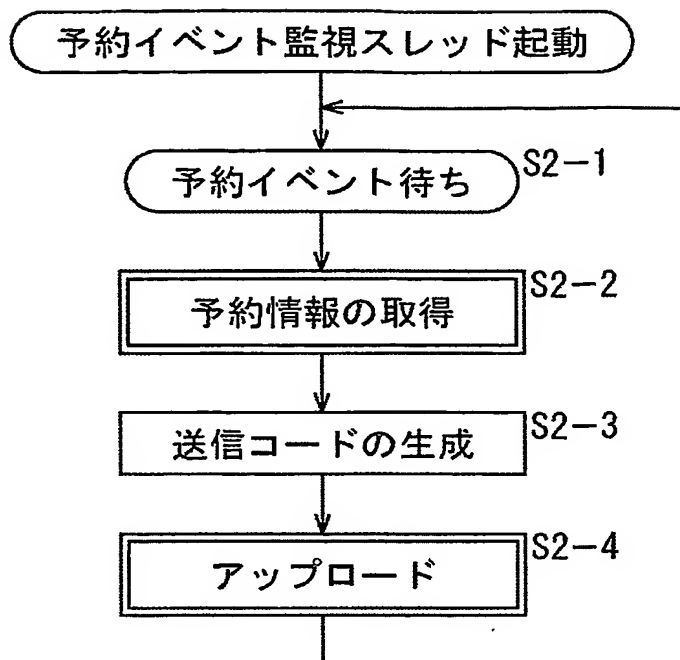
【図13】

図13



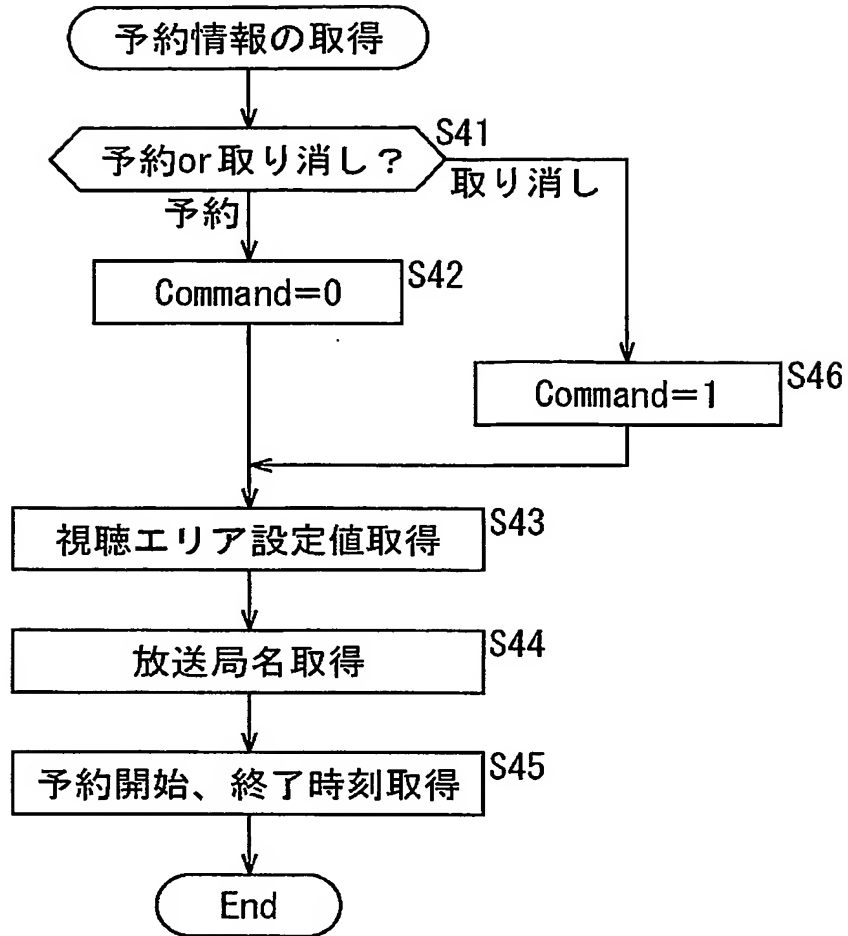
【図14】

図14



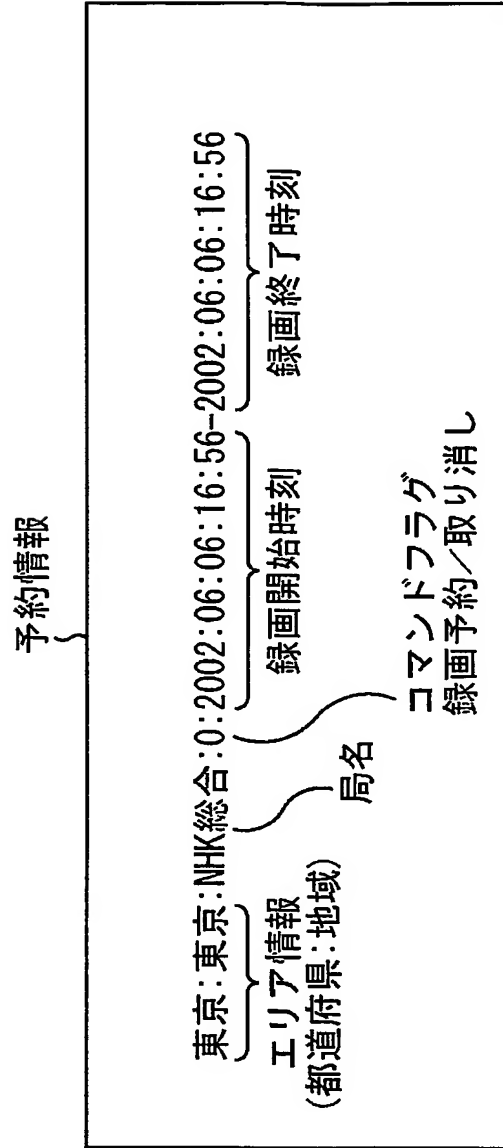
【図15】

図15



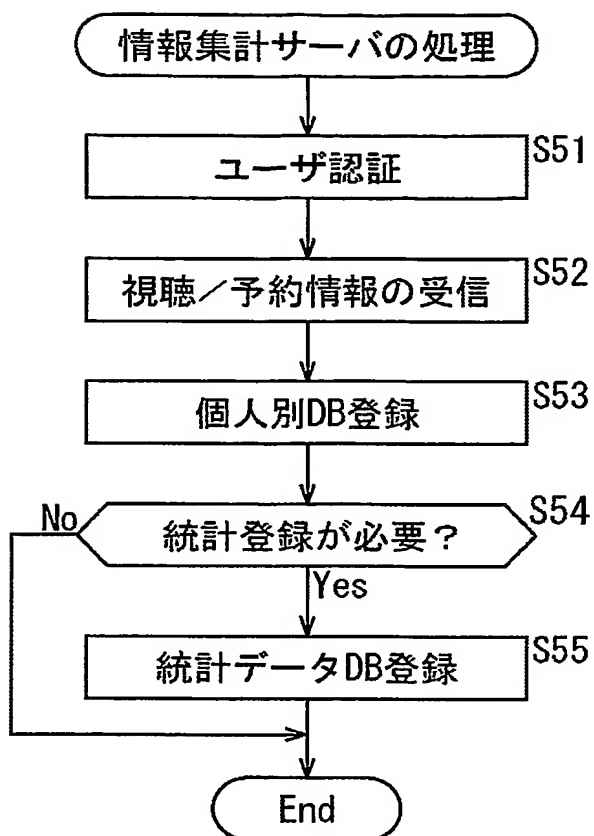
【図16】

図16



【図17】

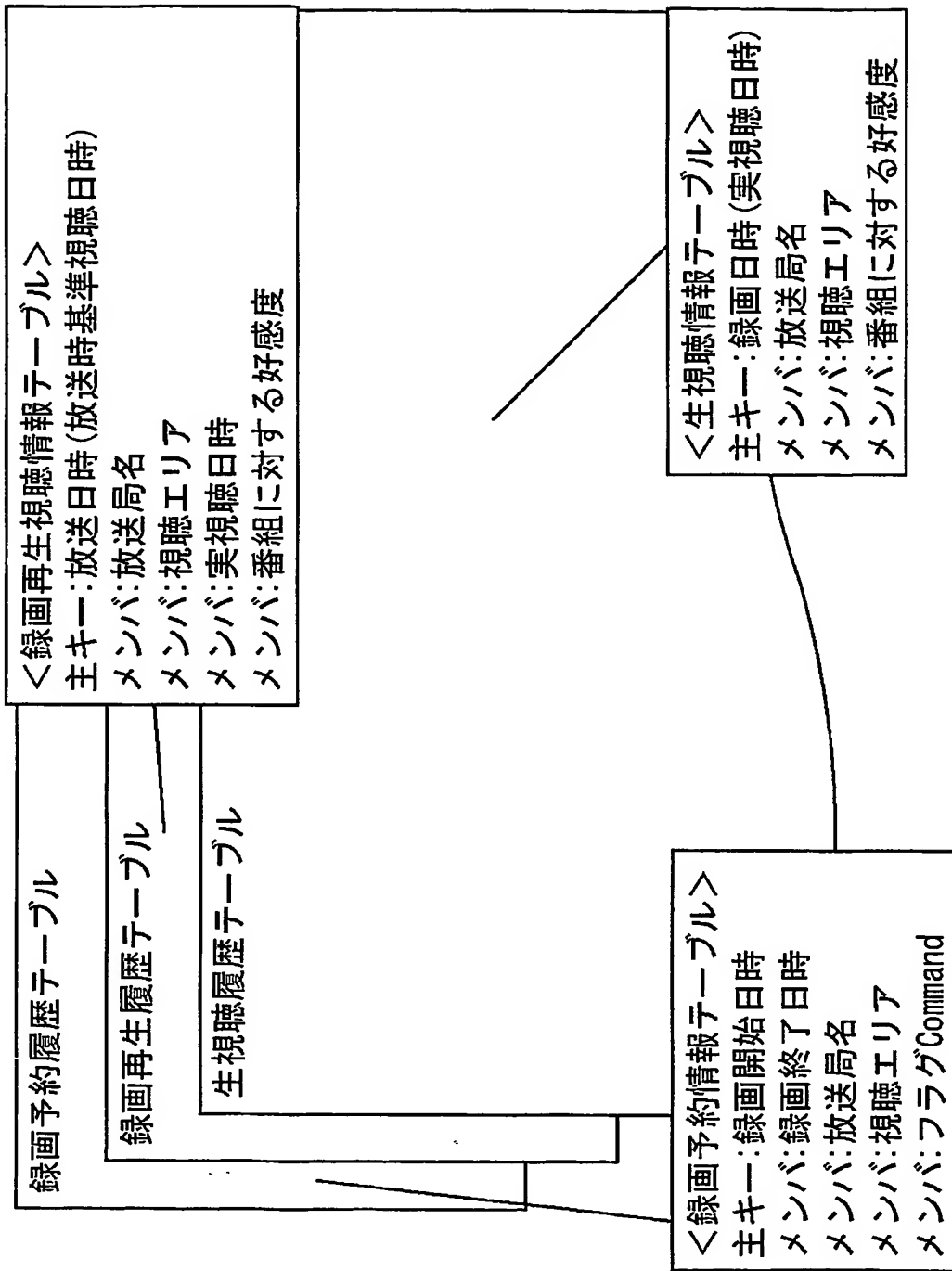
図17



【図18】

図18

アクション履歴データ



【図19】

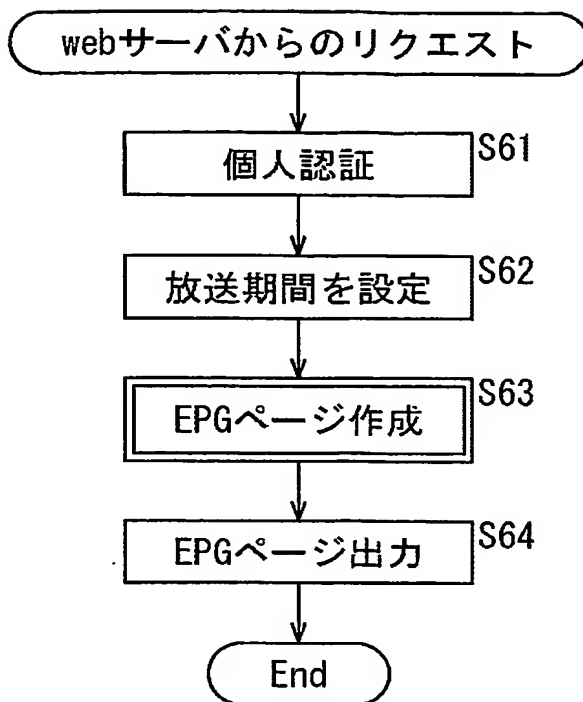
図19

統計データテーブル									
録画予約者情報テーブル									
録画再生視聴者情報テーブル									
生視聴者情報テーブル									
TIME ZONE									
13:30:00->13:30:59	522	132	654	0	0	0	<div>＜録画再生視聴情報テーブル＞ 主キー:放送日時(放送時基準視聴日時) メンバ:放送局ごとの録画再生視聴者数 メンバ:放送局別の男女別録画再生視聴者 メンバ:放送局別の各年齢層別録画再生視聴者 メンバ:録画番組好感度の平均値 メンバ:放送後任意の時間経過した後再生した人の人数 (1日以内、1週間以内、1ヶ月以内、1年以内、等をそれぞれ区別してカウント)</div>		
13:31:00->13:31:59	524	134	648	0	0	0			
13:32:00->13:32:59	520	133	630	0	0	0			
13:33:00->13:33:59	530	136	633	0	0	0			
13:34:00->13:34:59	540	133	635	0	0	0			
13:35:00->13:35:59	530	134	630	0	0	0			
13:36:00->13:36:59							<div>＜生視聴情報テーブル＞ 主キー:放送日時(実視聴日時) メンバ:放送局ごとの視聴者数 メンバ:放送局ごとに男女別視聴者数 メンバ:放送局ごとに各年齢層別視聴者数 メンバ:ライブ番組好感度の平均値</div>		
							<div>＜録画予約情報テーブル＞ 主キー:放送日時(録画開始日時) メンバ:放送局ごとの予約者数 メンバ:放送局別の男女別予約者数 メンバ:放送局別の各年齢層別予約者数 (メンバ:どれくらい前に予約した?)</div>		

セル

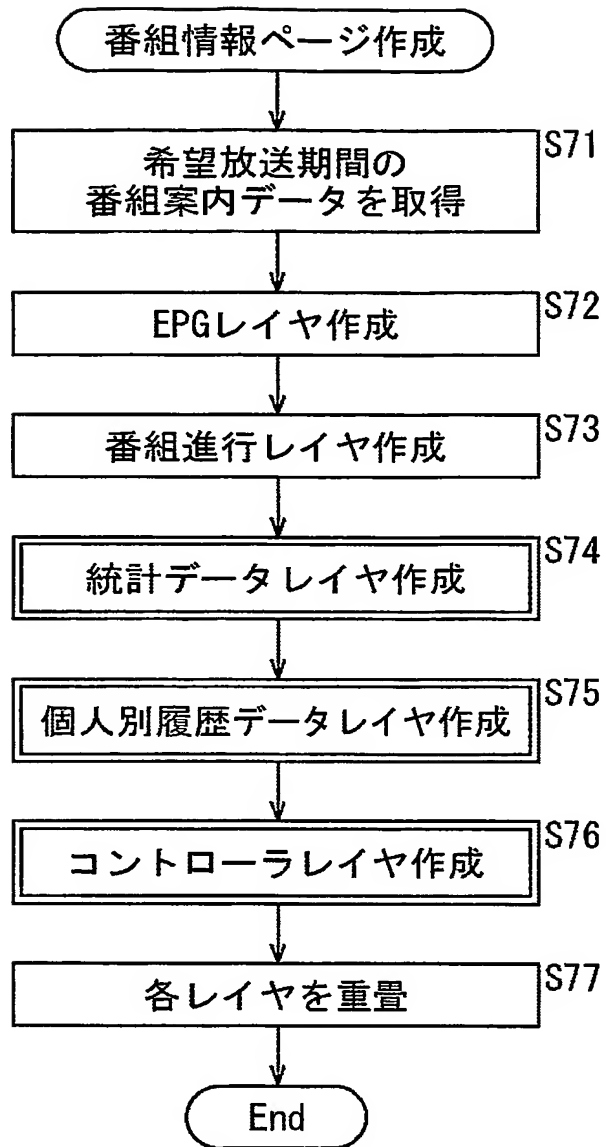
【図 20】

図20



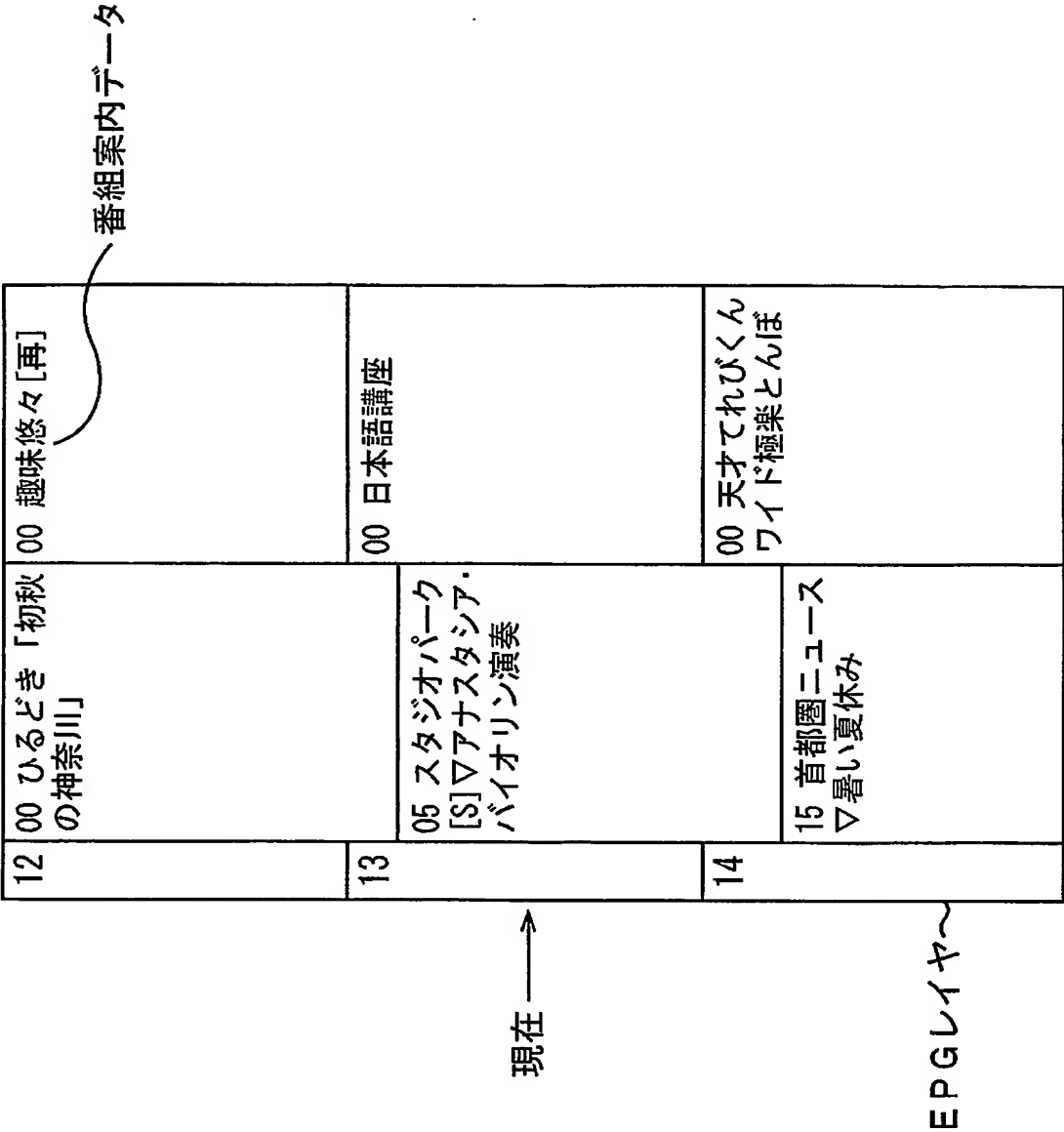
【図 21】

図21



【図 2 2】

図22



【图 2 3】

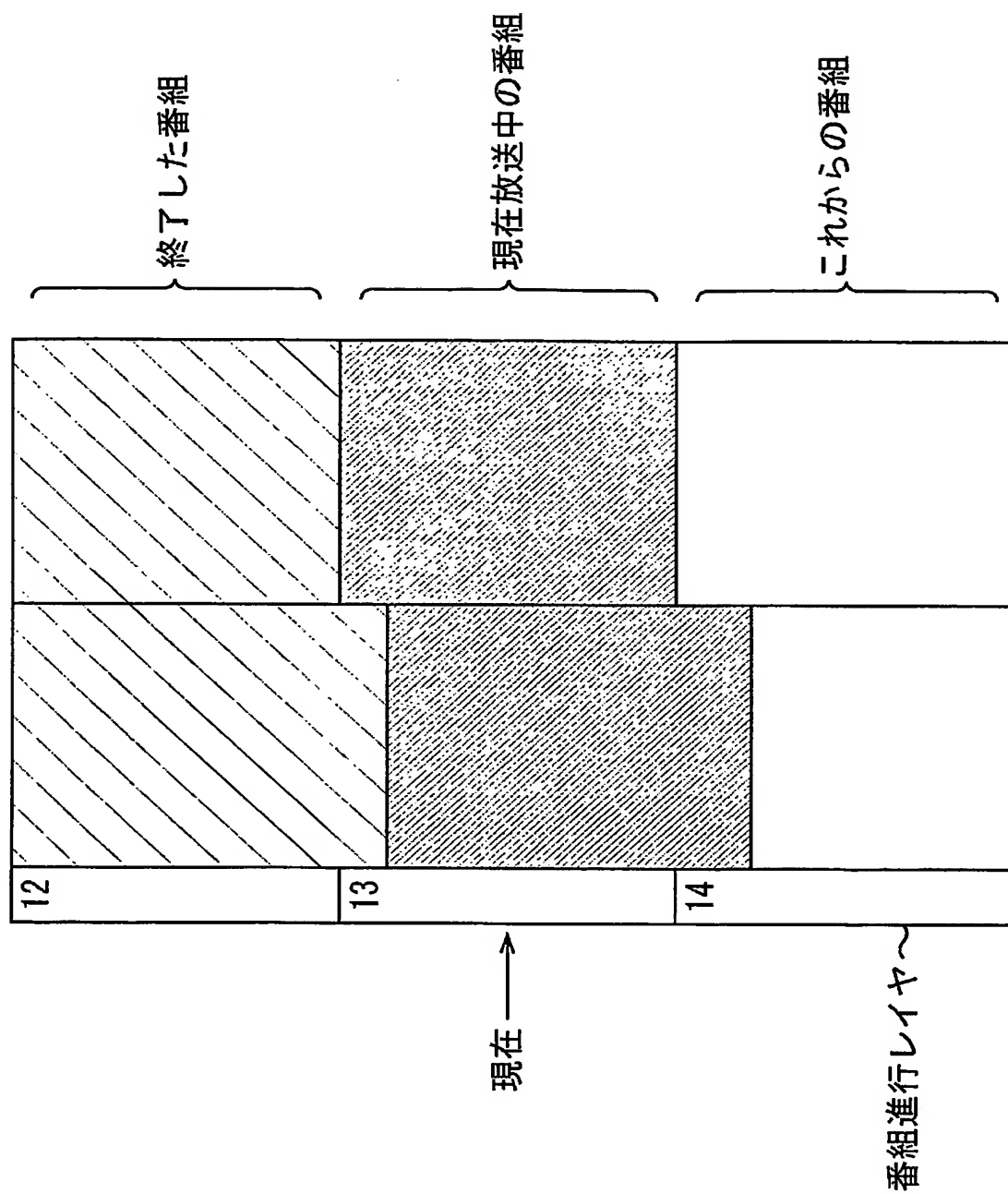
图 23

[illegible]

現在

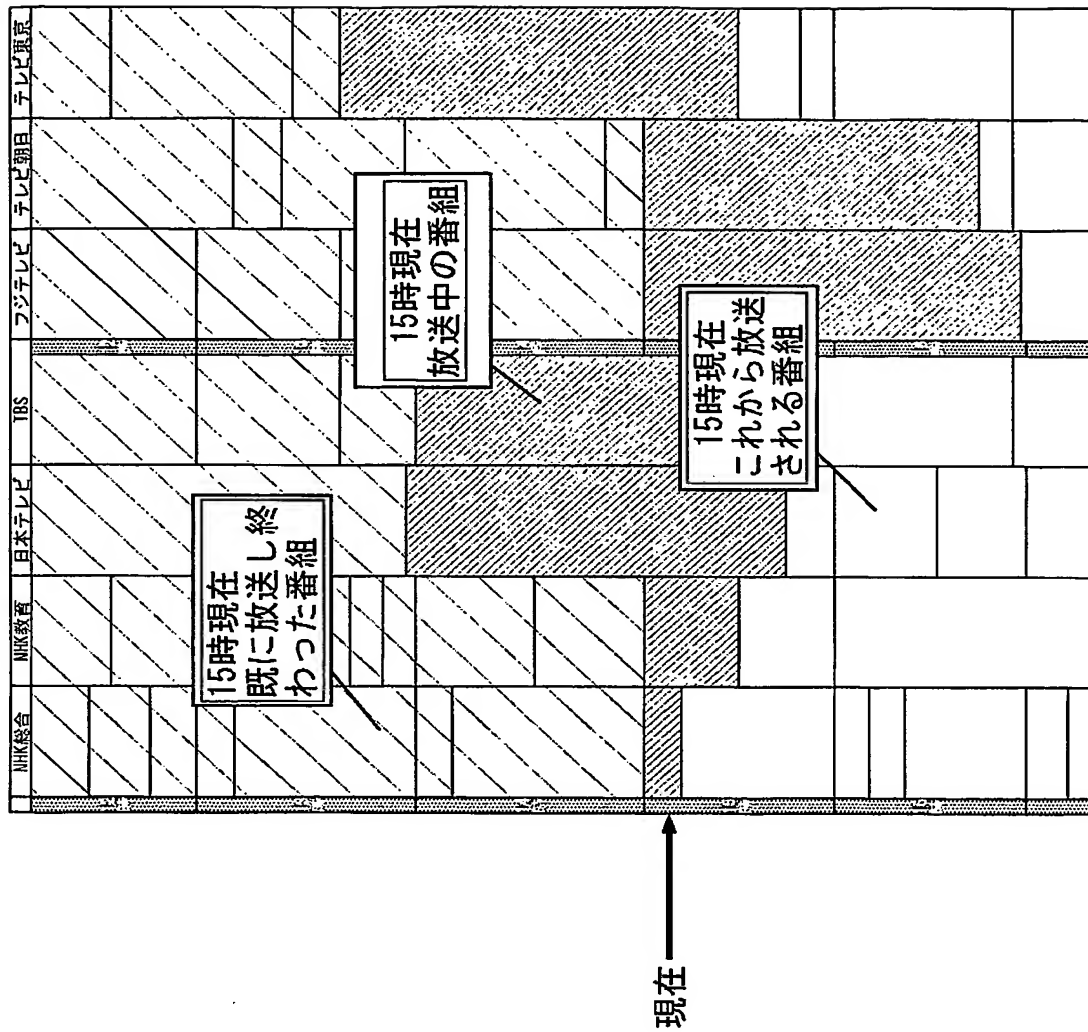
【図 24】

図24



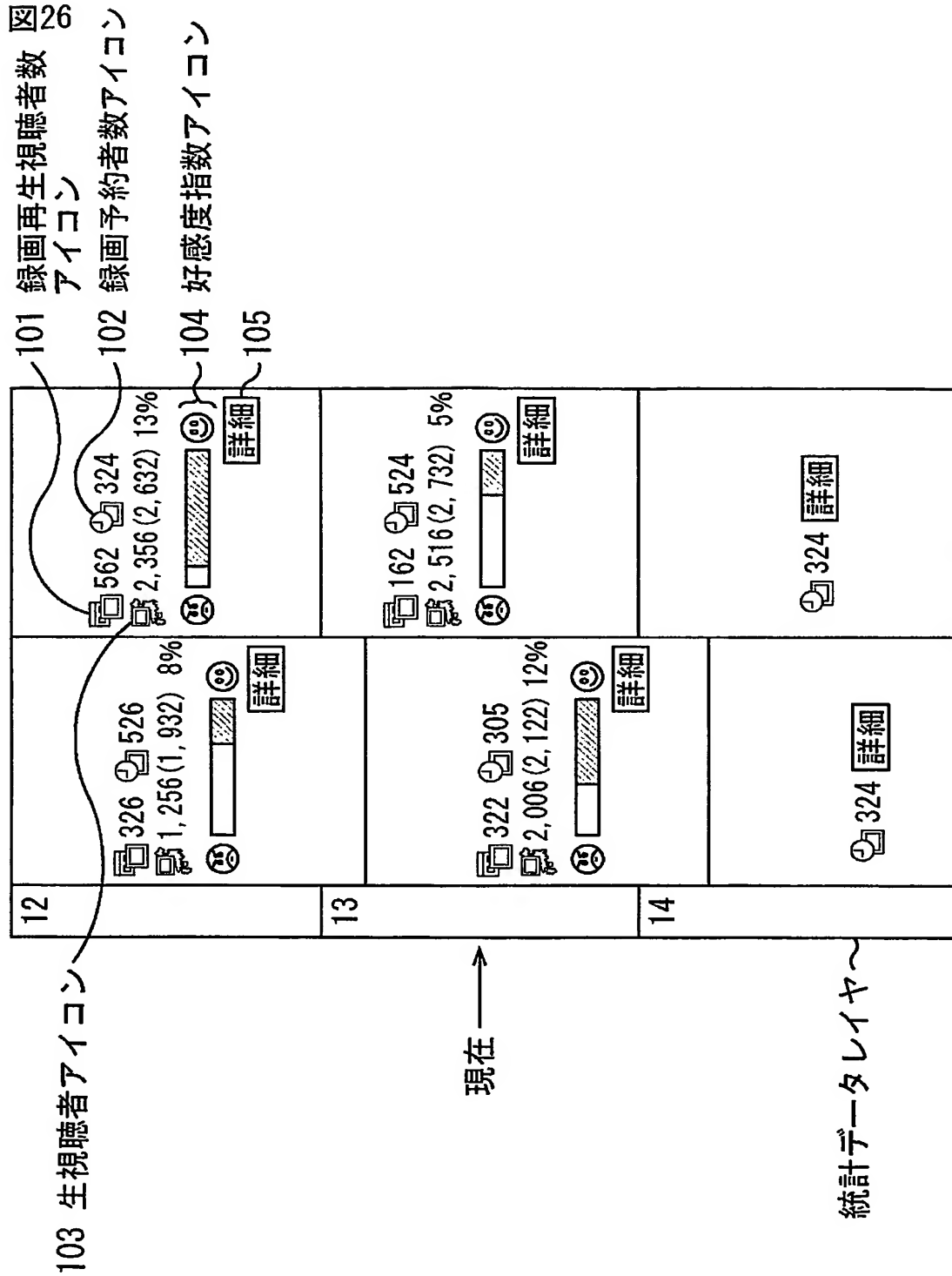
【図 25】

図25



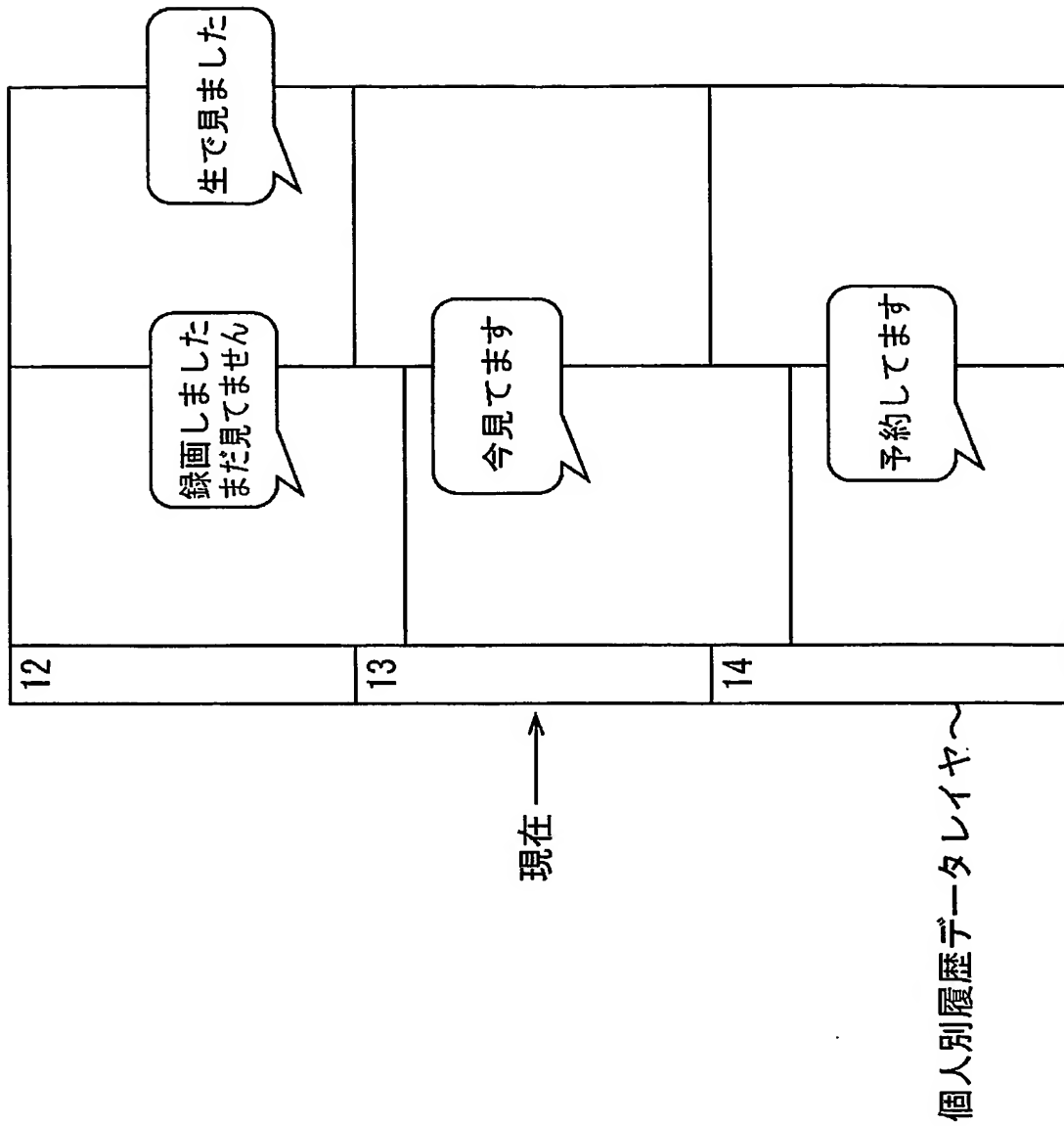
【図 26】

図 26



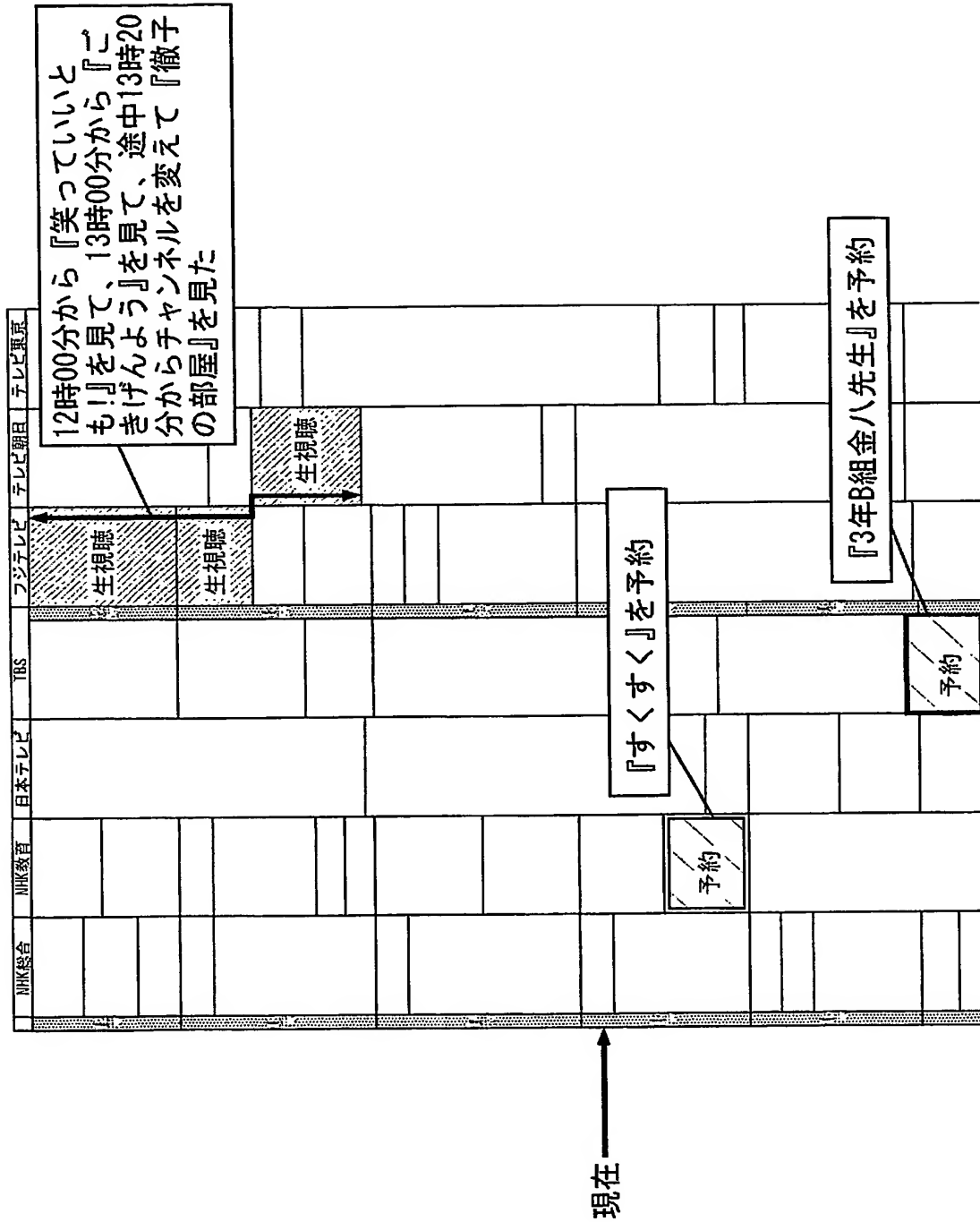
【図 28】

図28



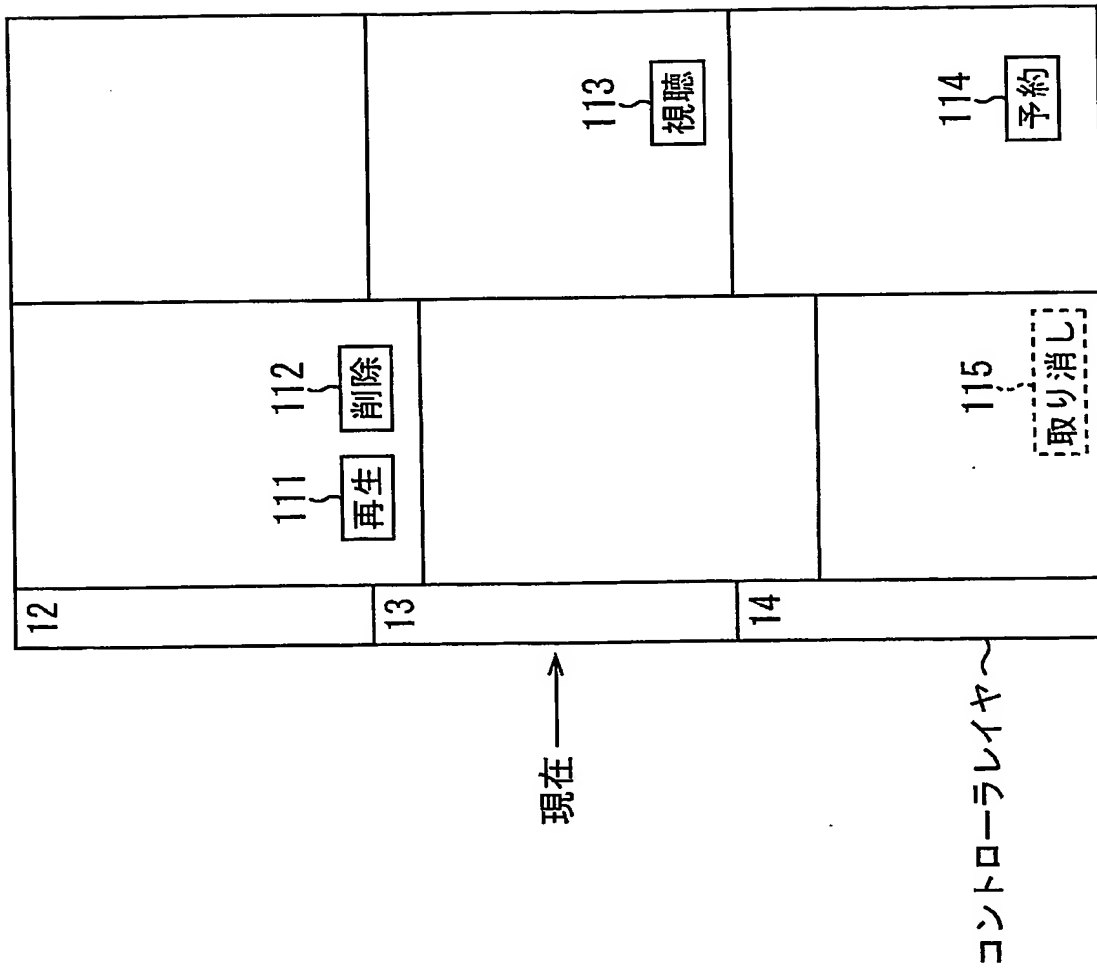
【図 29】

図29



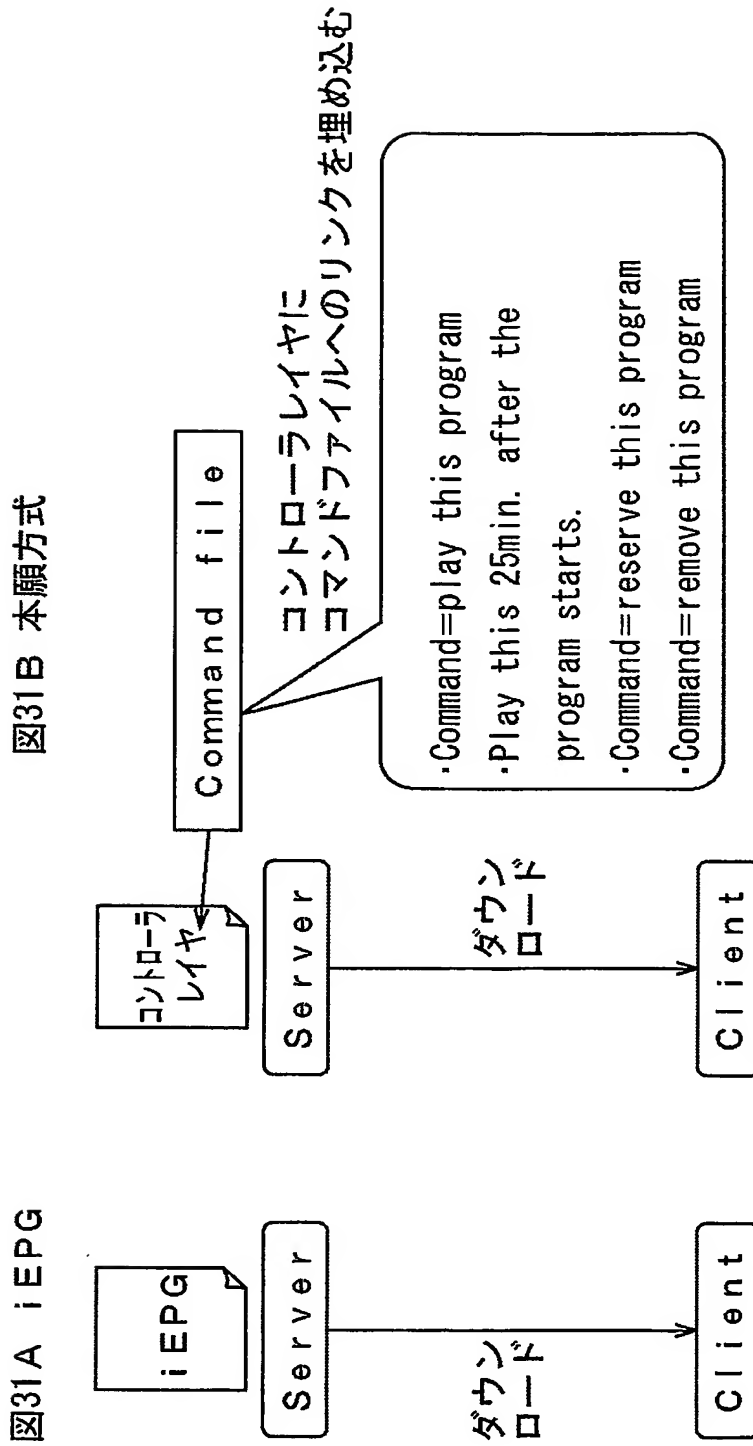
【図30】

図30



【図 31】

図31



【図 3 2】

図32

[illegible]

現在

图33

統計データレイヤ

個人別
履歴データ
レイヤ

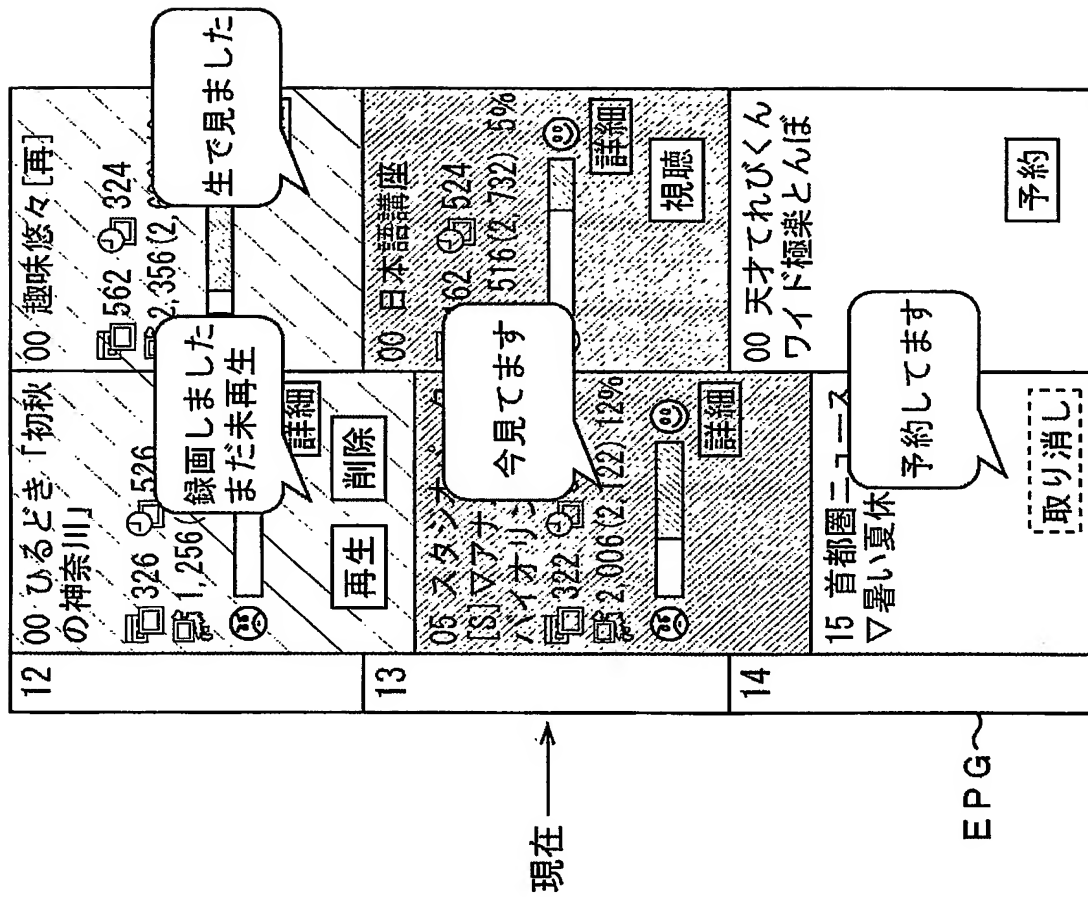
EPGLイヤ

コントローラ
レイヤ

[illegible]

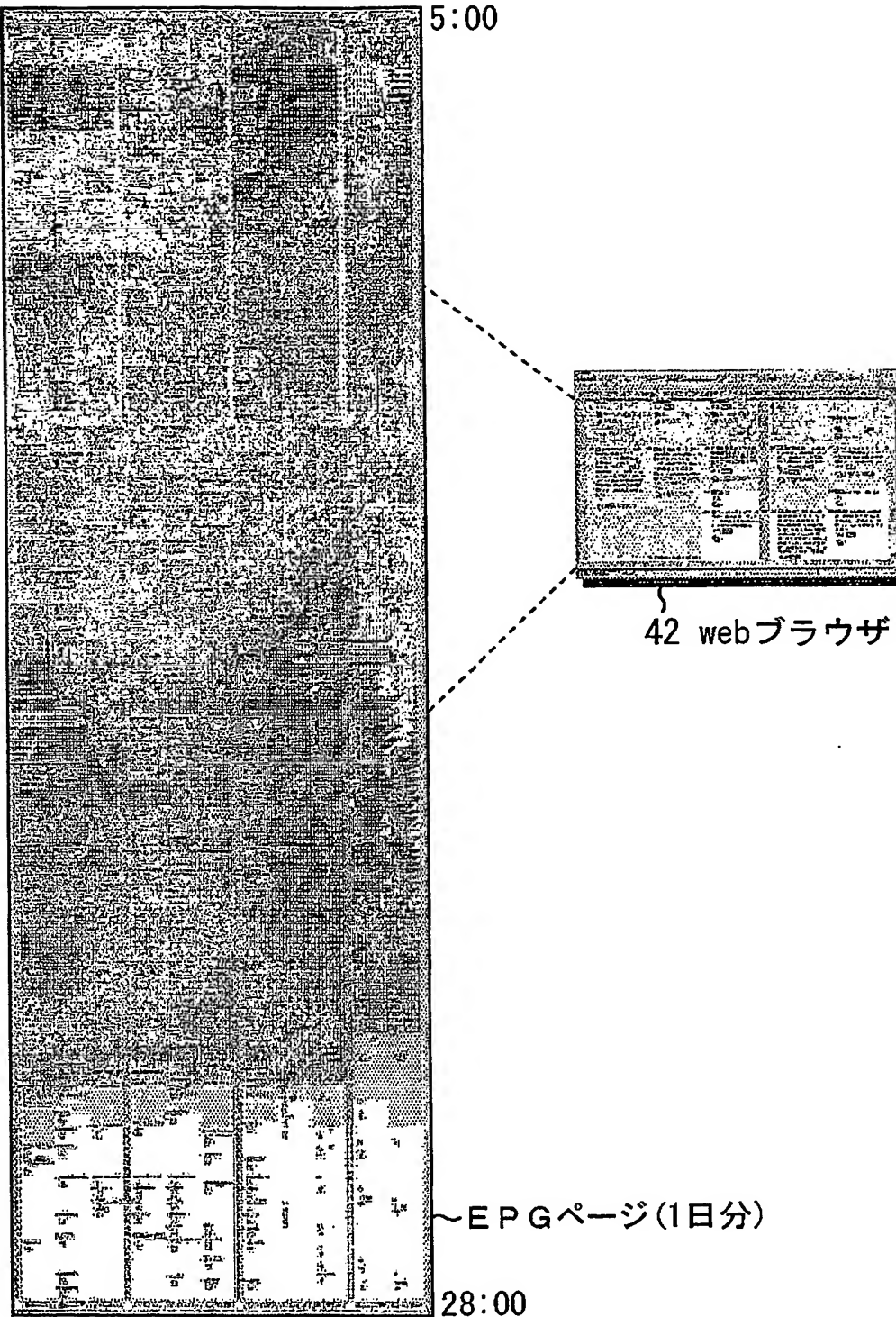
【図 34】

図34



【図35】

図35



【図 36】

図36

```
Content-type : application/x-tv-program-info : charset=shift_jis
version : 1
command : Command=reserve this program
station : 大日本テレビ
year : 1999
month : 04
date : 06
start : 21:00
end : 22:00
program-title : 火曜サスペンスクイズ
program-subtitle : 犯人は誰?
```

コマンドファイル

【図 3 7】

図37

11, 0, 0, 11,	MHK総合、MHK総合、MHK
13, 0, 0, 13,	MHK教育、MHK教育、MHK2
14, 0, 0, 14,	大日本テレビ、大日本テレビ、大日本テレビ放送網、
	DTV
15, 0, 0, 15,	スコープ、スコープ
16, 0, 0, 16,	横浜放送、横浜放送、YBSテレビ、YBS
18, 0, 0, 18,	Fテレビ、Fテレビ、Fテレビジョン、Fテレビジョン

}チャンネル変換ファイル

【図 3 8】

図38

新規予約・・・チャンネルと開始日時の設定		
予約録画のチャンネルと開始日時を設定します		
チャンネル	14ch 大日本テレビ ▼	
開始日	1999年4月6日 ▼	
開始時刻	21時 ▼	00分 ▼
<input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="次へ"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>		

【図 3 9】

図39

新規予約・・・終了時刻と録画モードの設定			
予約録画の終了時刻と録画モードを設定します			
チャンネル	14ch	大日本テレビ	
開始時刻	1999年4月6日	21時00分	
終了時刻	1999年4月6日	22時	00分
録画モード	標準		
録画時間：		1時間00分	
ディスク使用量：		2574.92MB	
ディスク空き容量：		9999.00MB	
キャンセル	戻る	次へ	ヘルプ

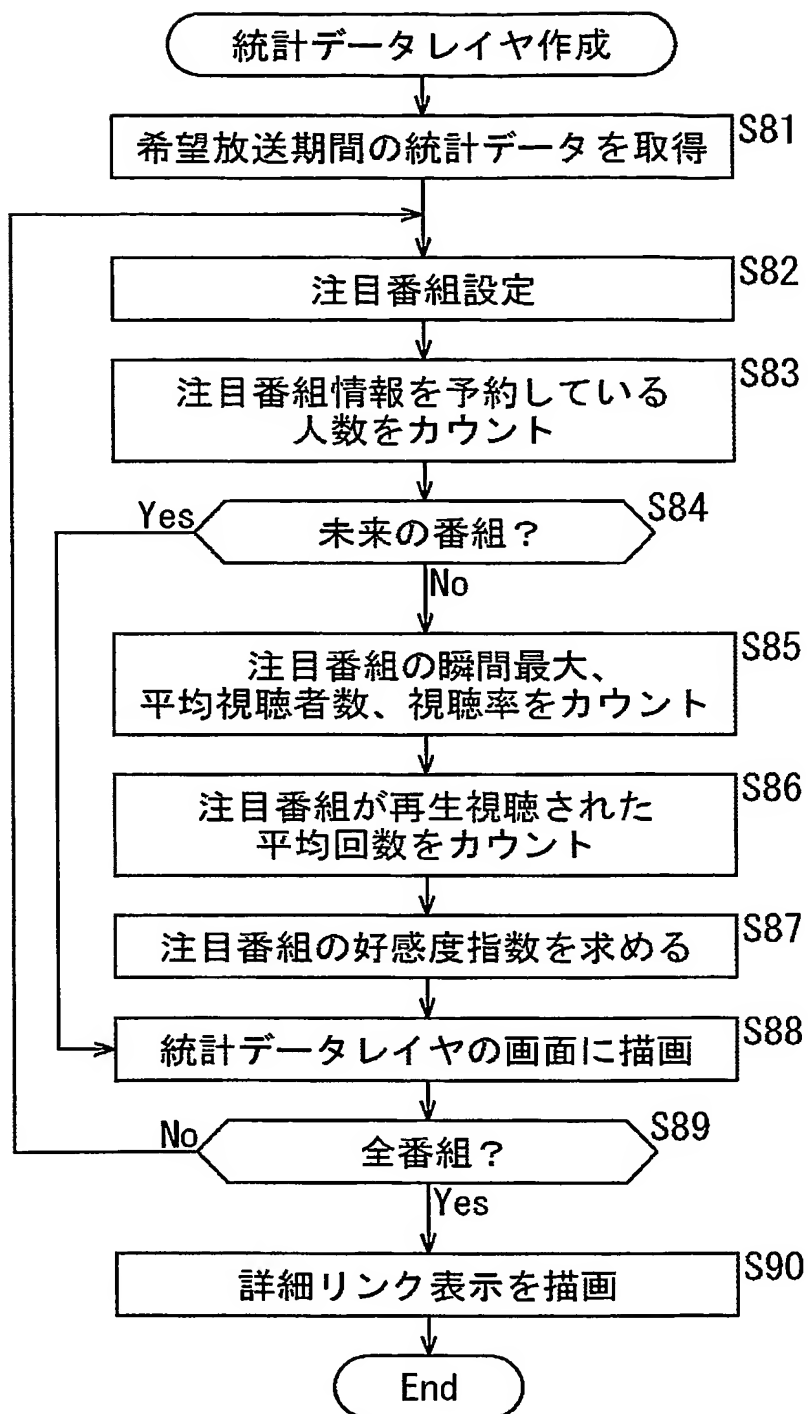
【図 40】

図40

新規予約・・・設定の確認			
以下の設定で予約録画をします。よろしいですか？			
開始時刻：	1999年4月6日21時00分		
終了時刻：	1999年4月6日22時00分		
チャンネル：	14ch 大日本テレビ		
録画モード：	標準		
定期的な予約：	1回		
コンテンツの有効期限：	なし		
コンテンツ名：	火曜サスペンスクイズ		
保存先ライブラリ：	一時保管		
メモ：			
キャンセル	戻る	完了	ヘルプ

【図 41】

図41



【図 4 2】

図42

	TIME ZONE	NHK総合
13:05-14:15 05 スタジオパーク [S]▽アナスタシア・ バイオリン演奏	13:30:00→13:30:59	526
	13:31:00→13:31:59	522
	13:32:00→13:32:59	524
	13:33:00→13:33:59	520
	13:34:00→13:34:59	530
	13:35:00→13:35:59	540
	13:36:00→13:36:59	560
	
	14:14:00→14:14:59	560

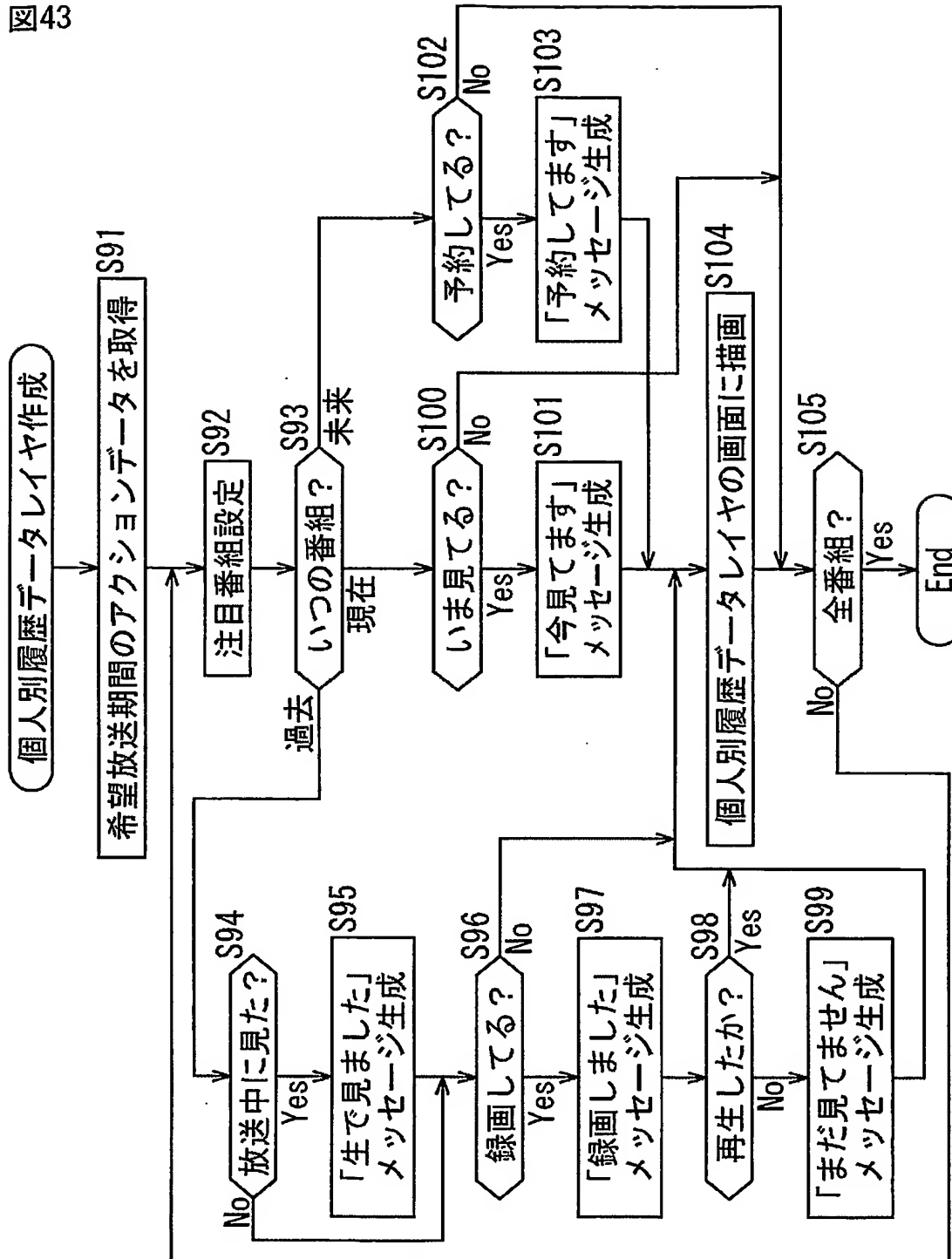
平均視聴者数
=526+522+524+520...../70

1分単位のタイムゾーンごとの
視聴者数がある場合、
70のタイムゾーンの
平均を求める。

注目番組

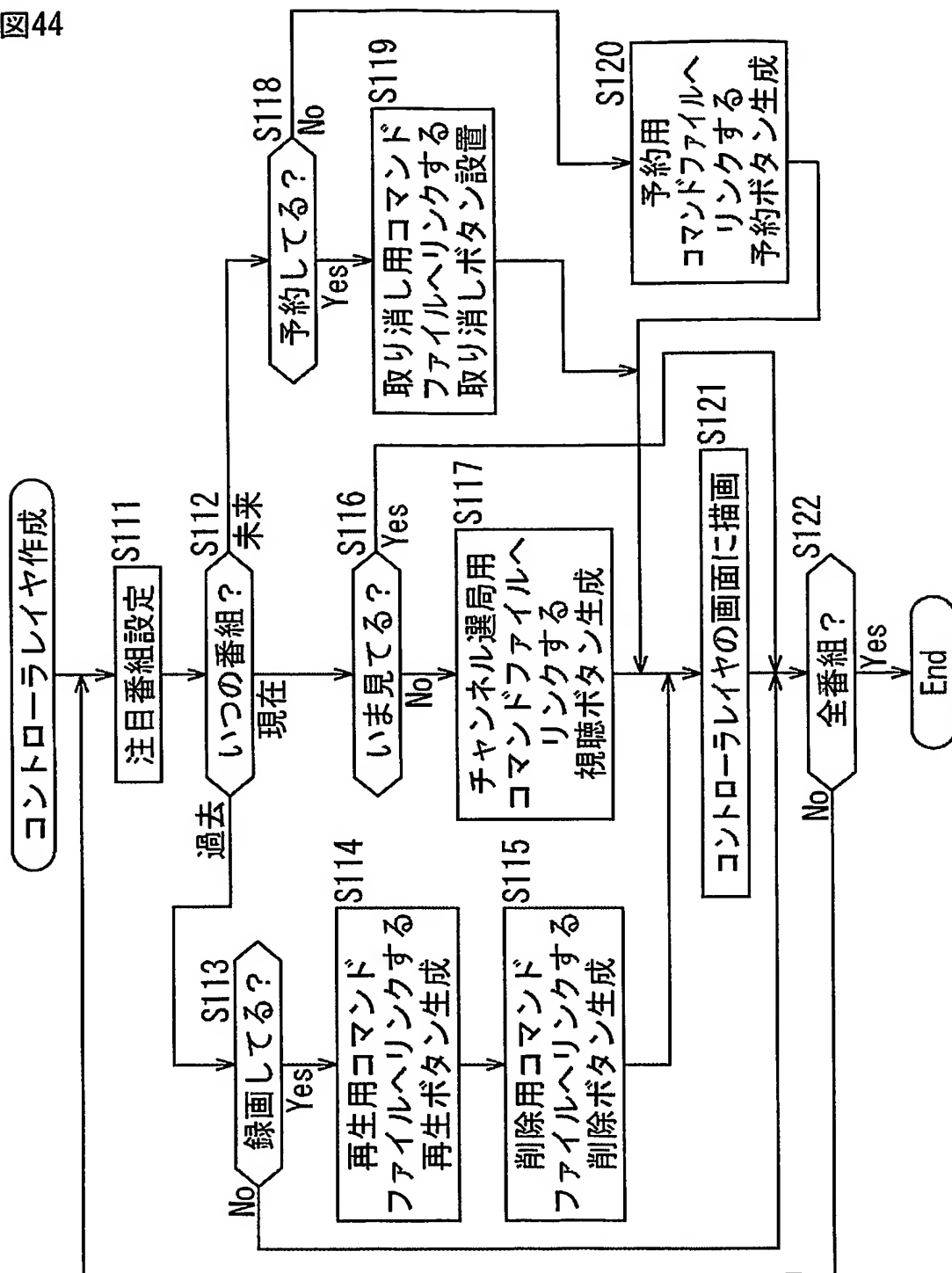
【図 43】

図43



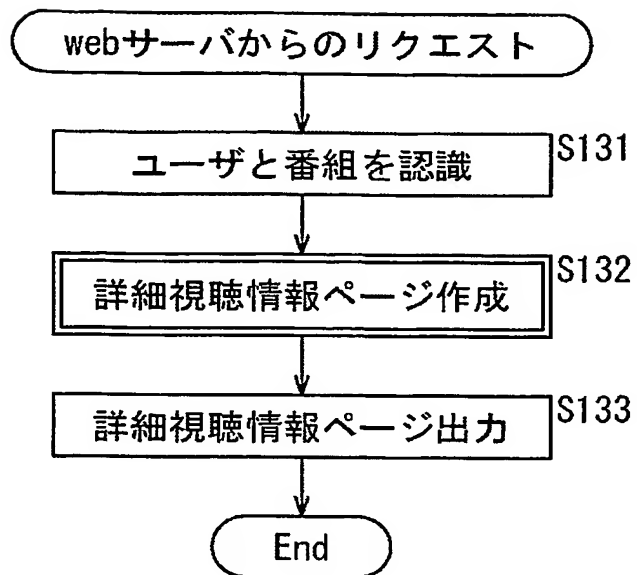
【図 44】

図44



【図 45】

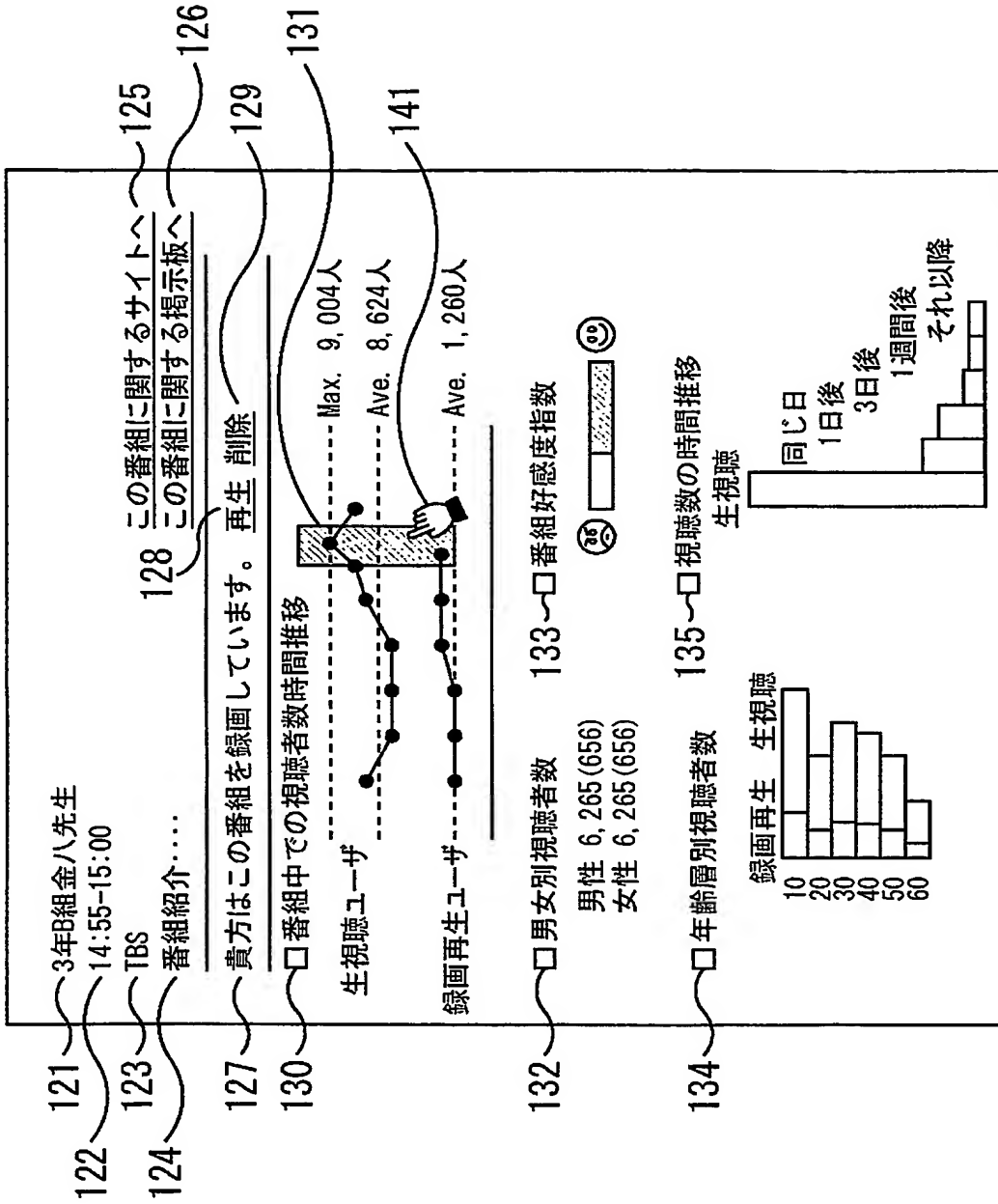
図45



【図 4 6】

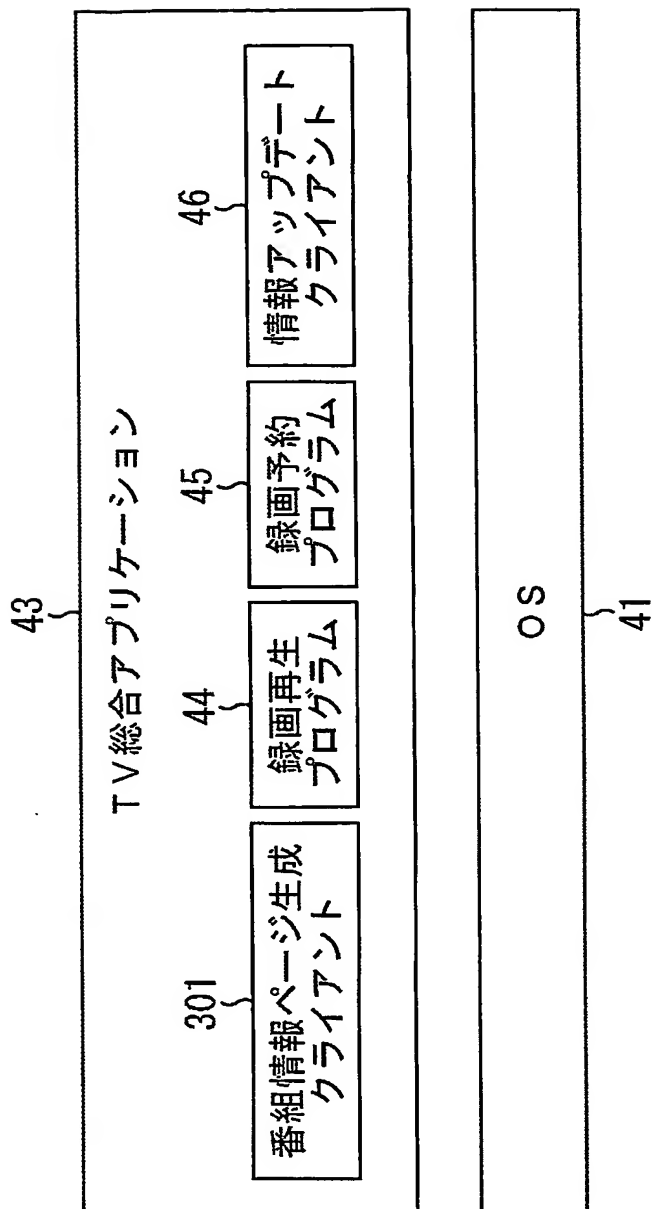
図46

詳細視聴情報ページ



【図 48】

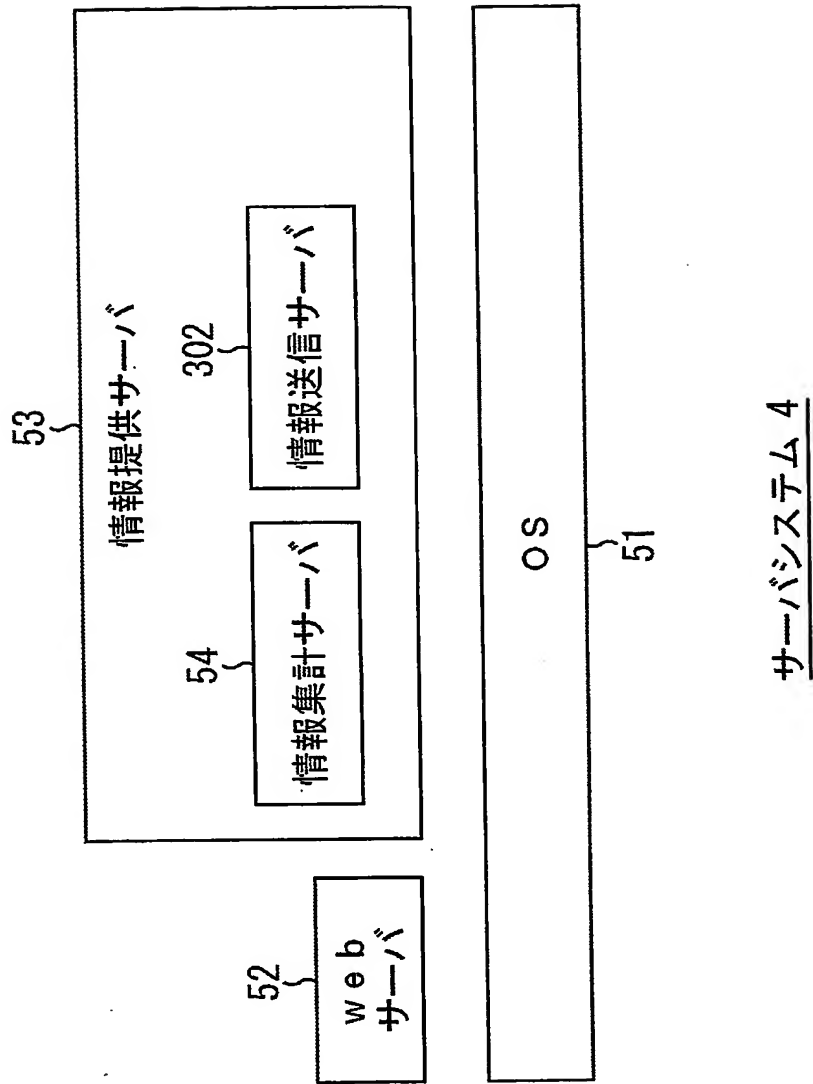
図48



ユーザ端末 2

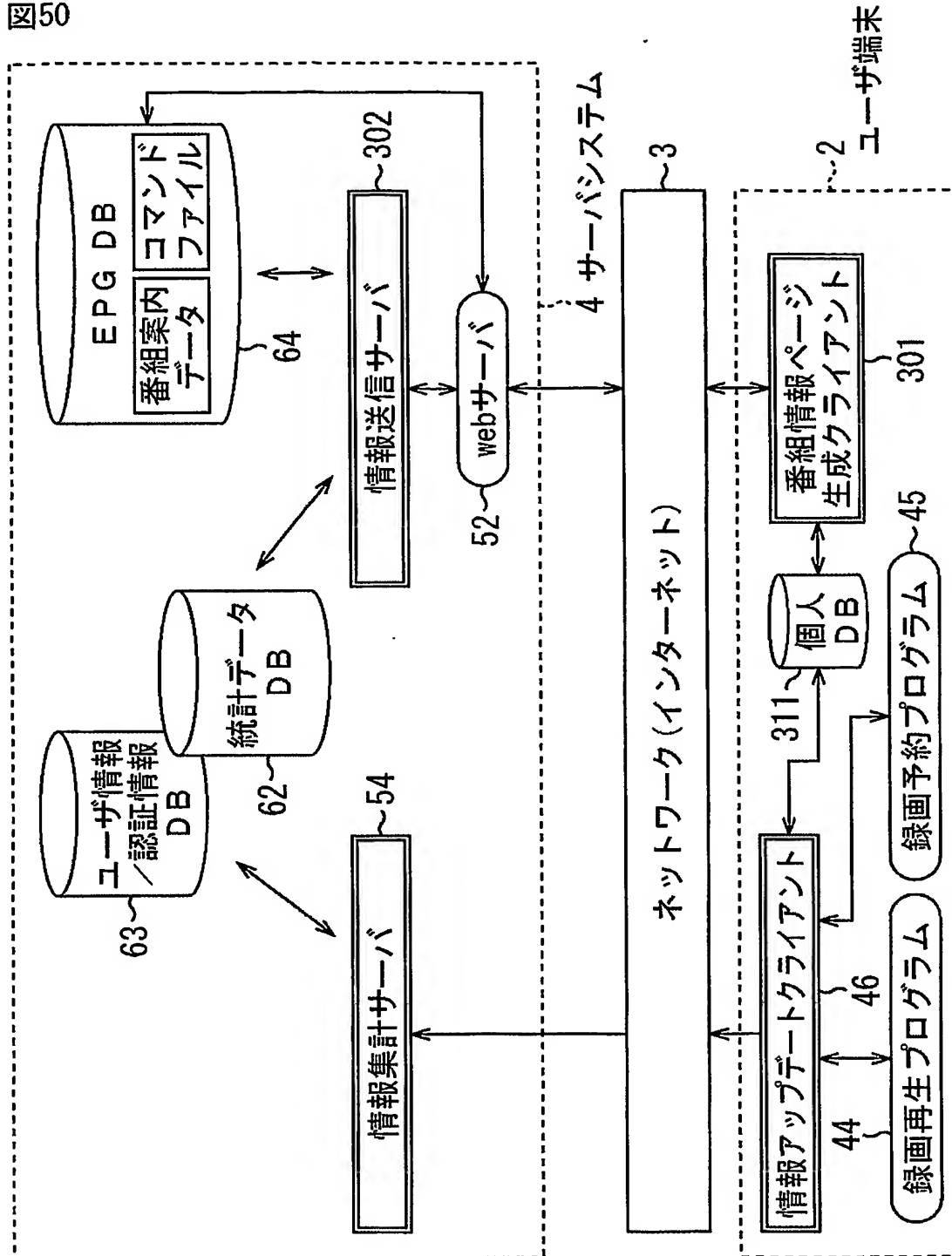
【図 49】

図49



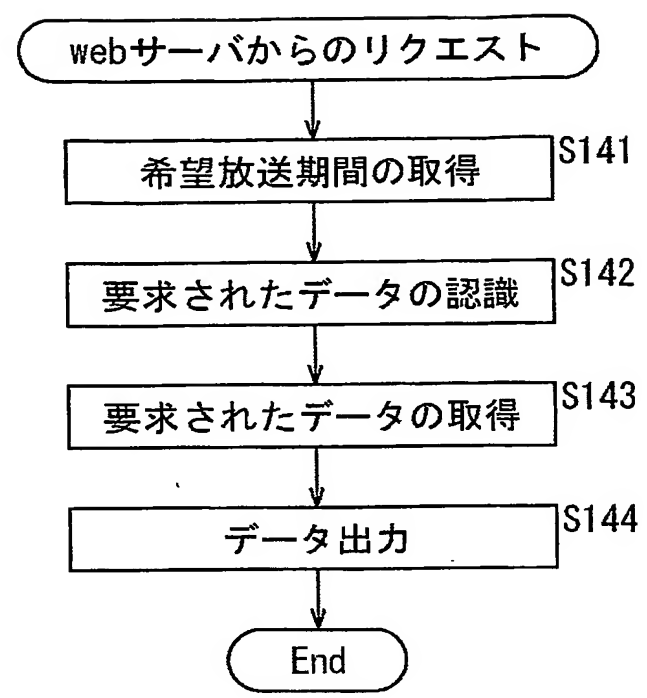
【図 50】

図50



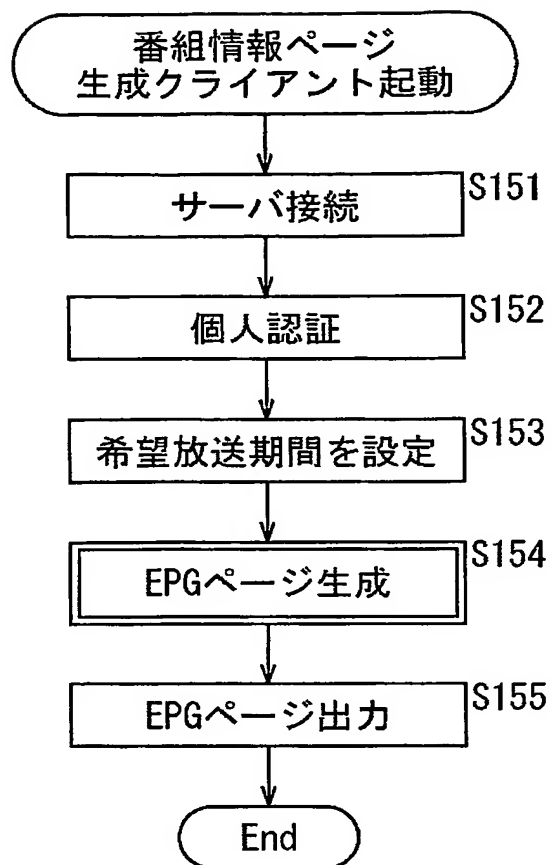
【図 5 1】

図51



【図 52】

図52



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 番組の視聴や録画を行う判断を、より一層容易にするユーザインタフェースとしてのEPGを提供する。

【解決手段】 ユーザ側からアップロードされた情報を集計することにより、番組を、その放送時間帯に視聴した人数、番組の、その放送時間帯における視聴率、番組の録画予約を行った人数、放送時間帯に録画された番組を再生して視聴した人数、または番組に対するユーザの感想を表す好感度などの統計データが求められ、その統計データと、番組を案内する番組案内データとを重畳したEPGページが作成される。

【選択図】 図34

特願 2 0 0 2 - 2 8 8 6 2 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 2 1 8 5]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 3 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号

氏 名

ソニー株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☒ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.